

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会芸術ワーキンググループ（第10回）の配付資料を掲載しました

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/113/siryo/mext_00010.html

記事ページ本文

現在位置

トップ

>

政策・審議会

>

審議会情報

>

中央教育審議会

>

初等中等教育分科会

>

教育課程部会 芸術ワーキンググループ

> 教育課程部会 芸術ワーキンググループ（第10回）配付資料

教育課程部会 芸術ワーキンググループ（第10回）配付資料

1．日時

令和8年6月22日（月曜日）09時30分～12時00分

2．場所

WEB会議と対面による会議を組み合わせた方式

3．配付資料

【議事次第】教育課程部会芸術ワーキンググループ（第10回）(PDF:78KB)

【資料1】芸術ワーキンググループ取りまとめ（案）(PDF:2.2MB)

【参考資料1】これまでの芸術ワーキンググループにおける主な意見 (PDF:1.5MB)

【参考資料2-1】令和6年度 高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（音楽）【暫定版】
(PDF:1.1MB)

【参考資料2-2】令和6年度 高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（美術）【暫定版】
(PDF:1.5MB)

【参考資料2-3】令和6年度 高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（工芸）【暫定版】
(PDF:1.6MB)

【参考資料2-4】令和6年度 高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（書道）【暫定版】
(PDF:1.2MB)

【参考資料3】教育課程部会芸術ワーキンググループ委員名簿 (PDF:108KB)

PDF形式のファイルを御覧いただく場合には、Adobe Acrobat Readerが必要な場合があります。

Adobe Acrobat Readerは開発元のWebページにて、無償でダウンロード可能です。

ページの先頭に戻る

文部科学省ホームページトップへ

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
芸術ワーキンググループ（第10回）議事次第

1. 日 時 令和8年6月22日（月） 9：30～12：00

2. 場 所 文部科学省東館5F6会議室

※ウェブ会議と対面による会議を組み合わせた方式

3. 議 題

（1）芸術ワーキンググループ取りまとめ（案）について

（2）その他

4. 配付資料

資料1 芸術ワーキンググループ取りまとめ（案）

参考資料1 これまでの芸術ワーキンググループにおける主な意見

参考資料2-1 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（音楽）【暫定版】

参考資料2-2 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（美術）【暫定版】

参考資料2-3 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（工芸）【暫定版】

参考資料2-4 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査の結果について（書道）【暫定版】

参考資料3 教育課程部会芸術ワーキンググループ委員名簿

芸術WG取りまとめ（案）

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

現行学習指導要領の考え方

- 芸術系教科・科目においては、表現及び鑑賞の活動を通じ、表現及び鑑賞の基礎的な能力、芸術を愛好する心情や芸術に関する感性や、豊かな情操などの育成を図ることとしている
- 現行の学習指導要領においては、
 - 「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」などを規定
 - (1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等、の三つの柱で目標や内容を整理することで、芸術系教科・科目で育成を目指す資質・能力の明確化を図り、特に、身体を通して、知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくことを重視し資質・能力を整理

これまでの成果

- これらの改善を踏まえ、芸術系教科・科目においては、以下のように資質・能力の育成を意識した授業改善の取組が着実に進んでいる
 - <音楽>
 - 音楽を聴いて捉えた特徴について理解したり、音楽を形づくっている要素と関わらせて言葉で表したりすることなどに関する指導
 - <図画工作、美術、工芸>
 - 児童生徒が感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら、楽しく心豊かな生活などを創造しようとするに関する指導
 - <書道>
 - 生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりについて考え、書を生活や社会の中でどのように生かすかを考えたり判断したりすることに関する指導

(2) 現状の課題

芸術系教科・科目の意義や特性を踏まえた学びの充実

- AIの進化やグローバル化、知識基盤社会への移行に伴い、正解のない問いや予測困難な課題に対処できる力、身体性を基本とする人間の本

来的な能力としての技能について、芸術系教科・科目での育成が一層求められている

- 芸術系教科・科目を学ぶ意義について、児童生徒が十分に実感できている状況には至っていないと考えられる
- 芸術系教科・科目においては、思いや考えを身体を用いて具現化し、新たなことやものをつくりだしていくという児童生徒の学びの過程を一体的に捉えられるよう、目標等に明確に整理していくことが重要である

学習指導要領実施上の課題

- 各教科・科目において、学習指導要領実施状況調査の結果や学校現場における実態等から、例えば、以下の課題がある

<音楽>

- 表現を工夫する場面で、思いや意図（表現意図）を言語化することに留まり、それを音楽で表現するための技能の習得が一体的に行われていない。このため、技能を活用して思いや意図を歌唱や演奏などで表すことや、表現を深めていくことが十分にできていない（表現）
- 根拠を明確にしながらいや意図（表現意図）をもち、技能の習得や活用によって豊かな音楽表現の能力を身に付けるとともに、音や音楽の新たな価値を見いだしていくことに課題（表現）
- 音楽表現の共通性や固有性などについて考えたことを根拠としながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことに課題（中、高 鑑賞）

<図画工作、美術、工芸>

- 発想や構想をする段階を「思考力、判断力、表現力等」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けているが、構想することと工夫して表すことは連続している場合が多く、両者の違いが分かりにくいという側面がある（表現）
- 結果としての作品のみに着目するのではなく、発想や構想をしたり、意図に応じ創造的に表したりする過程を重視した指導への改善が課題（表現）
- 作品などの表現の意図や特徴、創造的な工夫などについて根拠をもって感じ取ったり考えたりできるようにすることへの改善が課題（鑑賞）

<書道>

- 身体性を伴いながら表現活動の中で発揮したり、構想・工夫する中で考えや思いを言語化したりするなど、表現に係る資質・能力について「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」との関係が不明瞭で、学びの深まりを捉えにくい面がある（表現）

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

- 創作の指導において、自己との関わりを通して作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、表現の意図を自ら想起し創造的に構想・工夫することに課題（表現）
- 古典や名筆、名品を鑑賞する機会の一層の充実や、鑑賞を通して身に付けた資質・能力を表現に関連付けることに課題（表現、鑑賞）

（3）改善の方向性

文化芸術教育への期待

- 文化芸術は人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉となるものである
- 文化芸術を特別なものや限られた人のものではなく、日々の生活や社会の中で全ての人の生きることと関わりながら息づく、人間固有の本来的営みとして捉えることとし、以下のことが期待されている
 - 芸術が生まれてくる背景や歴史には、その基となる文化や社会があることを捉え、グローバルな視野の下で多様性を尊重し、様々な文化を理解しながら芸術と自分との関わりを考えていくこと
 - 感性と知性の両輪を働かせ、心が動く体験を基盤に自分にとっての意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることや、情操を涵養することが重要。さらに、その意義を子供と教師が共有し、感性や想像力を大切にしたい資質・能力を育成していくこと
 - 身体性を重視した体験的な学びは芸術系教科・科目の中核であり、諸感覚を働かせて対象に向き合うことで、感情や感覚と結びついた深い理解となる。デジタル活用と併せて体験を重視し、教科等横断的な学びも位置付けることで、自分と芸術との関わりを感じながら学ぶことができるようにすること
 - 唯一の正解を求めるのではなく一人一人の特性を生かした学びを可能とし、多様性の包摂につなげていくことが重要。また、芸術によるコミュニケーションや探究を通して多様性を個人や社会の力に変え、ウェルビーイングへとつなげていくことができる芸術系教科・科目の強みを生かしていくこと

- これからの変化の激しい社会においてこそ、異なる分野を連携・統合し新しいものを創造したり、現在の課題解決にとどまらず未来に向かって意味や価値を創出したりし、生活や社会を豊かにすることにつながる価値を実感できるようにしていくこと

総論【補足イメージ1：11ページ参照】

- 現行の成果や課題、文化芸術教育への期待を踏まえ、芸術系教科・科目を学ぶ意義を実感しながら学ぶことができるようにするために、目標及び見方・考え方、内容の改善に当たっては、以下の基本的な方向性とすべきである

- ① 捉えたり感じたりしたことを、要素や特徴※、背景にある文化などとの関わりで理解したり、思考、判断、表現したりできるようにする
※音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素など
- ② 表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことと、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現することを、一連の過程として重視する
- ③ 表現及び鑑賞の学習において、唯一の答えに導くのではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるようにする
- ④ 感じたことや工夫したことを伝え合うなどの言語活動等や他者とともに協働する学習を通じて、他者に共感し感じ方や考え方を深めたり、多様な視点で考えたりすることができるようにする
- ⑤ 生活や社会の中の芸術や芸術文化などに関わり、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることなどを重視し、豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことができるようにする

2. 目標及び見方・考え方のあり方

(1) 目標のあり方

改善の方向性【補足イメージ2：12～17ページ参照】

- 芸術系教科・科目の目標の柱書について、表現及び鑑賞の活動（義務教育段階）や、芸術の幅広い活動（高等学校段階）を固有の学習過程とし、教科・科目の特性や発達段階を踏まえ、現行の目標に示されている趣旨は、引き続き重要
- 芸術系教科・科目の資質・能力の3つの柱に係る目標のあり方について、1（3）の改善の方向性を踏まえ以下の観点から整理する
 - 文化芸術教育への期待や芸術系教科・科目の課題を踏まえ、学習指導要領の構造化による整理を勘案しつつ、現行の目標を基に改善
 - 「学びに向かう力、人間性等」について、自ら進んで対象や事象などに関わり、他者と協働して活動に取り組むことや、よりよい社会や幸福な人生に繋げていくことを重視する
- また、高等学校芸術科の教科目標は、以下の観点からの改善を図る
 - 「知識及び技能」について、社会における芸術分野との関連を重視するとともに、幅広く芸術文化を捉えることができるようにする
 - 「思考力、判断力、表現力等」について、作品のメッセージ性や文化的・歴史的意義、社会への影響力等を意識できるようにする
 - 「学びに向かう力、人間性等」について、心豊かな生活や活力ある社会の創造において芸術が果たす意義を明確にする

資質・能力の整理

- 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力について、自分の思いや考えをもつことと、思いや考えを基に身体を用いて表現することが一連の流れとして捉えにくい点に課題がある
- 課題を踏まえ、「知識及び技能」の習得と、「思考力、判断力、表現力等」を育むことを往還しながら、未知の状況に対応できる「思考力、判断力、表現力等」を育むことができるよう改善する
- あわせて、変化する状況等に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくことを重視する

<音楽>

- 表現の工夫が具体化され、学びの深まりにつながるよう、習得した技能を生かして工夫して表現するプロセス全体を「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すこと

<図画工作、美術、工芸>

- 表現の活動において学びの深まりを捉えることができるように、児童生徒が発想や構想をし、工夫して表現するまでのつながりを重視し、その過程を「思考力、判断力、表現力等」として示すこと

<書道>

- 生徒が構想・工夫する学習の過程を重視しつつ、学びの深まりを見通して書表現することができるように、構想・工夫して表現するプロセス全体を、「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すこと

(2) 見方・考え方のあり方【補足イメージ3：18ページ参照】

改善の方向性

- 今次改訂においては、「見方・考え方」を、資質・能力の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける学びの本質的な意義として整理
- 教師と児童生徒が卒業後までを視野に入れつつ共通の認識をもつことができるよう、教科の系統（音楽／図画工作・美術・工芸／書道）ごとに、小・中・高等学校を通して文言を統一する
- また、以下の方向性を踏まえ、見方・考え方について整理
 - 「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであることから、芸術系教科・科目に共通して重視することとし、教科の特性を踏まえ、感性や想像力を働かせることを示す
 - 教科固有の物事を捉える視点について、文化を継承し発展することを一層重視していくため、文化に関する視点を共通に含めつつ教科の特性を考慮して示す
 - 教科固有の考え方や判断の仕方について、芸術の本質的意義である創造性を重視し、意味や価値を追求することを示す

3. 資質・能力の構造化のポイント

資質・能力の構造化の考え方【補足イメージ4：19ページ参照】

- 系統的に育成する資質・能力を明確にするため、活動に即して「表現」及び「鑑賞」の2つの領域に整理する
- その上で、音楽、図画工作、美術、工芸では、教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、教師が想定しやすいと考えられる内容のまとまりとして以下により区分を設ける
 - 音楽について、従前の分野を踏襲しつつ、背景学問の系統を基に整理する。小学校では歌唱及び器楽で同一の曲を扱う場合に、学習のねらいを焦点化した指導や評価が行われにくいなどの課題がある。このため、表現領域において柔軟で効果的な指導を行うことができるよう、「歌唱・器楽」及び「音楽づくり」により整理する。中学校及び高等学校では、専門性の高まりを踏まえ整理する
 - 図画工作、美術、工芸について、表現や鑑賞の活動自体が目的化し、育成を目指す資質・能力が必ずしも明確でない指導が見られるなどの課題がある。このため、教科・科目の本質に関わりながら学習していくことができるよう、学びの方向性を明確にする観点から整理※する
※小学校図画工作「自分と材料や場所」「自分と表したいこと」、中学校美術「自分と美術」「生活や社会と美術」など
- また、芸術系教科・科目においては、次の点に特徴がある。
 - 知識及び技能を活用して、自分の思いや考えをもち、表現したり鑑賞したりする過程を往還しながら、資質・能力が育成されていく
 - 身体を用いながら対象や事象と関わり、知識や技能を自分のものとすることで、考え方や捉え方の豊かさにつながり学びの深まりが生まれる
- このような点は「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを支える構造に近いものとして考えることができ、かつ活動を繰り返しながら発達の段階に応じ系統的な内容を学習していくことから、「並行パターン」で構造化
- 高次の資質・能力について、小・中学校は、学校段階ごとに示す。高等学校は、音楽、美術、工芸、書道の各系統の学習内容の深化を図ることができるよう、それぞれのⅠ、Ⅱ、Ⅲで共通に示す

高次の資質・能力の考え方【補足イメージ5：20～27ページ参照】

- 高次の資質・能力のあり方について、1（3）の改善の方向性や2（1）における資質・能力の整理を踏まえつつ、授業改善に資するよう、以下の考え方により整理する。
- ＜音楽＞
 - 知覚・感受したことをよりどころにして思考し、自分や他者にとっての表現や鑑賞の意味や価値を実感しながら、音楽表現や鑑賞を深められるようにすること（総合的な発揮／表現、鑑賞）
 - 思いや意図をもって表現をするために必要な身体の使い方などの技能を身に付けられるようにすること（統合的な理解／表現）
 - 児童生徒の個性や多様性を大切にし、実感を伴って理解できるようにすること（統合的な理解／表現、鑑賞）
- ＜図画工作、美術、工芸＞
 - どのように思考、判断、表現していくのかを明確にしながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気付きを生かしたり、意図に応じたりして表現することができるようにすること（総合的な発揮／表現）
 - どのように思考、判断、表現していくのかを明確にしながら、自分や他者、生活や社会における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を深めることができるようにすること（総合的な発揮／鑑賞）
 - 知識及び技能を実感的に身に付け自分のものとし、場面や状況が変わっても働かせることができるようにすること（統合的な理解／表現、鑑賞）
- ＜書道＞
 - 表現された作品や書、その美に対して社会や自分にとっての意味や価値を見だし、自らの価値意識を形成していけるようにすること（総合的な発揮／表現）
 - 線質を追求したり、空間を捉えたり、呼吸を感じ取ったりするなど、身体機能や感覚を駆使し、目的や状況に応じて自在に活用できるようにすること（統合的な理解／表現）
 - 書の美に対する理解を基盤にしながら、作品や書のよさや美しさを読み取っていけるようにすること（統合的な理解／鑑賞）
- 補足イメージ5における高次の資質・能力の内容のイメージをもとに、とりまとめの趣旨を踏まえた分かりやすく使いやすい内容となるよう、引き続き検討する

4. 内容の改善のあり方①

(1) 内容の充実について

芸術系教科・科目の系統性に応じた内容のあり方

- 芸術系教科・科目の内容のあり方については、1 (3) の改善の方向性を踏まえるとともに、以下の観点から改善を図る

<共通>

- 児童生徒が思いや意図をもったり、発想や構想をし工夫したりして表現する過程を一連のものとして捉えられるよう、「思考力、判断力、表現力等」を整理すること
- その際に活用する「知識及び技能」について、知識は一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考えることにつながるものであるとともに、技能は諸感覚を働かせつつ身体性を伴って思いや考えを表現したり鑑賞したりすることにつながるものとして整理すること

<音楽>

- 児童生徒が技能の必要性を感じたり、実感を伴って理解したりすることにつながるよう、知識と技能の関係性を明確にし、統合して一文で示すこと
- 児童生徒一人一人の特性や関心に応じて、感性や身体感覚を働かせることを重視する観点から、〔共通事項〕の資質・能力における位置付けや文言を再整理すること
- 歌唱や器楽において、様々な歌い方や楽器に適應できる技能として身体の使い方を重視すること（表現）
- 音楽づくり／創作の資質・能力を系統的に高めていくことができるよう、小中高の系統性や事項の文言を整理すること（表現）
- 区分を「歌唱・器楽」と示すことに合わせ、歌唱と器楽に共通する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を統合して示すこと（小 表現）
- 授業のねらいや子供の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう、具体性の高い記述（八長調・イ短調など）について内容の取扱いへの移行を検討すること（小）

<図画工作、美術、工芸>

- 鑑賞の活動の充実が図られるよう、美術作品などから特徴を見付けだしたり情報を読み取ったりすることなどの鑑賞に関する技能を示すこと（鑑賞）
- 表現と鑑賞の関連が一層図られ、学ぶ意義につながるよう〔共通事項〕に、造形の働きや、美術の働き、美術文化、工芸の伝統と文化に関する事項を示すこと
- 表現の活動において、創造的に表現することへつながる技能となるよう、材料や用具の特徴を生かして使うことや、表現方法を追求することを示すこと（表現）
- 表現の可能性を広げていくことができるよう、デジタル学習基盤を活用して発想や構想をしたり技能を働かせたりすることについて整理すること（表現）
- 表現を広げ深めることにつながるよう、多様なメディアと関わらせて発想や構想をすることや、メディア機器等の特性を生かすことができる技能を示すこと（高（芸術科美術、専門教科美術） 表現）

<書道>

- 思考力、判断力、表現力等において、書の表現性※を重視し、自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現することを示すこと（表現）
- ※「線質」、「字形」、「構成」等の複合的な働きにより生じる「変化」、「律動」、「性情」等を示すもの
- 鑑賞の活動の充実が図られるよう、作品などから読み取った情報などを精査するなどの鑑賞に関する技能を示すこと（鑑賞）
 - 表現と鑑賞の関連が一層図られるように、〔共通事項〕において、書を構成する要素などの働きを示すこと

4. 内容の改善のあり方②

高等学校芸術科の内容のあり方【補足イメージ6：28ページ参照】

- 高等学校芸術科は音楽、美術、工芸、書道を選択して履修するが、その学習内容はそれぞれの専門に関する内容となっており、教科目標として目指す芸術との関わりが意識されにくい
- 芸術は高等学校芸術科に置かれた科目との関連以外にも多様な分野やジャンルにわたっている。卒業後に社会との関わりが一層大きくなる高等学校段階においてこそ、身近にある芸術、最新の技術と芸術の関係、芸術と社会の関係、個人と芸術の関係など、芸術との関連を意識した学びが重要となる
- このことを踏まえ、芸術そのものについて学ぶ機会を設けるなど、各科目の学びと芸術についての学びとを関連付けることにより、教科目標を実質的に達成し、生涯にわたり生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わっていきことができるよう、以下のとおり改善を図る
 - Iを付した科目（選択必修科目）の導入段階において、生徒が小・中学校における学びを踏まえ、芸術の全体像を捉えたり、学ぶことの意味や価値などについて考えたりする機会を設定することなど
 - 科目のまとめの段階などにおいて、芸術分野に関わる探究的な学習を設定するなど、生徒が各科目の学習で身に付けた資質・能力をもとに芸術の意味や価値を追求することなど
 - ✓意味や価値を追求する際には、自分や社会にとって芸術がどのような関わりをもつのかを重視し、芸術と関わりながら人生を豊かに生きていくという視点をもてるようにする
 - ✓小・中学校の学びを発展させ、高等学校段階で芸術の意義・価値を再認識する機会として、将来を見通して生徒が芸術文化との関わりを自覚できるようにする

伝統と文化に関する教育のあり方【参考資料1：42～43ページ参照】

<期待されることと現状の課題>

- 国際社会で活躍する日本人の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化を受けとめ、そのよさを継承・発展させるための教育の充実が期待される
- 各教科等の特質を踏まえ、教科等横断的な視点により、地域の実態や学校の特色等を生かした指導が行われている
- 芸術系教科・科目に関わる我が国や郷土の伝統や文化に対する児童生徒の興味や関心について、調査結果からは一定の成果は見られるものの、否定的な回答の割合も3割程度である。児童生徒が伝統や文化の意義を感じられるようすることについて一層の充実が課題である

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、伝統と文化に関する教育の充実を図る
 - 芸術系教科・科目においては、伝統と文化を尊重し、その意義を実感できるように、次のことを踏まえ改善充実を図ること
 - ✓「目標」、「高次の資質・能力」を踏まえ、学習指導要領の構造化の中で伝統や文化がもつ意味や価値の追求を通して、「深い学び」を実現すること
 - ✓「見方・考え方」において、物事を捉える視点として「文化」、教科固有の考え方・判断の仕方として「意味や価値を見いだすこと」などを明確化すること
 - ✓我が国の文化を理解することにより、多様な文化の理解や多様性の尊重につなげられるようにすること
 - ✓伝統や文化との関わりについて、小学校中学年までは生活と一体化し、高学年以降、徐々に物事を客観的に捉えられるようになるといった、発達の段階を踏まえること
 - ※伝統や文化に関する各教科等の特質を生かし、相互の適切な関連を図りながら、教科等横断的に教育課程を編成することは引き続き重要
 - 本物に触れ心を動かす体験を通して、深まりのある学びの実現に資するよう、地域社会や文化施設、専門的な人材等との連携や協働を一層充実すること
 - 指導の改善充実に資するよう、学校現場への必要な支援を行うこと
 - ✓解説や教師用指導資料等において具体例を提示
 - ✓教師の指導力向上のための研修等の実施
 - ✓専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働を支援する事業の実施

4. 内容の改善のあり方③

メディア芸術や舞台芸術などの多様な芸術や文化に関する学びの充実のあり方【補足イメージ7：29～30ページ参照】

<期待されることと現状の課題>

- 多様な芸術や文化※に関する学びが、芸術系教科・科目の目標を実現する上で教科等に通底する「創造」の土壌となり、子供たちがわくわくしながら多様な発想を生み出す深い学びにつなげていけるようにしていくことが必要である

※文化芸術基本法第8条から第12条までに示される、芸術、メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術）、伝統芸能、芸能などを含むもの

- また、マンガ、ゲーム、演劇、舞踊などを含む多様な芸術や文化を学ぶことは、様々な表現に触れる機会となり、自己の可能性に気付いたり、他者への共感を深めたりすることなどに資するものである。また、マンガ、ゲーム、演劇、舞踊などは子供にとって身近なものであり、興味・関心をもちやすく生活や社会の中の芸術や芸術文化との関わりを考える契機としやすいものである
- 多様な芸術や文化に関する学びについては、芸術系教科・科目の特質を生かした取組や、地域の実態等に応じて、学校の創意工夫を生かした教科等横断的な取組が行われている
- その際、教科との連携に関しては、国語における物語等の創作、音楽における創作表現、図画工作・美術における創造表現、体育・保健体育における身体表現などを生かしていくことが考えられる。このような、表現の多様性を実感できる機会の一層の充実が期待される

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、多様な芸術や文化に関する学びの充実を図ること
 - 様々な芸術分野を複合的に捉えていけるよう、芸術系教科・科目だけでなく、教育課程全体で充実を図ること

➢ 芸術系教科・科目においては、例えば、以下のような視点をもつこと

<音楽>

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

<図画工作、美術、工芸>

デジタル学習基盤を活用し、漫画、アニメーション、映像などの多様なメディアによる創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

<書道>

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

※多様なメディアについては、教科・科目の特性を踏まえ、マンガ、アニメーション、ゲーム、映像、映画などを発達の段階や授業のねらいに応じて取り扱う

➢ その際、効果的に取り組むために、例えば、以下のことに留意することが考えられる

- ✓ 児童生徒がそれぞれの表現のあり方を追求したり、共同して作品をつくり上げたりしていくことにより、表現の多様性や芸術などの本質を自分なりに実感できるようにすること
- ✓ 高等学校芸術科における共通の学びとして位置付け、芸術の全体像を捉えたり、芸術の意味や価値を追求したりすることなどに関わらせること
- ✓ 各教科等の特性や専門性を生かして教科等横断的に連携を図る際は、連携する教科・領域の目標の実現を図る教育活動となっていること
- ✓ メディア芸術に関わる学習においては、特別なソフトウェアを利用せずとも、撮影・記録、描画・加工などの基本機能を用いて、端末を有効活用した実践が進められることが望まれる

➢ 多様な芸術や文化に関わる指導の充実・支援や教育環境を整備すること

- ✓ 学習指導要領や解説、教師用指導資料等における記載の充実
- ✓ 専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働を支援する事業の実施
- ✓ 教師の研修機会等の充実

4. 内容の改善のあり方④

(2) 内容の精選について【補足イメージ8：31～38ページ参照】

精選の方向性

- 芸術系教科・科目は、題材に取り組むことを繰り返しながら、資質・能力の確実な定着を図るとともに、「深い学び」を実現していくことに特性がある
- 学校における指導計画の作成段階において、児童生徒の実態等を踏まえ、設定する題材において既習の内容を全て扱うのではなく、目標の達成に支障のない範囲で精選するなど、学校の実態に応じた題材構成の工夫を行うことができることを考慮しつつ、内容を精査することが必要

各教科等における内容の精選等

<音楽>

- 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、内容事項を精査することにより、授業のねらいや子供の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善（小）
- 自分でやってわかることを前提として、技能と知識を統合して一文で示すなどすることにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善
- 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、授業のねらいや子供の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

<図画工作、美術、工芸>

- 表現領域において育成する技能について、各区分に共通する材料や用具の扱い、表現方法などを考慮して示し、題材間の技能を相互に関連付け指導内容の重点化を図ることができるよう改善
- 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

<書道>

- 表現の各分野（漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書）及び鑑賞のそれぞれの指導事項において、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、〔共通事項〕において書を構成する要素などの働き・関係として指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善
- 鑑賞の技能を明確にするなど、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、生徒が価値意識を形成しながら書の美とその意味や価値を分析的に捉えることなどに焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

創意工夫を生かした授業づくりに資する教科書の内容の精選等

- 高次の資質・能力などを踏まえながら、教科書に掲載されている教材等の中から教師が適切に選択したり参考にしったりして指導することができることを、教師が読み取りやすい構成が期待される

<音楽>

- 教師が「高次の資質・能力」を踏まえ、創意工夫を生かして柔軟に授業づくりができるようにする構成上の工夫

※小学校の例：一つの教材について歌唱又は器楽、さらには合唱奏で扱うなど、様々な学習活動ができるようにする

<図画工作、美術、工芸、書道>

- 造形的な特徴や造形の要素、書を構成する要素などを手掛かりに、技能を活用して能動的に鑑賞できるようにするとともに、表現と鑑賞との往還を促すような構成上の工夫

<高等学校芸術科のⅠを付した科目>

- 小・中学校における学びを踏まえ、文化や芸術の広がりや多様性、芸術が生活や社会に果たしている役割、芸術を学ぶ意義や価値など、芸術そのものについて考えることと、各科目の学びとを関連させることができるような構成上の工夫

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方①

外部人材、学校外の文化施設等や地域と連携した学習の充実【参考資料2：44～50ページ参照】

<期待されることと現状の課題>

- 外部人材や文化施設等と連携した学習は、学習の質を高め、教科の特質に応じた学びの本質の追求に資するものである
- 外部の人の協力や学校外の施設等を活用した授業については、現状において学校や地域の実態等に応じた取組が行われているものの、芸術系教科・科目における調査では、小・中・高等学校を通して教師の肯定的な回答が半数に満たない実施状況となっている
- 連携の実態として、学校から地域への一方的な依存となっているものも見受けられるなど、学校が自律性をもち、児童生徒の資質・能力の育成と適切に関連付けた効果的な連携を図っていくことが課題である

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、外部人材、学校外の文化施設等や地域と連携した学習の充実を図る
 - 学びの場を地域に広げ、児童生徒が地域課題をより自分のこととして考え、学びの真正性を担保できるようにするなど、学校が地域と連携することの教育的な意義を明確化すること
 - 芸術系教科・科目が社会と学校、他教科等をつなぐ中心となり、教科等横断的な学習を通じて、地域・社会と子供とのつながりが一層強められるようにすること
 - 保護者、PTA、地域の人々や、身近な教育資源から、より広い文化や芸術へ広がりをもたせていけるように、無理なく地域の物的・人的資源を活用できるようにしていくこと
 - 行政や地域（学校運営協議会を含む）との連携による環境整備を推進したり、コーディネーター的な役割を担う人材を配置したりするなど学校と地域のつながりを強めていくこと

他教科等と連携した学習の充実

<期待されることと現状の課題>

- 芸術系教科・科目で育む資質・能力を他教科の学びとつなげることにより、想像力、試行錯誤する力、自ら問いを立てる力、答えのない問いに最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力など、様々な資質・能力を育成する場面となり得る
- このような学びは、芸術と他の分野とのつながり、既存の枠組みを超える思考に生かされ得るものという、STEAM教育の考え方にも通じるものとして、子供たちが学習に主体的に向き合えるようにしていくことが重要である
- 教科等連携した学習のねらいを各教科・科目の担当教員間で共通理解を図ることについて課題がある

<改善の方向性>

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、芸術系教科・科目が教科等横断的な学習を通じて、社会と学校との関係を深めるとともに、児童生徒の豊かな学びの実現を図る
 - 芸術系教科・科目が育む感性や想像力などを生かし、創造的な活動を通して、社会と学校、他教科等とをつなげていけるようにすること
 - 他教科等との連携において、育成を目指す資質・能力について関係教科等の教師間で共通理解を図ること
 - 児童生徒の実態や学校教育目標等を踏まえた各校のねらいの達成に向け、カリキュラム・マネジメントの充実の視点から、芸術系教科・科目の学びを生かした教育課程の編成や環境整備等を重視する

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方②

デジタル学習基盤を活用した学習の充実

＜期待されることと現状の課題＞ 【補足イメージ9：39～41ページ参照】

- デジタル学習基盤の特性を効果的に活用することは、知識及び技能を習得することや、主体的に学習に取り組むこと、自らの思考を広げたり深めたりすることに資するものである
- GIGAスクール構想により1人1台端末が整備され、芸術系教科・科目においてデジタル学習基盤を活用した取組が行われているが、デジタル学習基盤を効果的に活用し、身体などを用いた表現活動との調和を図りながら、深い学びにつなげることについて課題が見られる

＜改善の方向性＞

- 現状の課題を踏まえ、芸術系教科・科目及び多様な芸術や文化に関する学習の充実には、以下の方向性により、デジタル学習基盤の効果的な活用を図る
 - 身体性を基本とする人間の本来の能力としての技能の重視を前提とした上で、デジタル学習基盤の適切な活用が、感性や創造性の涵養に資するとともに、学習指導要領の構造化を踏まえた「深い学び」を実現できるようにすること
 - ✓ デジタル学習基盤の適切な活用においては生成AIを含むこととするが、安易に表現する過程などを生成AIに委ねるのではなく、発達の段階を考慮しつつ芸術系教科・科目における資質・能力の育成に寄与するよう配慮することを前提とする
 - ✓ 鑑賞活動における作品等の比較、意見共有、遠隔での交流や、表現活動における思考・判断・表現の過程での試行錯誤や記録・保存など、デジタル学習基盤の特性を生かした活用が望まれる
 - ✓ 児童生徒がアーティストやクリエイターによるデジタル技術を活用した多様な表現や、新たな価値を生み出す創造的な取組に触れて学ぶことは、創造的に考えたり、表現の楽しさを実感したりすることにつながる
 - 子供の特性等に応じた学び方や共通の学びの土台となるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用し、協働的な学びと探究的な学びの充実を図り、多様性の包摂に資するようにしていくこと
 - 子供たちが芸術に関する様々なコンテンツに接する機会が多いことなどを踏まえ、子供たちの発達の段階に応じて、知的財産の保護と活用などに関する指導を充実すること

学習評価の改善充実

＜現状の課題＞

- 芸術系教科・科目においては短時間の題材や単元を行う場合、資質・能力の3つの柱全てについて評価をしようとすると、総括的評価が優先され記録に残す評価のみを行うといった実態が見受けられる
- 思いや意図（表現意図）をもつことと、それを音楽表現することの評価が子供の学習の流れと必ずしも合っていないという課題や、制作の過程での評価が難しく完成作品のみから技能や思考・判断・表現の評価を行う現状などが見受けられる

＜改善の方向性＞

- 現状の課題を踏まえ、以下の方向性により、学習評価の改善充実を図る
 - 題材や単元ごとに全ての観点で記録に残す総括的評価を行うという前提に立つのではなく、学校等の実態に応じて年間指導計画を踏まえた上で、複数の題材や単元、区分でまとめて総括的評価を行うことも可能であることを促す
 - 児童生徒一人一人が着実に資質・能力を身に付けることができるよう、学習の調整等を促す形成的評価を重視する
 - 「思考・判断・表現」の総括的評価を行う場合においては、思いや意図をもって歌唱や演奏をしたり、発想や構想をし工夫して作品等に表したりするなどの学習の過程の中で児童生徒の姿を捉える
 - 多様な子供たち一人一人のよさや成長を捉え、他者との比較ではなく肯定的に評価できるようにすることを重視する
- ※ 資質・能力の確実な育成を図る上で、学習の過程における形成的評価を通して、評価を指導の改善に生かし、児童生徒一人一人の学びの状況や変容を丁寧に捉えフィードバックするための効果的な方法については、今後の更なる検討が望まれる

芸術系教科・科目の改善の方向性等

現状の課題

- 正解のない問いや予測困難な課題に対処できる力、身体性を基本とする技能について育成すること
- 芸術系教科・科目の学びの意義について、児童生徒が十分に実感できるようにすること
- 思いや考えを身体を用いて具現化し、新たなものやことをつくりだしていくという学びの充実を図ること

文化芸術教育への期待

文化芸術は人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉となるもの

- 多様な文化を理解しながら芸術と自分との関わりを考えていくこと
- 感性和知性の両輪を働かせ意味や価値を見いだしたりつくりだしたりすること、情操を涵養すること、感性や想像力を大切にすること
- 身体性を重視し、諸感覚を働かせて対象に向き合うこと。一人一人の特性を生かした学びを、多様性の包摂につなげ、ウェルビーイングへとつなげていくこと
- 異なる分野を連携・統合し新しいものを創造したり、現在の課題解決にとどまらず未来に向かって意味や価値を創出したりすること

改善の方向性（総論）

- ① 捉えたり感じたりしたことを、**要素や特徴、背景にある文化など**との関わりで理解したり、思考、判断、表現したりできるようにする

※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

- ② 表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という**自分の思いや考えをもつこと**と、諸感覚を働かせつつ**身体性を伴った技能**により表現することを、一連の過程として重視する

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等

- ③ 表現及び鑑賞の学習において、唯一の答えに導くのではなく、**児童生徒一人一人のありようが尊重**されるようにする

学びに向かう力、人間性等

- ④ 感じたことや工夫したことを伝え合うなどの言語活動等や他者とともに協働する学習を通じて、**他者に共感し感じ方や考え方を深めたり、多様な視点で考えたりする**ことができるようにする

学びに向かう力、人間性等

- ⑤ 生活や社会の中の芸術や芸術文化などに関わり、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることなどを重視し、**豊かな社会の創造や幸福な人生**につなげていくことができるようにする

学びに向かう力、人間性等
見方・考え方

文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%

・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

目標・柱書	
小学校音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
音楽 小学校	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽 中学校	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
芸術 高等学校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術（音楽Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅲ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅱ	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅲ	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化に関わりそれらを尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

小・中・高等学校 図画工作・美術・工芸の目標等について＜改善案＞

目標・柱書

補足イメージ2

小学校図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に造形的な創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
高等学校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

小学校図画工作 中学校美術 高等学校芸術 (美術Ⅰ・工芸Ⅰ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅲ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術や美術文化に関わりそれらを尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
美術Ⅰ、美術Ⅱ、美術Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅱ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅲ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
書道Ⅰ	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅰ	書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅱ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅲ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

- ◆教科の系統（音楽／図画工作・美術・工芸／書道）ごとに、小・中・高等学校を通して文言を統一
- ◆「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであることから、芸術系教科・科目に共通して重視することとし、教科の特性を踏まえ、感性や想像力を働かせることを示す
- ◆文化を継承し発展することを一層重視していくため、文化に関する視点を共通に含めつつ教科の特性を考慮して示す
- ◆芸術の本質的意義である創造性を重視し、意味や価値を追求することを示し、豊かな社会の創造や幸福な人生につながる教育の充実に資するようにしていく

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術 (音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
小学校図画工作 中学校美術 高校芸術 (美術Ⅰ～Ⅲ ・ 工芸Ⅰ～Ⅲ)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

小学校の例

A 表現	区分①	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXX	〔共通事項〕	第1学年及び第2学年相当	第3学年及び第4学年相当	第5学年及び第6学年相当
			1)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
区分②	知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXX	〔共通事項〕	1)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
			2)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
B 鑑賞	区分①	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXX	〔共通事項〕	第1学年及び第2学年相当	第3学年及び第4学年相当	第5学年及び第6学年相当
			1)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
区分②	知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXX	〔共通事項〕	1)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
			2)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX

活動を繰り返しながら発達の段階に応じ系統的な内容を学習していく

「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを支える構造

系統的に育成する資質・能力を明確にするため、活動に即して「表現」及び「鑑賞」の2つの領域に整理
音楽、図画工作、美術、工芸では、教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、教師が想定しやすいと考えられる内容のまとまりとして区分を設定

音楽（小学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	歌唱・器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		音楽づくり	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること - 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
	鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと
知識及び技能	表現	歌唱・器楽	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使用方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 歌い方による声の音色などの違いや変化に関する知識及び身体の使用方の技能を身に付けること - 歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び身体の使用方の技能を身に付けること など
		音楽づくり	音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること - 音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること
	鑑賞		音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

音楽（中学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
	鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
知識及び技能	表現	歌唱	曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		器楽	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		創作	音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
	鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

音楽（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などとの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
		器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などとの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
		創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
	鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	- 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 - 自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと
知識及び技能	表現	歌唱	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を生かした歌い方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		器楽	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 様々な表現形態による器楽表現の特徴を生かした演奏の仕方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
		創作	音や音同士の関係の特徴などを生かした音のつながりや重なりを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音型の特徴や構成上の特徴を生かした音楽のつくりかたについて、知識及び技能を関わらせて身に付けること
	鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や価値などを見いだすことができることを理解している	- 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 - 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて、知識を身に付けること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

図画工作

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と材料や場所（仮）	材料や場所などとの関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、造形的な活動をつくる過程での気づきを生かして表現することができる	- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		自分と表したいこと（仮）	表そうとすることから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる	- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
	鑑賞		作品などとの関わりから、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	- 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 - 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と材料や場所（仮）	材料や場所などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
		自分と表したいこと（仮）	表そうとすることから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	鑑賞		作品などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 - 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

美術（中学校）

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出すこと - 構想を練り、工夫して表現すること
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出すこと - 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから美術作品などを見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	目的や条件、機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕
		生活や社会と美術（仮）	生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術））

美術（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成すること ・ 構想を練り、工夫して表現すること
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や条件、機能などを考え、主題を生成すること ・ 構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕 ・ 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること ・ 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもつこと
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕 ・ 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること ・ 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもてるようにすること
	鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕 ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること ・ 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること
		社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 ・ 美術の働きや美術文化について理解すること〔共通事項〕 ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること ・ 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸））

工芸（高等学校芸術科）

補足イメージ5

	領域	区分	高次の資質・能力	内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をすること - 制作の構想を練り、工夫して表現すること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること - 制作の構想を練り、工夫して表現すること
	鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、生活における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、社会における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
知識及び技能	表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
	鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
		社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	- 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること〔共通事項〕 - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること〔共通事項〕 - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

書道（高等学校芸術科）

	領域	高次の資質・能力		内容項目例
思考力、判断力、表現力等	表現	総合的な発揮	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	- 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること - 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	鑑賞		書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる	- 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること - 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと
知識及び技能	表現	統合的な理解	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	- 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 - 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること - 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
	鑑賞		書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から多様な情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	- 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 - 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること - 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

※今後の総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

1. 想定される内容例

◆芸術とは（芸術の分野・ジャンル）、芸術の歴史

- どのような芸術があるか：音楽、美術、工芸、書道、文学、舞踊、演劇、建築、服飾、映画、写真など
- 身近にある芸術を考える（アニメーション・映画・音楽など）
- 芸術はどのように変わってきたか／時代・場所を超えて芸術はどう異なるか

◆芸術と社会

- 芸術同士が刺激し合う？：芸術が影響し合うことによる変化や進化
- 総合芸術の広がり：オペラ、ミュージカル、歌舞伎、映画など
- 芸術は社会とどのようにつながることができるか？：芸術とアイデンティティ
- 芸術家だけじゃない芸術の仕事：芸術を支える人たち
- 表現の自由と責任／著作権、知的財産権

◆現代の芸術とテクノロジーやメディア

- 科学、テクノロジーの発展によって、芸術はどう変わったか／どう変わるか
- メディアと新しい芸術表現（デジタルアートやアニメーション）

◆自分にとっての芸術

- どのような表現をしていきたいと考えるか
- 芸術はなぜ必要なのか

※これらの事例はイメージであり、生徒の興味・関心等に応じ教科書や学校現場における創意工夫を期待。

2. 芸術そのものについて学ぶ機会の設定

○実施形態、方法、時期等について

- 実施の形態については、科目ごとに行ったり、複数科目を合同で行ったりするなど、学校の実態に応じて工夫して行う
- 実施の方法については、映像資料や教科書等を活用したり、体験的な活動などを取り入れたりすることが考えられる
- 科目のまとめの段階における実施の時期については、学校の実態等に応じて適切に設定する

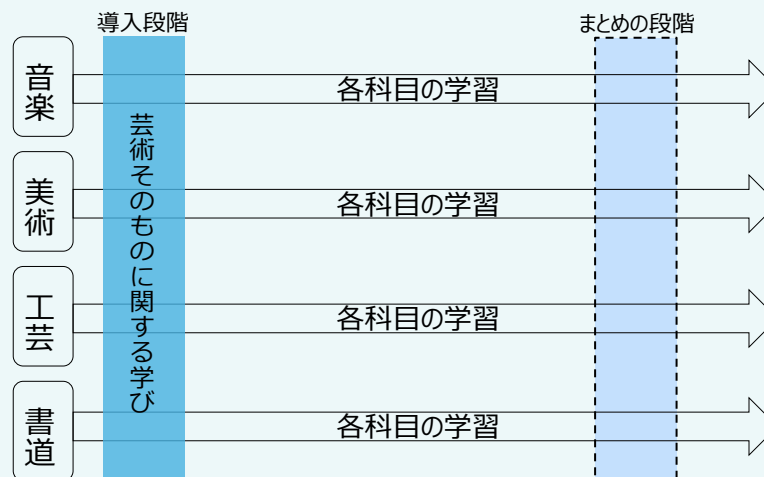
○授業における取り上げ方の例

Iを付した科目（選択必修科目）の導入段階

- 芸術分野についての分類図を作成し、生徒が様々な芸術の分野やジャンルの共通点を見つけたり、各分野における固有の表現方法について考えたりする
- 「人間にとって芸術がなぜ必要か」についてグループで意見を交わし合い、生活や社会の中で芸術が果たす役割について考える
- 映画や舞台芸術などの一部を鑑賞し、各自が選択している科目の視点から作品のよさなどを発表し合いながら、複数の芸術分野やジャンルが融合して生まれる表現の面白さを味わう

科目のまとめの段階

- 各科目を履修した生徒で合同チームをつくり、ひとつのテーマに基づき、それぞれの表現の特徴を生かした作品などを考え、つくり、発表する
- 学んだことを生かして、他の分野や分野を超えた連携を追求し、芸術によって社会にどのように貢献できるかを考える
- 「今は存在しない」が「いつか生まれたら面白い」と思う新たな芸術分野やジャンルについてアイデアを出し合い、芸術の可能性や発展について考える



舞台芸術に関する取組イメージ

小学校
6年生

音楽劇を通して郷土の音楽を引き継ぐ

学習のねらい

音楽

総合的な学習の時間

【音楽】郷土の民謡の特徴にふさわしい歌い方を工夫して歌う。
【総合的な学習の時間】地域の治水事業に携わった人々の苦労や喜び、思いや願いについて考え、音楽劇を通じて表現する。

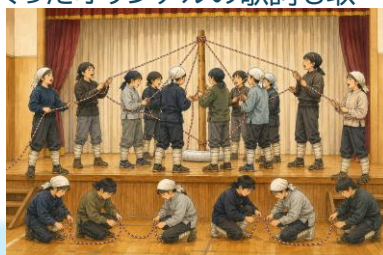
取組内容

※国語科とも関連

・総合的な学習の時間で、地域の歴史や文化を伝えていくための課題を設定し、地域の資料館を訪問するなどして治水について情報収集した。集めた情報を基に、土地の恵みを生かすための治水事業に取り組む人々の思いや、そこで唄われた作業唄などについて整理し、まとめるなどの取組を行った。

・音楽では、郷土に伝わる河川工事の際に歌われた仕事唄の歌詞や仕事の様子から、仕事の大変さに思いを寄せ、作業の動きに合わせて歌った。郷土のよさを取り入れ国語の授業での俳句づくりを基に七五調でつくったオリジナルの歌詞も取り入れた。

・総合的な学習の時間で、治水事業に携わる人々の思いをどう表現するかを考え、音楽科や国語科で学習した仕事唄を取り入れた音楽劇を制作して演じた。



取組成果

郷土の文化や先人の努力への理解を深めるとともに、地域への愛着をもつことにつながった。また、互いのよさを生かしつつ、協働してつくりあげることの意義を実感することができた。

メディア芸術に関する取組イメージ

中学校
2年生

漫画で伝えよう ～学校紹介漫画の制作～

学習のねらい

美術

特別活動

【美術】伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさなどを考え構想を練り、表現方法を追求し創造的に表す。

【特別活動】小学校6年生に向けた学校説明会で、生徒が説明の計画を立て役割を分担し、協力して運営することに主体的、実践的に取り組む。

取組内容

・美術では、構図、形や色彩などの効果を考えながら、中学校の行事や部活動、生活等の様子を、翌年入学する小学校6年生に向けて、分かりやすく楽しく伝える漫画を制作した。

・特別活動では、小学校6年生を中学校に招く説明会の中で生徒会が中学校を紹介する内容について計画を立て、その際、制作した漫画も活用して中学校生活の魅力を紹介した。



取組成果

他者や社会に形や色彩などを用いて分かりやすく伝えるという、生活や社会の中での美術の働きなどについて考えることができた。また、美術で制作した漫画を活用することで、中学校の学校行事等を説明することへの意欲が高まり、主体的、実践的に取り組むことができた。

改善の基本的な方向性

改善の視点（イメージ）

音楽

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

図画工作・美術・工芸

デジタル学習基盤を活用し、多様なメディア※による創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

書道

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

音楽

- ・多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、何を伝えるかを明確にした音楽づくり・創作の学習活動の充実（デジタル学習基盤の活用を含む）（小、中、高）
- ・ダンスなどの身体表現や映像などのメディアを用いた表現など様々な芸術表現等への活用を視野に入れた、音楽を形づくっている要素や音楽の特徴について実感を伴って捉える学習活動の充実（体を動かす活動を含む）（小、中、高）

図画工作・美術・工芸

- ・多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、想像力を豊かに働かせて新たなものやことをつくり出す学習活動の充実（小図、中美、高美工）
- ・児童生徒の作品などについて、デジタル学習基盤を活用して発表や展示を行ったり、発信・交流したりする機会の充実（小図、中美、高美工）
- ・地域や学校の実態に応じ、デジタル学習基盤を活用して、映像やアニメーションなどに表すことを通して豊かに発想や構想をすることにつながる学習の充実（小図）
- ・表現の特質や効果を感じ取ることと、表現することを相互に関連させ、創造の可能性を広げることにつながる、多様なメディアを活用した表現や鑑賞の活動の充実（中美）
- ・多様なメディアと関わらせ、豊かに主題を生成することや、夢のある発想をすることにつながる学習の充実（高美、専美）
- ・メディア機器等の特性を生かして表現するための技能を明確化した学習の充実（高美）
- ・多様なメディアを活用して、異なる分野を連携・統合させた表現の追求（高美、専美）

書道

- ・多様な芸術等との組み合わせを視野に入れ、他教科等との関連を意識して総合的な表現の中で生かすことができるような、書道の表現の過程での時間性や運動性等の特質・特性に係る学習活動の充実
- ・映像などメディアの機能を生かした様々な芸術表現へ生かすことができる、書道の特質・特性に焦点を当てた表現や発表、展示の方法を工夫する学習活動の充実

小図：小学校図画工作、中美：中学校美術、高美：高等学校芸術科（美術）、高工：高等学校芸術科（工芸）、専美：高等学校専門教科（美術）

(小学校音楽科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A	歌唱・器楽表現		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範唱を聴いたり、 <u>ハ長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして歌う技能 (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (イ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能 ②
			(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
	音楽づくり	思	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をにふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ア)と(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) <u>多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</u> ②
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範奏を聴いたり、 <u>ハ長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (イ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
			(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)と(イ)をできるようにすること。 (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
	鑑賞	知	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。 (ア) <u>いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</u> (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ②
		技	ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) <u>設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</u> (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
B	鑑賞		(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
		知	イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
			(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽を形づくっている要素と働きを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること。
共通事項		知	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

改善のイメージ(案)

A	歌唱・器楽表現		歌唱及び器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		知	イ 次の(ア)から(イ)までにに関する知識及び(身体の使用方の)技能を身に付けること (ア) 歌い方による声の音色などの違いや変化 (イ) 演奏の仕方による楽器の音色などの違いや変化 (イ) 歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化 (イ) 範唱や範奏を聴いたり、楽譜等を見たりして、曲や歌い方、演奏の仕方などの特徴を捉える ②
			音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 設定した条件に基づいて、次の(ア)と(イ)をできるようにすること (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること (イ) どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
	音楽づくり	知	イ 次の(ア)及び(イ)に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること (ア) 音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化 (イ) 全体の響きの特徴と、音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方との関わり ②
			鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと
		知	イ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
			「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	共通事項	思	ア 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること
		知	イ 次の(ア)及び(イ)に関する知識及び技能を身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音符、休符、音楽に関する記号や用語について、それらの音楽における働きを捉えること口

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、内容事項を精査することにより、授業のねらいや子供の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善
- ② 自分でやってわかる(理解する)ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

(中学校音楽科第1学年の例)

現行の構成

A 表 現	歌 唱	(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
	知 ・ 技	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
	器 楽	(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
	知 ・ 技	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
	創 作	(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
B 鑑 賞	思 考	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
		ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
	知 ・ 技	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性や固有性
	知 ・ 技	イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思 考	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
		イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。
	知 ・ 技	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	歌 唱	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
	知 ・ 技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方
		器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	器 楽	ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方
	創 作	創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせて表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
	知 ・ 技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方 (イ) 反復、変化、対照などの手法を用いた音楽のつくり方
		鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑 賞	思 考	ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと (ア) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性と固有性
		イ 次の(ア)から(イ)までについての知識を身に付けること (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
	知 ・ 技	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性や固有性
	知 ・ 技	イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思 考	ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
	知 ・ 技	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ② 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項から削除することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科 (音楽 I) の例)

現行の構成

A	表現	知	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 歌唱
		技	歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
		知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり
		技	(イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
		技	ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
			(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
A	表現	知	(イ) 他者との調和を意識して歌う技能
			(ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能
		技	(2) 器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
		技	(ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり
			(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
		技	(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴
			ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
B	鑑賞	知	(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能
			(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能
		技	(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能
			(3) 創作
		知	創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
		技	イ 音楽材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
			ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
		技	(ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能
			(イ) 旋律をつくり、つづいた旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくり出す技能
B	鑑賞	知	(ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		技	(1) 鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。
			(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
		技	(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
			(ウ) 音楽表現の共通性や固有性
		技	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり
(共通事項)	共通事項	知	(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり
			(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
		技	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
			イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりながら身に付けること
		技	(ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること
			(イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
		技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりながら身に付けること
			(ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ (案)

A	表現	知	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 歌唱
		技	歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
		知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わりながら身に付けること
			(ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方
		技	(イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を生かした歌い方
		技	(2) 器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B	鑑賞	知	ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わりながら身に付けること
		技	(ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方
			(イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方
		技	(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴を生かした演奏の仕方
		技	(3) 創作
			創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
			イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりながら身に付けること
(共通事項)	共通事項	知	(ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方
			(イ) 音型の特徴や構成上の特徴を生かした音楽のつくり方
		技	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 鑑賞
		知	鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと
		技	(ア) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
			(イ) 音楽表現の共通性と固有性
		技	イ 次の(ア)から(ウ)までについての知識を身に付けること
			(ア) 曲想と音楽の構造との関わり
(共通事項)	共通事項	知	(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり
			(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
		技	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
			イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりながら身に付けること
		技	(ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること
			(イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること
		技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わりながら身に付けること
			(ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 自分でやってわかる (理解する) ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ② 学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

(小学校図画工作科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A 表 現	思	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴などを基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
	技	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
(共通事項)		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
	思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	自分と材料や場所 思	(1) 表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		技 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	自分と表した 思	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付け主題へと高め、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
		技 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
		技 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などから表現の特徴や表し方の変化などを見付けだすこと
(共通事項)		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
	知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解すること
	思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 各区分に共通する材料や用具の扱い、表現方法などを考慮して示し、技能を相互に関連付け指導内容の重点化を図ることができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

(中学校美術科第 1 学年の例)

現行の構成

A 表 現	思	(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。 ア 感じ取ったことや考えたことを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
		イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。 (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。 (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。
	技	(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。 ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。 (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表すこと。
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
	技	
〔共通事項〕	知	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	自分と美術	表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩など、想像したことなどを基に主題を生み出し、意図に応じた構成などについて考えながら心豊かな構想を練り、技能を働かせて創造的な表現をすること
	技	材料や用具を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
		生活や社会と美術 思 目的や条件、意図などを基に、身近な生活との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた美しさなどを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること
B 鑑 賞	自分と美術	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 思 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること
		技 美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること ①
	生活や社会と美術	思 美術作品などの目的や条件、意図や機能などの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること
		技 美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること ①
〔共通事項〕	知	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などの美術文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ② 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科（美術Ⅰ）の例)

現行の構成

A 表現	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	(1) 絵画・彫刻	①
		絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (7) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (4) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。	
		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。	
	(2) デザイン	デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (7) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (4) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。	
		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。	
	(3) 映像メディア表現	映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
B 鑑賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	(1) 鑑賞	②
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (9) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。	
		イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。	
	技	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。	
	知	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	イ	ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。	

改善のイメージ（案）

A 表現	自分と美術	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		技	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、知識や技能を活用して表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること	①
		技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること	①
	社会と美術	思	目的や条件、意図や美しさなどを考え、主題を生成し、機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること	
		技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること	①
		技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること	①
B 鑑賞	自分と美術	思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		技	美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること	②
		技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、③
	社会と美術	思	美術作品などの目的や条件、意図との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、社会との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること	②
		技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、③
		技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、③
〔共通事項〕	知		表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次の通り育成する。	
			造形の要素の働きを理解すること	
			造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること	
			環境の中に見られる自然と美術の関わりや、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解すること	
			日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などの美意識や創造性、日本の美術の歴史や表現の特質などの美術文化について理解すること	

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 「鑑賞」のAは(ア)～(ウ)を2つにまとめ、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科（工芸 I）の例)

現行の構成

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 身近な生活と工芸 身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想 (ア) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。 (イ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさを生かした制作の構想を練ること。
		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
	技	(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 社会的な視点に立った発想や構想 (ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。 (イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
	思	(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 身近な生活の視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 社会的な視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。
B 鑑 賞	技	イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔共通事項〕	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をし、用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさを生かした制作の構想を練り、創造的な表現を工夫すること
		制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	技	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし、社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練り、意図に応じて工夫して表現すること
	技	制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	技	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑 賞	思	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、身近な生活と工芸との関係から作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	技	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		工芸作品のよさや美しさを感じ取り、社会や環境との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
〔共通事項〕	知	工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔共通事項〕	知	造形の要素の働きを理解すること
		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること
		環境の中に見られる自然と工芸の関わりや、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて理解すること
		日本の工芸の特質や美意識、創造性など工芸の伝統と文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

(高等学校芸術科(書道Ⅰ)の例)

現行の構成

A	表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて構想し工夫すること。
			(ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成
			(イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
		技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
			(ア) 目的や用途に即した効果的な表現
			(イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現
		知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
			(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり
			(イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり
		技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
			(ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆
			(イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現
		思	(2) 漢字の書
			漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
B	鑑賞	思	(ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成
			(イ) 意図に基づいた表現
		知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
			(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり
			(イ) 線質や書風と用筆・運筆との関わり
		技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
			(ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆
			(イ) 連続と単体、線質や字形を生かした表現
		思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のおよび美しさを味わって捉えること。
			(ア) 作品の価値とその根拠
			(イ) 生活や社会における書の効果
		技	イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。
			(ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり
			(イ) 日本及び中国等の文字と書文化
C	共通事項	思	(イ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等
			(イ) 書文化の伝統的な鑑賞の方法や形態
		知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。
		技	イ 書文化の美的構造、書文化の美を捉える視点について理解すること。
			イ 書文化の美的構造、書文化の美を捉える視点について理解すること。
			イ 書文化の美的構造、書文化の美を捉える視点について理解すること。
		思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 生活や社会における目的や用途、自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			漢字の書
		思	漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
		思	仮名の書
			仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
		思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書とその美の意味や価値について考えること
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		技	(ア) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		思	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		技	イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと

改善のイメージ(案)

A	表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 生活や社会における目的や用途、自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
			表現すること
		技	(ア) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			漢字の書
		思	漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			仮名の書
		思	仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
B	鑑賞	思	鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書とその美の意味や価値について考えること
		知	(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		技	(ア) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		思	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		技	イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			イ 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			漢字仮名交じりの書
			漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 生活や社会における目的や用途、自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
			表現すること
		技	(ア) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			漢字の書
		思	漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			仮名の書
		思	仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
			(イ) 自らの感性や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		技	(ア) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
			(イ) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		思	鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書とその美の意味や価値について考えること
		知	(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
		技	(ア) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと
			(イ) 書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこと

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 各分野(漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書)及び鑑賞のそれぞれにおいて、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、「共通事項」において書文化の美的構造、多様な背景との関わり、書文化の伝統と文化を考慮することを通して、作品や書のおよび美しさを味わうこととして指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

音楽の例

< 改善の方向性（案） >

- ・児童生徒が様々な感覚を働かせて、音楽への理解を深めるだけでなく、思考・判断し表現することにつながるようにデジタル学習基盤を効果的に活用できるようにしていくこと
- ・発達の段階に応じて、音楽文化への理解につなげていくこと

< 活用イメージ >

小学校音楽	中学校音楽	高等学校芸術（音楽）
● リコーダーのタンギングを可視化して確認し、音色と演奏の仕方との関わりに気付く【器楽】 ● 鑑賞曲の速度を変化させて聴き比べ、速度による曲想の変化を確かめ、作曲家の表現の工夫を考える【鑑賞】 ● 端末で自分の担当するパートの音を消した音源を聴き、パートの役割を考える【器楽】	● 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、技能の習得状況を確認したり課題を自覚したりする【歌唱、器楽】 ● 自分が課題としている技能について、範唱・範奏の音源や動画を視聴して解決の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、実際に音で確かめながら、音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる【創作】 ● 音楽室と外部の人や団体、施設などをつなぎ、郷土の伝統音楽をオンラインで一緒に表現したり、鑑賞したりする【歌唱、器楽、鑑賞】	● 「響く声」「柔らかい音」など、慣用的に用いる声や音を表す言語について、可視化したり数値化したりして、その性質を捉え、自分の声や楽器の音と比較しながら、技能習得の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、音色を様々に変えながら、楽器の組合せによる響きの違いを聴き比べ、音素材の特徴を生かした音楽をつくる【創作】 ● 配信された音源や動画などを視聴し、複数の国や地域の諸民族の音楽を聴き比べ、生活や社会における役割や、表現上の効果の共通性及び固有性について考えながら音楽を聴き深める【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

図画工作・美術・工芸の例

< 改善の方角性（案） >

- ・デジタル学習基盤の特性を生かした活用を図ることにより、豊かな創造性を育み、表現や鑑賞の活動を充実させ、資質・能力を効果的に育成できるようにすること。その際、教科・科目の特性を踏まえた文化への理解につなげていくこと
- ・鑑賞の活動においては、多様な見方や感じ方に触れたり、それらを深めたりする学びを支えるため、デジタル学習基盤の効果的な活用を一層工夫していくこと

< 活用イメージ >

小学校図画工作	中学校美術	高等学校芸術（美術）
● 場所や空間をどのように変化させていくかを考えながら、動く映像をつくり、プロジェクターで投影するなどして、活動を工夫してつくる（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【表現】 ● 材料や用具について、画像や動画などからこれまでの経験を振り返ったり、使い方を確かめたりして、特徴を生かして使う（知識及び技能）【表現】 ● 作品を展示する場所を自分で選び、見る方向や作品と周りにあるものとの関係を考えて撮影し、友人と互いに見合ったり、話し合ったりして、自分の見方や感じ方を深める（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】 ● 活動の過程を撮影し、整理・蓄積したファイル等を基に自分の学びを振り返り、次の学習につなげようとする（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	● ポスターのアイデアスケッチをタッチペンを使って画面上で作成し、途中段階を相互鑑賞し、その後、アイデアを修正することで、発想や構想を深める（思考力、判断力、表現力等）【表現】 ● 制作した動物や人などを動かして撮影し、アニメーションに表し、何度も試し活動することで、光や動勢などで捉えることを理解する（知識及び技能）【表現】 ● 美術館などで公開しているデジタルコンテンツを利用し、日本と諸外国の美術作品を拡大・縮小したり、並べて比較したりして鑑賞し、美術文化の背景などを踏まえ、相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】 ● 活動の過程を振り返ったり、鑑賞で感じ取ったり考えたりしたことを共有するなどして、学習を主体的に調整する（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】	● 映像や音、光、文字などの映像メディア表現の要素を複合的に用い、総合的な表現効果を考え、意図や動きに合わせ変形させたり特殊効果などを活用したりして表現方法を追求する（知識及び技能）【表現】 ● 日本及び諸外国の美術作品の複数の画像を比較して鑑賞し、美術文化の文脈などを踏まえ、表現の相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】
		高等学校芸術（工芸）
		● 3Dソフトを用いて器のアイデアを考えたり、作成中の器を撮影し画面上で色を試し釉薬のかかった状態を確認したりするなどして発想や構想を深める（思考力、表現力、判断力等）【表現】 ● 作者や作品の背景にある社会や時代などを調べたり、美術館などで公開している工芸作品の拡大画像を見たりして、作品、素材や技法、作者についての心情や意図について考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】

書道の例

< 改善の方向性（案） >

- ・デジタル学習基盤の特性を生かして活用することにより、書特有の視点をもって多様な書の美を捉え、自ら学びを深めることにつなげる
- ・書の伝統と文化への理解を深められるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用すること

< 活用イメージ >

小学校・中学校	高等学校芸術（書道）
小中学校において培われる デジタル学習基盤の活用能力	● 撮影・録画機能を活用し、長い期間での思考の変化や構想・工夫の過程を振り返ったり、適切なタイミング、適切な方法で効果的に活用したりすることにより、生徒自ら学びを深め、個別最適で多様な学びを実現することにつなげる【表現、鑑賞】 ● 検索・参照できる機能を活用し、自身の学びを調整することにより、多様な技能を習得・習熟することや、豊かに構想・工夫し表現することにつなげる【表現】 ● 美術館・博物館等のデジタルアーカイブや各種動画を活用し、書の表現性や表現効果等に関わる一回性や呼吸、空間意識といった視点から、書の美の多様さに触れ味わうとともに、書の伝統と文化への理解を深めることにつなげる【鑑賞】

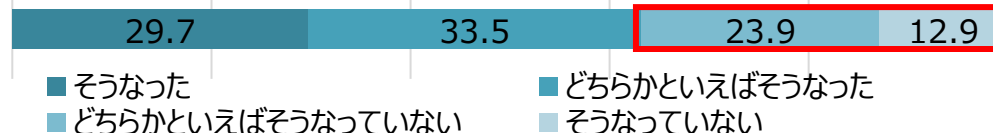
※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

- ✓ 小学校児童に対し、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつことについて、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 質問項目は異なるものの、我が国や郷土の音楽に対する児童生徒の興味・関心のもちやすさに関する教師の捉えについて、小、中、高等学校へと学校段階が進むにつれて、否定的な回答が増加する傾向がみられる。

音楽科・芸術科（音楽Ⅰ）

小学校 児童 音楽の学習をして、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつようになった

第6学年
※1



【児童・生徒の学習状況等について】

小学校 教師 我が国の音楽や郷土の音楽に親しみ、よさを味わったり、愛着をもったりすること

第2学年
※2,4



第4学年
※2,4



第6学年
※3,4



中学校 教師 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解すること

第3学年
※3



高等学校 教師 鑑賞の学習において、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解すること

第2学年
※3,※5



※1 各選択肢を選んだ児童の割合 (%) (重み付き)

※2 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

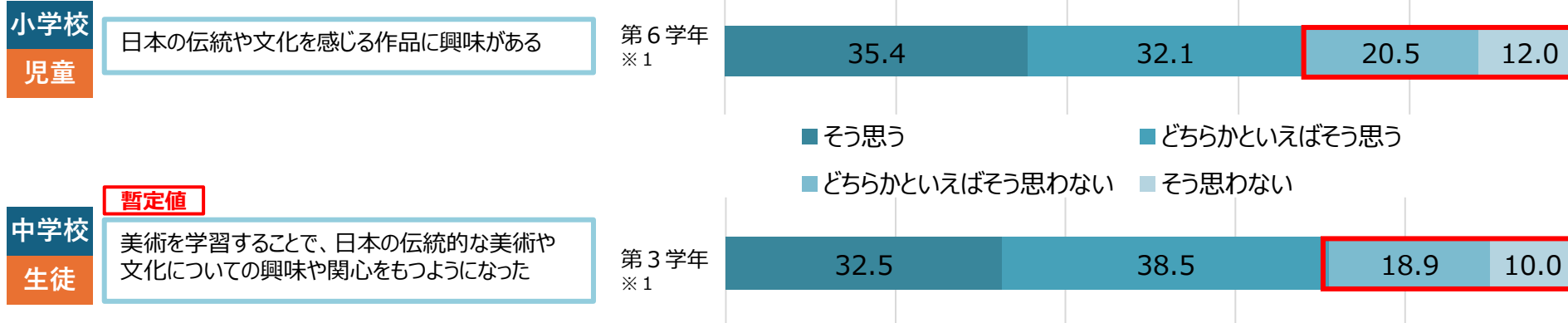
※3 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童生徒の割合 (%) (重み付き)

※4 中学校及び高等学校に合わせて再計算した数値を用いている

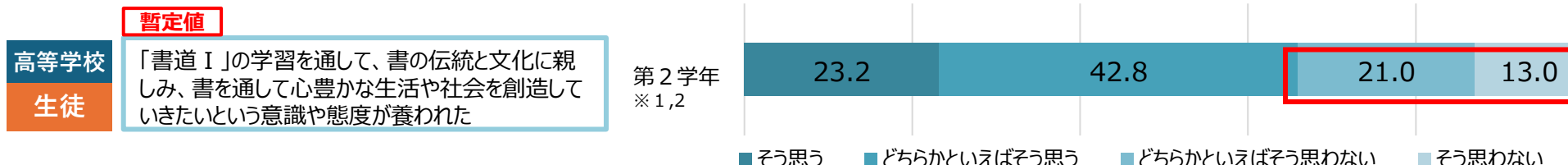
※5 音楽Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

- ✓ 図画工作科・美術科において、日本の伝統や文化に関わる児童生徒の興味・関心について、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 芸術科（書道）において、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度が養われたかについて、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。

図画工作科・美術科



芸術科（書道Ⅰ）



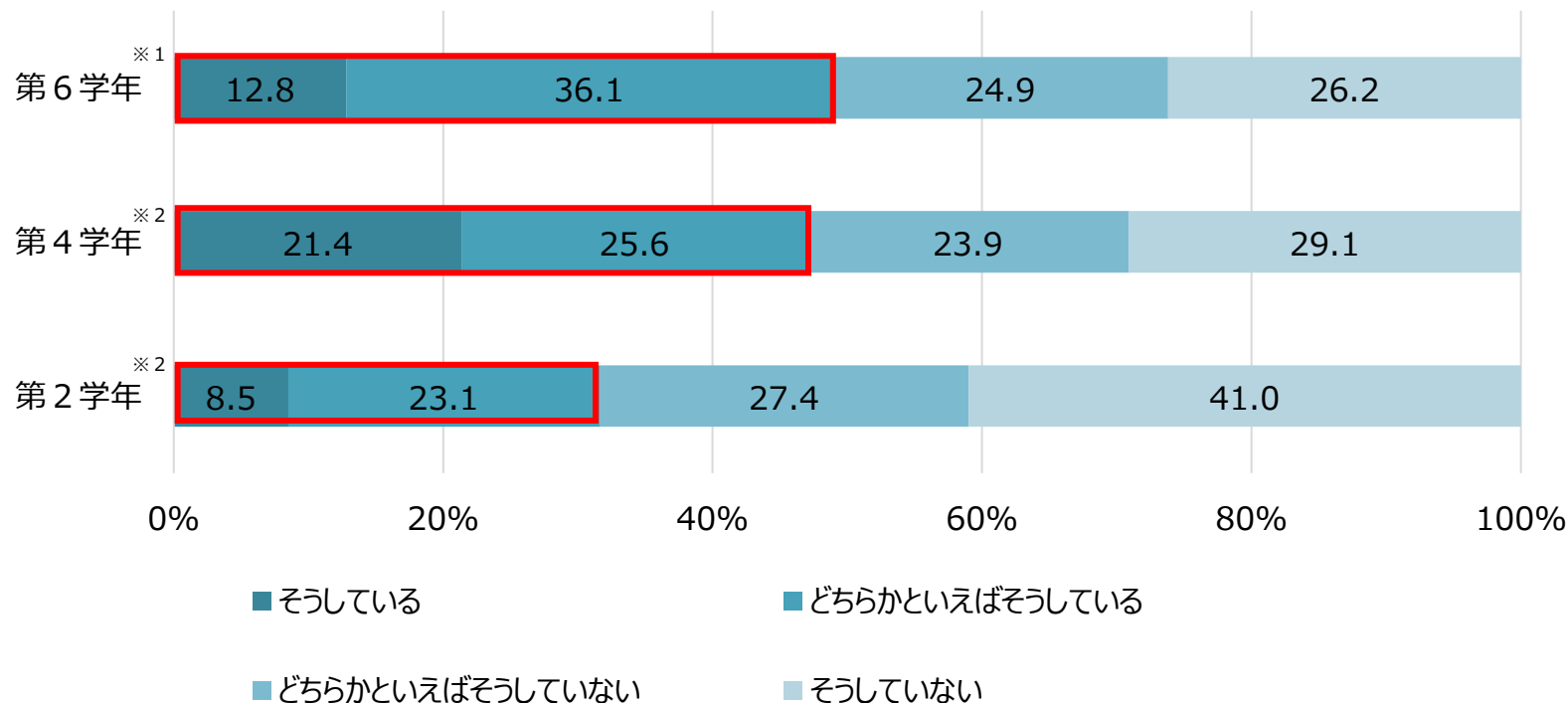
※1 各選択肢を選んだ児童生徒の割合（％）（重み付き）

※2 書道Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

✓ 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師オンライン質問調査の結果によれば、外部人材の活用等について、肯定的な回答が半数を下回っている状況である。

音楽科

音楽科の学習において、外部の人々などの協力を得たり、学校外の施設等を活用した授業を行ったりしている

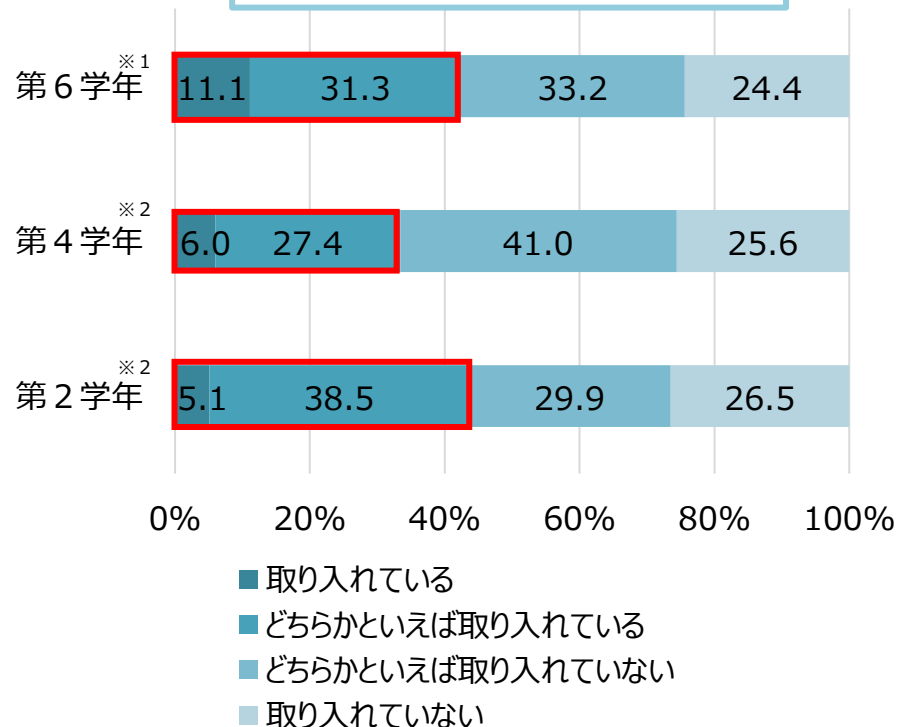


※1：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（%）（重み付き）、※2：各選択肢を選んだ教師の割合（%）（重みなし）

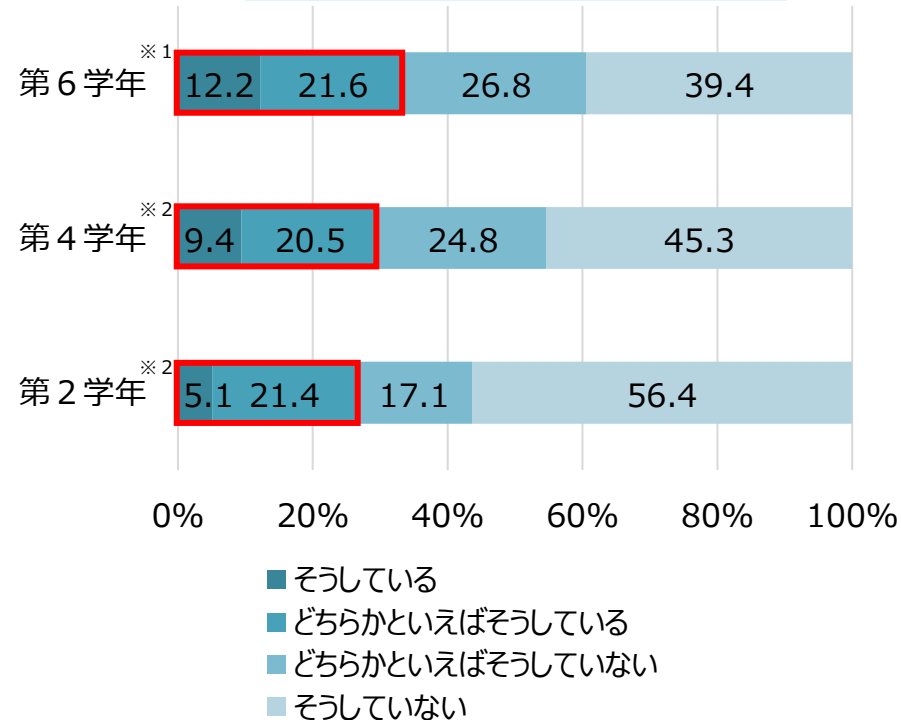
✓ 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師オンライン質問調査の結果によれば、地域や文化施設と連携した授業の実施状況について、肯定的な回答が半数を下回っている状況である。

図画工作科

図画工作の授業で、地域や社会の材料や場所、人を活用した活動を取り入れている



地域の美術館や博物館等を利用したり連携を図ったりするような授業を行っている



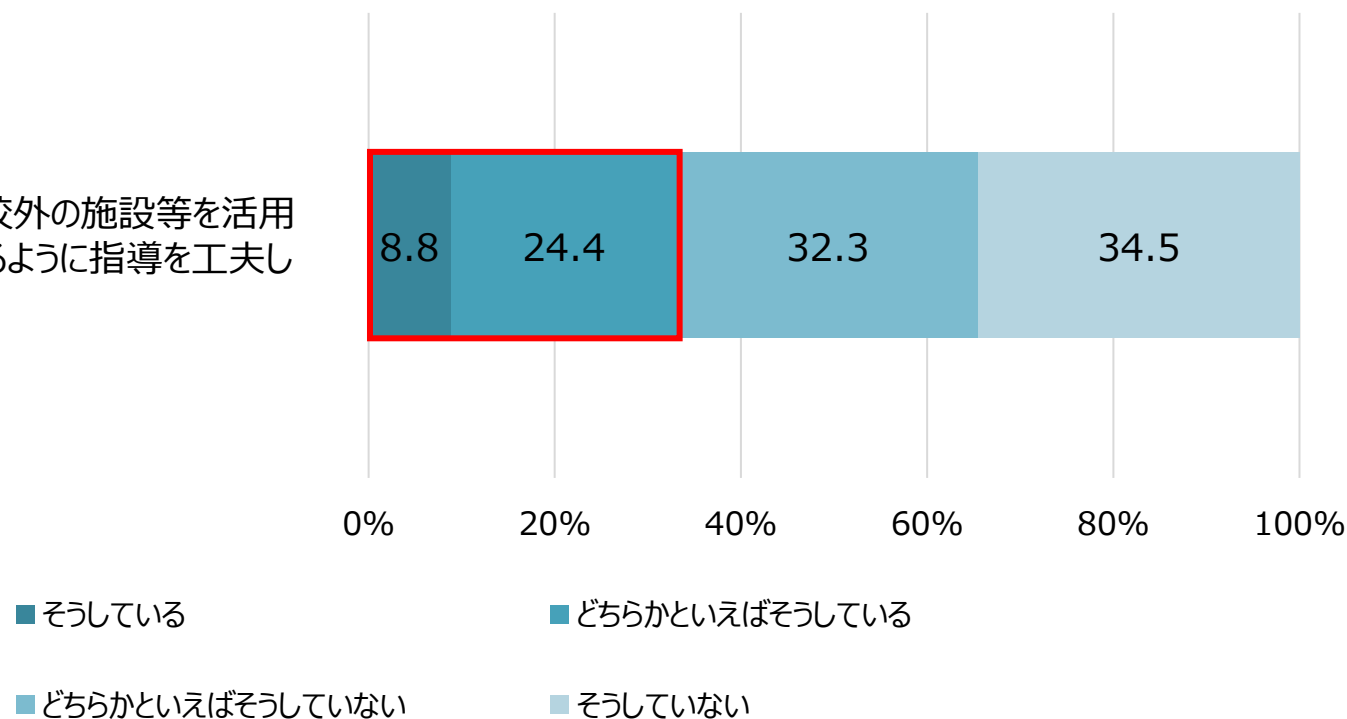
※1：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（％）（重み付き）、※2：各選択肢を選んだ教師の割合（％）（重みなし）

- ✓ 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、肯定的な回答が4割を下回っている状況であった。

音楽科（第3学年）

暫定値

外部の人の協力を得たり学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している

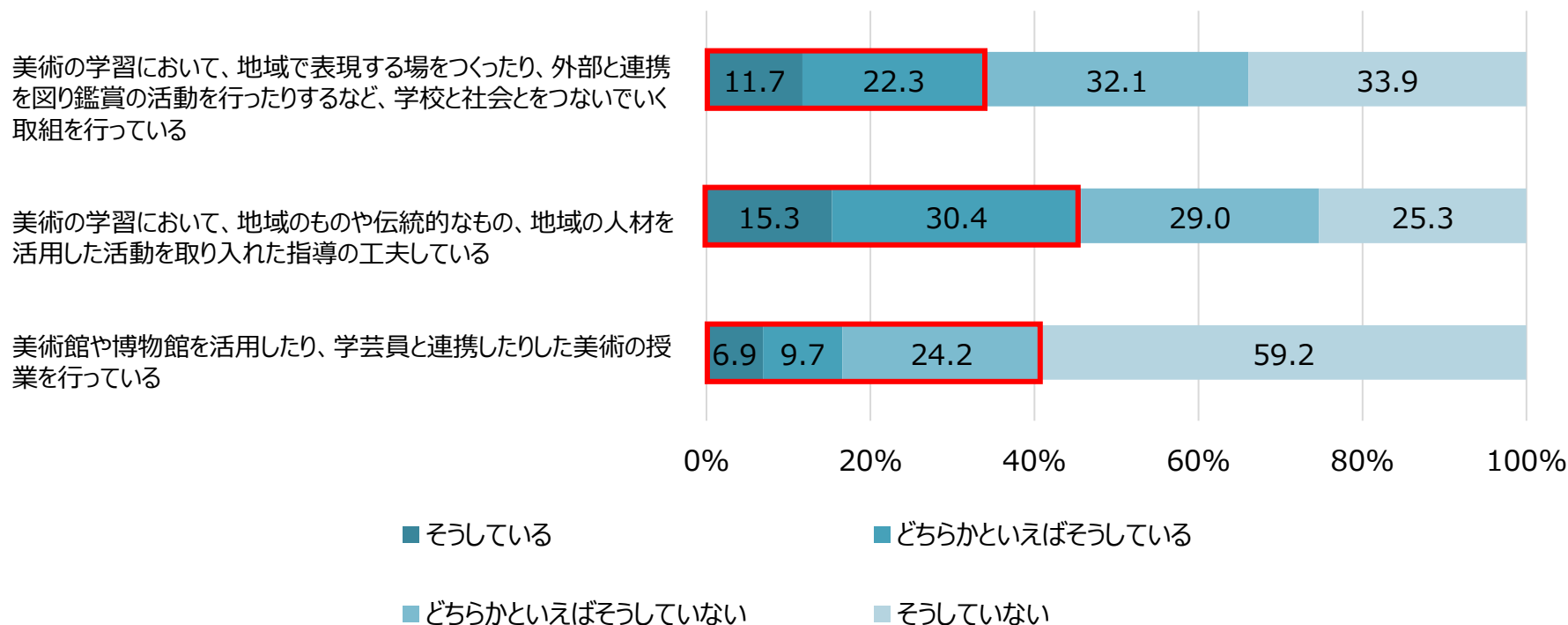


※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

- ✓ 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、地域との連携や文化施設の活用等について、肯定的な回答が半数を下回っている状況であり、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は2割以下であった。

美術科（第3学年）

暫定値



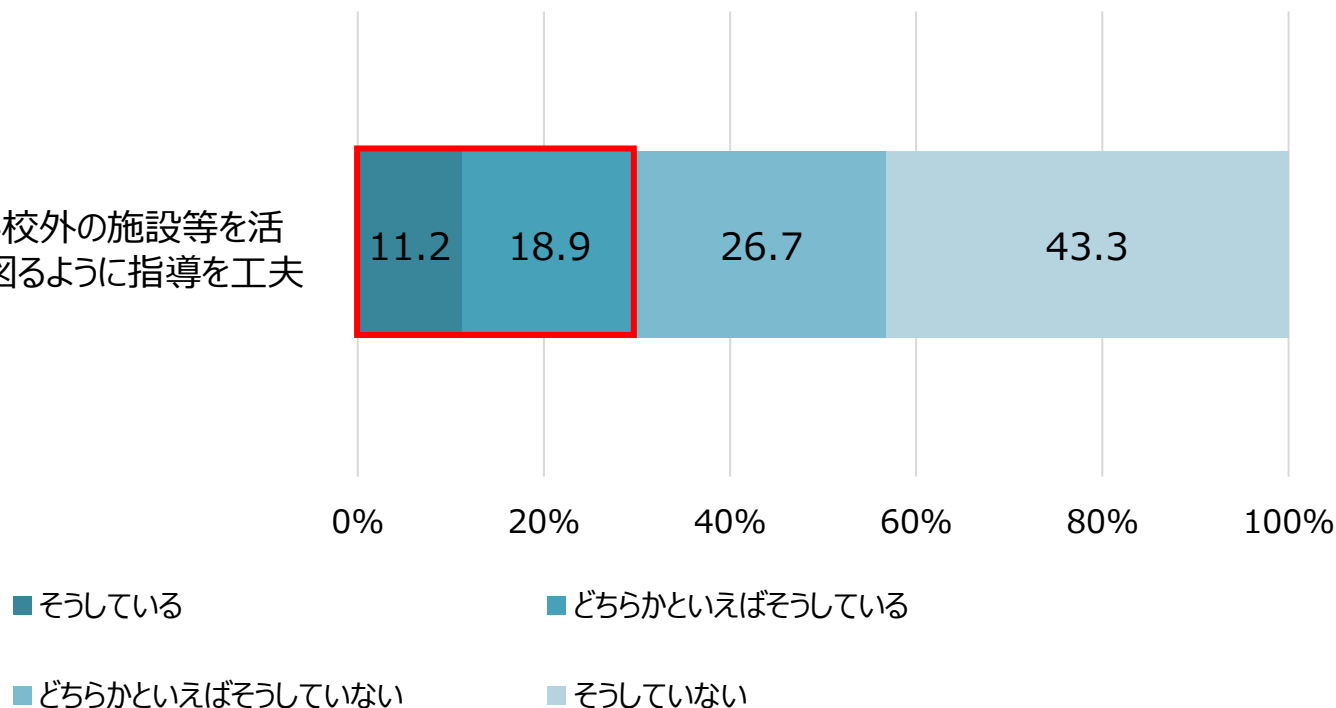
※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（％）（重み付き）

- ✓ 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、音楽Ⅰにおいては、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、肯定的な回答が半数を下回っている状況であった。

高等学校芸術科（音楽Ⅰ）

暫定値

外部の人の協力を得たり、学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している

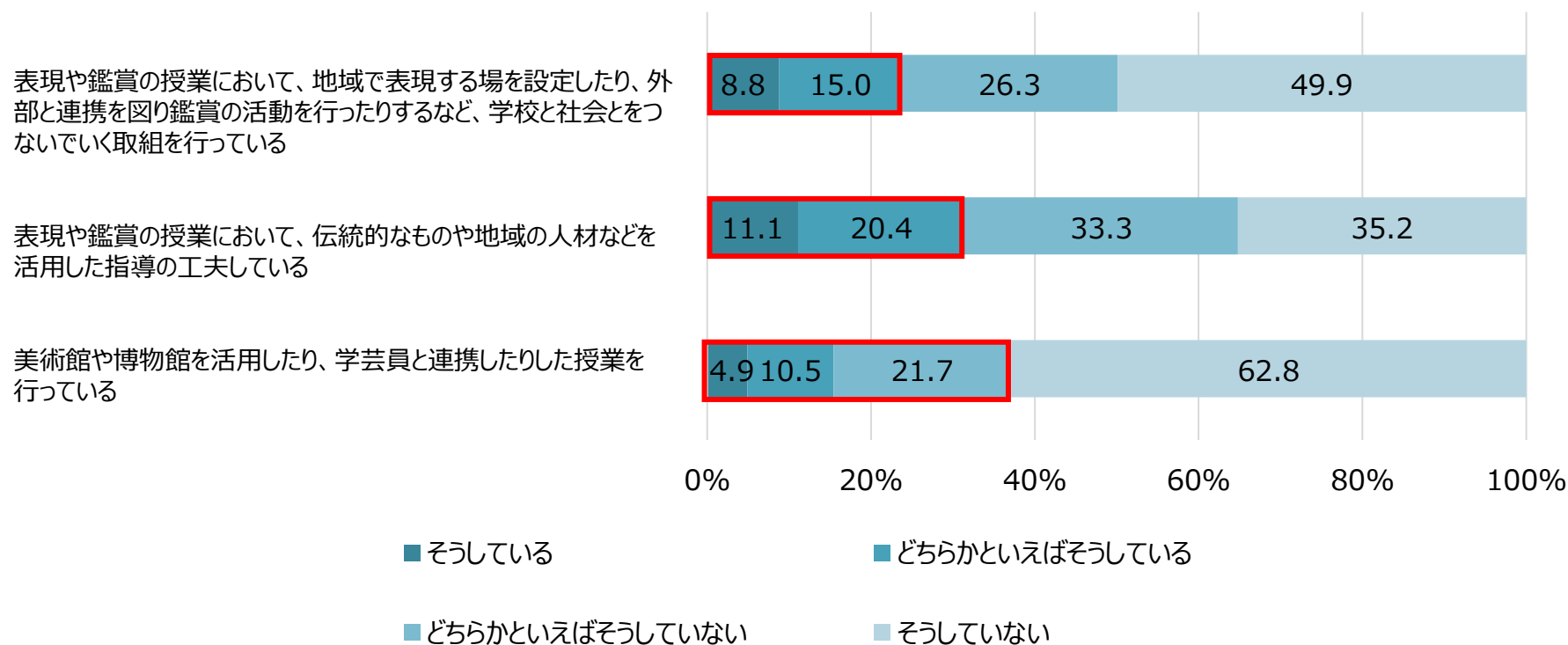


※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

- ✓ 令和 6 年度高等学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、美術 I においては、地域との連携や文化施設の活用等について、肯定的な回答が半数を下回っている状況であり、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は 2 割以下であった。

高等学校芸術科（美術 I）

暫定値



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%)（重み付き）

- ✓ 令和 6 年度高等学校学習指導要領実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、工芸 I においては、伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫については 6 割以上が肯定的な回答を示したものの、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は 2 割以下と課題が見られた。

高等学校芸術科（工芸 I）

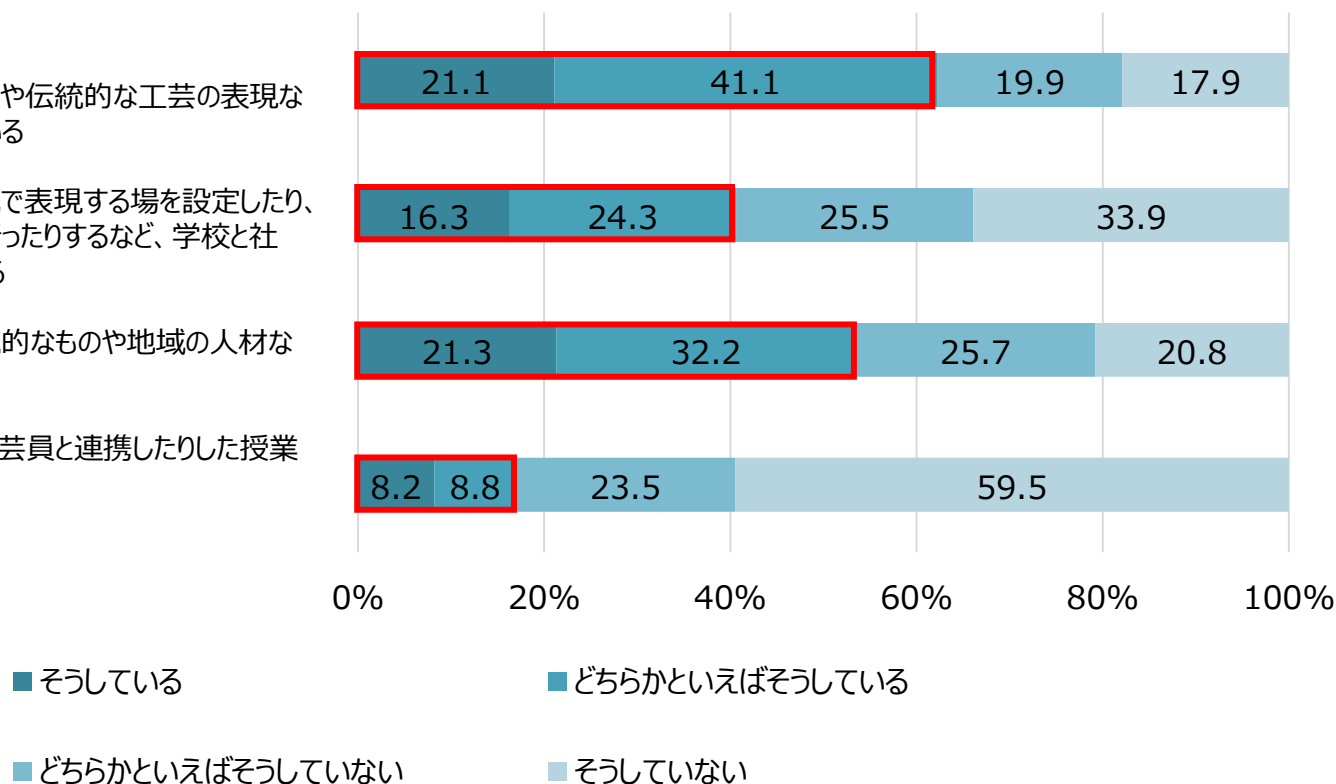
暫定値

表現の授業において、地域の材料や伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫をしている

表現や鑑賞の授業において、地域で表現する場を設定したり、外部と連携を図り鑑賞の活動を行ったりするなど、学校と社会をつないでいく取組を行っている

表現や鑑賞の授業において、伝統的なものや地域の人材などを活用した指導の工夫をしている

美術館や博物館を活用したり、学芸員と連携したりした授業を行っている



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

これまでの芸術ワーキンググループにおける 主な意見

第1～9回芸術WGにおける主な意見①

【創造性】

- 芸術系教科の特徴として**創造性**がある。自分にとってどんな価値があるかを考えることにより、世の中の様々なことが自分にとって意味のあることになる。それが芸術系教科を学ぶ意義ではないか
- 美術教育における**創造性について、意味や価値をつくりだす**ことは、見方・考え方に位置付けられているが、現実に対する意味、そして、まだ見ぬ未来に向けた意味、つまり、子供による問題提起が重要
- **創造**することの喜びを味わい、自ら考え、自らものをつくっていくという創造する能力は変化の激しい社会において重要な資質・能力であり、芸術系教科の根本となる。
- 児童生徒が主体的に自分の感性で作品をつくる際の前提としてコンセプトワーク（企画・構成力）を大事にしたい。論理的思考、**創造的思考**、批評的思考などが複雑に入り込んでいる。イノベーションが求められる現代社会においてこれら三つの思考は重要。
- 芸術教育は鑑賞者だけではなく表現者を育てるということを考えたときに、**創造性**と結びつく。子供たちの**創造性**を育むために、教師がどのように**創造性**を意識した授業デザインができるかを考えることが重要。
- 芸術系教科において**創造性**を育むためには、知性と感性をどのように関連付けて新たな価値を生み出すか、または自分で価値を見出すか、という学習が重要。
- 中核的概念等の示し方に関しては、現行の学習指導要領を発展し、**創造性や感性**といった要素でまとめるべき
- **創造性**は高次の資質・能力であり、**創造性**を支える基盤的能力を柱の中に位置付けることにより指導の具体性が実現される。
- 【音楽】音楽は再現芸術が中心であり、既存の曲から作曲者の意図を探りながら演奏していくという特徴がある。授業でみんなで演奏する活動で、作曲者の考えや音楽構造を読み込んでいく中で、いかに自分のオリジナリティのある表現を見いだしていくか、それをみんなで表現し創意工夫を位置付けていくのが大事。
- 【図画工作】図画工作・美術科の現行の見方・考え方の文末は「意味や価値をつくりだすこと」であり、教科の本質的意義である創造の重要な部分である。「つくる」ではなく「つくり、そしてだす」という中に、これまでになかった意味や価値を創出する意味がある。創造は現状の問題解決のために発揮されるだけでなく、未来に向けた問題提起としても発揮される。
- 感性や**創造性**が大切であり、感性はよさや美しさについて心が動く、この点を育てることが重要。**創造性**では、身体も使いながら自分自身にとっての意味や価値をつくりだすことが重要。それは、自分自身をもつくりだすことである。
- 【音楽】創造は大事なことだが、言葉自体が様々な意味を持ち、文脈によって意味が変わるので慎重にならないといけない。
- 【音楽】創造性は音楽の理解や技能、習得だけでなく、自らが音を生み出して新しい表現を構築する力。**創造性という資質・能力に主軸を置いて考えることも必要**であり、どのような資質・能力と関連するものであるかをぶれないように考えていく必要がある。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②

【創造性】（つづき）

- 【音楽】「創造的」が入ることで**芸術系教科の意味や意義が明確になった**。ただし、小学校では少し難しい可能性がある。
- 【美術】目標のレベルが造形的な使われ方に限定されている印象。**造形的な観点にとられすぎると、創造の土壌を耕す教育に繋がるかどうか疑問**。
- 【美術】**「感性や想像力を働かせ」の「想像力」を「創造力」にしてはどうか**。考え方が限定的なものから、のびのびとイメージを広げるというものにするという考え方で、クリエイティビティの創造が適しているのではないか。
- 【美術】学びに向かう力、人間性等については概ね同意だが、「美術の創造活動に取り組み」については**柱書に持って行く形に戻してもよいのではないか**。
- 【美術】美術教育の目標は、創造的な取組を通じて、主体的に世界を経験し探究することがベース。美術そのものが目標ではなく、**創造的な取組が世界を経験するための手段**。
- 見方・考え方の文末が「意味や価値をつくりだす」となっており、前段は様々だが、意味や価値を見いだす・つくりだすという事が、芸術系科目を通底した部分になるのであれば、**創造性の意味や価値を教育の中の重要な思考の一つとして位置づけるべき**。
- 各学校段階の目標について、小学校では「創造的につくったり見たりする技能」が新たに入っているが、創造の過程を考慮すると「創造的につくったり創造的な視点をもって見る」などしたほうが、教員が評価しやすいのではないか。
- 【音楽】小学校の目標について、知識及び技能の「曲や音楽を創造的に表現する」や学びに向かう力、人間力等の「創造的に音楽に関わり親しむ」の部分、「創造的」という文言が入るのはよいが、**文言の整理が必要**になってくる。知識及び技能の後半の技能に関する部分は、思考力、判断力、表現力等の「思いや意図をもったり～」との関連も出てくると思うので**3つあわせて整理の必要**がある。
- 音楽科の学習過程が、様々な活動をしながら諸感覚を働かせ、資質・能力を生かしながら資質・能力を高めていくこと踏まえると、私がイメージする高次の資質・能力を身につけた児童、生徒の姿は、「何かができるようになったら終わり」ではなく、**既習事項を想起して新たな価値を生み出す姿**だと考える。
- 【音楽】中学校音楽の目標見直しについて、「創造的」が知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の3つすべてに入ること、**逆にぼやけてしまうのではないか**。今後改めて整理していくべき。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③

【感性】

- 子供にとっての芸術系教科を学ぶ意義に関し、**子供の中心には感動（心が動かされる経験）がある**。調査結果からもその必要性は感じているが、音楽の学習が役に立つということを感じていない子供が多いことから、音楽を学ぶ意義を子供たちが捉えられるようにしていくことが大事
- 芸術系教科は**人間の感情に直接的に影響を与える**ことができる。**感性と知性の両輪を働かせることが重要**。特に感性に重きを置くモデルや知性に重きを置くモデルがあってもよい
- スマホなどで考える間もなく情報が入ってくる中であって、芸術系教科を通して自分とは何か、美しいと感じた理由は何かを思考することで、新たな価値をつくりだすということが重要。正解を求めるのではなく、身体と心を使い、感覚的に捉えることと論理的に思考することを繰り返すことによって、実感的な理解をすることに意味がある。
- 芸術系教科を学ぶこと自体が**感性**を育む上で重要であり、**つくりだす喜びそれ自体の大切さ**も忘れてはならない
- 芸術系教科を学ぶ意義を明確化することは教師にとっても子供にとっても重要で、**「感性」は一つのキーワード**になる
- 芸術系教科は**感覚的に捉えることが感性の育成にも繋がる**という特性がある。また人間の感情の変化に影響を与えたり、人間として芸術活動をする上での喜びを体験することが精神浄化につながっていく。
- 【書道】書道の制作過程は一回性であり、筆記具とその対象となる紙が触れ合う**触覚、研ぎ澄ます視点**が重要となる。
- 【音楽】見方・考え方について、もう少しすっきりさせるために、「音や音楽を芸術的な感性及び知性を働かせて捉え」、としてはどうか。これからのA Iの時代や、将来の仕事の展開を考える時に、**芸術的な感性及び知性は大事な視点**。
- 【音楽】「豊かな情操を培う」ことが科目目標に明記されるのは重要。
- 【音楽】自己のイメージや感情のように**直感的に想起されるものについて、自分にとっての意味や価値を見いだすために必要。楽しさや美しさを意識するためには感情面との結びつきが大事**。内容を含めどこかに記載が必要なのは。
- 「感性を働かせ」を文頭（見方・考え方）に置くのなら、冒頭の言葉が後段にもかかってくるので**「感性や想像力」の方が適切**。
- **「感性を働かせ」が文頭（見方・考え方）にきているのは重要**。感性や想像力が、造形的な視点でとらえる際や、意味や価値をつくりだす際のいずれにも働かせていることがこれまでの学習指導要領にも位置付けられている。
- 【書道】「書の美を感じ取り」となっているが、**高等学校では、美ということについて考えることが重要**。今後の検討の中で、**芸術教科全体の目標や見方・考え方、共通の学びとして美を位置づけられないか**。
- 「豊かな情操を培う」をすべての教科・科目の目標に入れたのは良いこと。情操とは、**心が動いても元に戻る、復元して安定して、その人自身の機能をフルで活用させられる能力**だと考えている。説明においても、そうした気持ちを安定させることも含むよう整理できるとよい。
- 「感性を働かせ」（見方・考え方）に関して、芸術教科の領域を代表する文言の一つであり、可能な限り共通した書きぶり・表現・言葉遣いがふさわしい。**すべてに関わる土台という意味で、文頭に感性がくるのはありうるのではないか**。
- 目標からみたときの高次の資質・能力を考える必要もある。初めて教員が「高次の資質・能力」を見たときに、「高次の」が論理的なイメージになってしまうのではないか。**芸術の基本である「直感」「感性」「創造」などのキーワードを入れるのがふさわしいのではないか**。

第1～9回芸術WGにおける主な意見④

【身体性】

- 身体性を音楽学習のみならず、教科横断等の枠組みに位置付けることで、我が事としての学習が実現し、ひいては全ての教科等にかかれた感性や知性、創造性の土壌となり得ると考えている
- 芸術系教科では、実際に本物に触れる教科特性があるので、身体性が重要。思考・判断・表現の技能に偏った授業も見られる中で、聴いたり、目で見たり、感じたりしたことを学びとして表現したり、言葉で表していくことも大事
- デジタル機器の活用も大切であるが、実際の対象物を諸感覚で感じるフィジカル要素も重要
- 体験活動や諸感覚を働かせて学ぶフィジカルに関するものが教科理解の上で重要。幸福な人生の実現のためには、トップダウン型の学習だけではなく、美術教育に多く含まれ、学習者本人のありようを尊重した学びであるとともに、幼児期から繋がる諸感覚を駆使した身体性の学びであるボトムアップ型の学習が必要である。
- 芸術系教科の意義、強みは、個人の身体的体験により感情や感覚を巻き込んだ学びができること。個人の感覚・感情と結びついた学びにより身に付いた知識は、他の学習でも生き、ちょっとした違和感に気付く能力のように社会の様々な職業でも生きる。
- 体験が大事であることは言葉で伝えるのではなく、実際の音楽体験や造形体験に基づいて子供たちが実感するものでなければならない。美しいものをつくらなければならないという結果を重視する価値観が子供たちの中にあり、それを払拭していくことが重要。
- 【美術】身体の諸感覚を働かせることは重要であり、芸術系教科の役割。検索すればすぐに答えにたどり着ける環境も大事かもしれないが、逆に想像すること、新しいものをつくりだすこと、問いを立てることの妨げになり得る。タブレット端末は答えを見つけるのではなく、問いを生み出すことに用いられることが重要

【想像力】

- 想像力は図画工作・美術の現行の見方・考え方に含まれるキーワードであるが、芸術系教科・科目全体で育成すべき資質・能力としていくことが重要。想像力を生かし、授業で学んだことと社会や生活の中での芸術に共通項を見いだすことが芸術を学ぶ意義の認識に繋がる。
- 【図画工作】図画工作では児童が自分のイメージをもちながら主体的に発想や構想をすることが重要であり、発想や構想をする時間を確保することやICT端末を活用することも考えられる。
- 【音楽】現行学習指導要領では「自己のイメージや感情」が入っているが、たたき台では削除されている。現場の子供たちの様子を踏まえると、削除してもよいかどうかは検討が必要ではないか。
- 思考力、判断力、表現力等について、言葉で考えず、頭の中で想像することが原点と思うので、イメージ力は強調してもよいのではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑤

【多様性理解】

- 「**多様性の包摂**」はこれからの時代において重要。特に芸術系教科ならではの様々な学びにつながる
- **多様性を個人や社会の力に変えていく**という点が芸術系教科の強みであり、これを基本的な考え方として、芸術系教科を学ぶ意義を考えていきたい
- 芸術系教科は絶対的な正解がない学びであるので、**多様性（寛容性）の概念**も入り得るのではないか
- 芸術系教科では、一人一人の特性を生かした学びが可能となる。特別支援教育の学びは芸術系教科との親和性が高く、例えば合唱では声が高い人、低い人で別れて歌うが、これはインクルーシブな場であり、**多様性の包摂にもつながっていく**
- コマ撮りアニメやプロジェクションマッピングといった様々なデジタルを活用した題材が行われているが、小学校のクラスに学習面や行動面で著しい困難を示す児童がいる現状で、デジタル学習基盤は**多様性を包摂**するために使うことも考えられる
- 芸術系教科は分からないことや理解できないことに面白さを感じることがスタートであり、理解することがゴールではないところに特色がある。探究を通して、自分や他者、世界や社会におけるウェルビーイングを理解していく楽しさが、**多様性につながる**と考えている。
- 表現や鑑賞における対話において、自分の考えや意見をもつことに加えて、他者を受け入れる学習が学校教育の学びとして重要。将来社会で他者と協働しながら生きていくことに有効であるとともに、互いに尊重する態度を育することにより**多様性の包摂**の視点からも重要となる。
- 【書道】教師の提示する文字や作品にいかに近付けるかといった再現性を求めるだけの授業からいかに脱却できるか。ICTを活用して生徒の学習履歴を保存することで、生徒一人一人が感じたり考えたりしていることが異なったり、単元が進む中で、自己や他者の考え方や感じ方が変容していくことを自分として確認することもできる。そうした活動の中で、自己の考えをどのように形成していくか、という視点が、**多様性の包摂**につながり、芸術科の強みである。
- **学びに困難を抱える子供たちにとって芸術系教科の学びは重要**。論点整理に示されている「「好き」を育み、「得意」を伸ばす」が、各教科の特性を考えた時に学びに向かう力・人間性等に限られず深い学びの実装にも関わるという視点からの検討が必要。
- 国際化が進む中、自分とは何かを考える上で日本の文化への理解は重要であり、多様な文化の理解や多様性を尊重する児童生徒の育成につながる。
- 日本国民としての文化理解や国際相互理解の基盤となるものであり、自国の文化芸術や伝統文化の理解は、今後の社会変革期を乗り越える上でも必要である。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑥

【主体性】

- 子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でも放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考慮ことや、学習の過程を重視した指導が求められる
- 表現と鑑賞の関連について、例えば、国際バカロレアの中等課程では、調査研究を行い、深く文脈に沿って美術を捉え、アイデアを探究し、創作し、振り返りをする。作品だけで評価するのではなく、過程を大切にすることにつながる
- 子供自らが問いを立て課題を解決できるような授業をすることが大切。また、教師自身が授業を通して、どんな子供を育てるのかを考え、子供の姿からその資質・能力を発揮できているか捉えて、価値付けていくべき
- 子供の表現に関わる大人や周囲の環境について、教師や子供と関わる大人等の学習観や子供観もアップデートさせることが重要。子供が自律的に学習することがどういうことなのかについて共通理解を得るべき
- 【音楽】思考・判断・表現と表現の技能をつなぐ資質・能力として、試行錯誤する力が重要。試行錯誤して答えを見つけ出すことは問題解決の能力として重要である一方で、試行錯誤する場面が少なくなっている。量的な時間としてではなく身体により体験される質的な時間として試行錯誤の重要性を考えていく必要がある。
- 【美術】美しいと感じると同時に、なぜ美しいと感じたかを考えたり話し合ったり説明したりする力がますます重要。教師が視点を示すことは、発達段階に応じて必要だが、知識を一方的に教えるのではなく比較したり語り合ったりして自ら獲得していくことが重要。また、教師が子供の多様な視点や考え方を見付けたり価値付けたりして、子供が気付いていないところも教師が拾い出して整理する力が求められる。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等の「主体的、協働的に、楽しく創造活動に取り組み」の部分は、現行学習指導要領の学年目標にも記載があり、楽しさを感じながら創造活動に取り組むことの大切さを改めて打ち出しており重要な視点。
- 【図画工作】「主体的・協働的」は、教師が指導することと子供が考えることのバランスを考え、子供たち自身が考えることが出来るようにするというところに繋がるものであり重要。

【協働性】

- 子供たちが芸術系教科の意義を感じながら学ぶことが重要。学校という集団の中で芸術を学ぶ意義とは、他者と自分との関係性の中で学校が相互承認の場であり、自己肯定感や自己有用感が育まれていく
- 端末を活用しながらも、個人的な作業ではなく、ともに学び他者と一緒につくりだす喜びや自分が刺激を受ける喜びが必要であり、学校で芸術を学ぶ意義はここにある。
- 【音楽】聴覚だけではなく、視覚や雰囲気など諸感覚を働かせた学びが重要。音楽は時間の流れとともに消えゆく芸術であり、一回のみの時間を楽しむことに音楽のすばらしさを感じられる体験が大切。仲間と一緒につくり上げることの喜びが特徴であり、少人数での可能性や自分で選んだ仲間とともにつくりあげる、多様性を意識することも重要。
- 【音楽】音楽は諸感覚を使う科目であり、仲間とつくり上げながらも自分がどう生かされているか、どんな役割を果たしているかを捉えることが必要。伝統文化を題材にするときには自分自身が文化の継承者であることなどを自覚できるようにすることが必要。
- 【メディア】創造的なプロジェクトを協働して実行する力を育むことが重要。作品を構想して発表するまでの間に多くの対話があり、自身の考えを表明するとともに他者の多様な考え方を受け入れ問題解決の糸口を探る。よりよい社会の形成や民主主義社会の基盤を支えることにもつながっていく。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑦

【充実感、達成感】

- 楽譜を読める技能など、粘り強く学習しなければ身に付かない身体的な技能を習得する過程で達成感などを感じることができ、これが学びに向かう力・人間性等にも関わってくるのではないかと
- 表現や鑑賞の前提として、子供の感覚や情意、感性が位置付いていることが必要。子供が教師に伝える「できたよ」には3つの意味があり、①作品・発表ができたという意味、②イメージできたという意味、③私ができた、という意味がある。「私ができた」に対して、活動において子供の感覚や情意、感性が働いた表現や鑑賞として捉えることが教師には必要である。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等に「楽しく」が位置付いた点は理解できるが、学習に対する子供の情意的な心づもりが必要であり、「楽しい」や「楽しく」が表面的な感情ではなく、その意図が通じるように表していくことが必要。
- 「楽しさを味わう」や「喜びを味わう」などの使い方が各教科微妙に異なり、教科の特性から考え直す必要があるのではないかと。芸術系教科では特に大事な部分であり、学校において目指すべき、学びに向かう力、人間性等としてどういう表現が良いか精査する必要がある。「達成感を味わう」のように内発的な動機付けが高まることに関連する文言を含め、改めて検討していくことも必要。

【文化の理解】

- 芸術が生まれてくる背景や歴史の基となる文化や社会があることを理解することが重要。グローバルな視野の下に自己を見つめ、多様な文化理解に伴って再度自己理解へつなげていくことも必要。
- 芸術系教科の特質は、文化芸術の継承と発展を担うもの。
- 発達の段階を踏まえつつ、鑑賞だけでなく、表現においても文化の理解について学び、芸術系教科全体を通して学習することが大事。
- 【美術】子供たちが身近な生活の中に根付いている美しい文化を見付けだすという活動を通して、自国だけでなく他国も含めた文化の理解に繋げていくことが重要。
- 【図画工作、美術】「文化」が各学校段階に位置付けられている（見方・考え方）が、子供たちには継承と創造の二つの意味をもつ。文化がもつ意味をふまえ、発達の段階に応じた文化の位置付けを整理していくことが重要。
- 【美術】美術文化と豊かにかかわる資質・能力の育成について、教師がその価値を一方向的に教えるのではなく、子供たちが作品と出会い、自分自身の目で見えることを出発点にして、美術の働きや美術文化のよさを楽しみ、味わうことが重要。
- 【美術】美術文化の理解というと、鑑賞をイメージする教員が多いかもしれないが、全国における実践には表現の授業も数多くみられる。見ることとつくることの両方を通して、文化が身近な生活にあり、歴史の中で受け継がれてきたという実感的な理解に繋がっていくことが大事。
- 【美術】「美術や美術文化と豊かに関わる」（目標の柱書）について、「美術や文化と豊かにかかわる」としてもよいのではないかと。芸術系教科は文化を根底から広く捉えられる教科であり、芸術が相互に関連していると考えます。
- 子供たちが向かうべきは文化を継承し発展することであり、発展させるという思考を育むために、創造力、意味や価値を見いだすという風に働かせるべき。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑧

【伝統や文化】

- 文化への理解は重要であり、我が国の文化とはどういうものなのか、どういう文脈でその文化があるのかといった、広い視野でとらえることが大切
- 伝統文化の学習は重要。日本人としての見方あるいは考え方、ひいては日本人とは何かを考えることが重要
- 伝統文化の学びについて、外国の文化を知ると自国の文化のよさも学べる。地域素材や我が国の伝統音楽に関する教材を用いるなど、学校で伝統的な音楽や文化をしっかりと学べるようにしていくことは重要
- 【音楽】グローバル化する社会で生きていくために異文化理解が重要であり、我が国の郷土や伝統音楽に対する理解はもちろんのこと、世界の諸民族の音楽に対する理解について学ぶ意義を示すことは大切。
- 【書道】伝統文化の視点として、自国の文化の理解は他国の文化の理解につながりその逆もしかり。グローバルな視点、多様性の包摂に繋がっていく。日本特有の視点がこれからの社会で日本独自の新たな価値を生み出す根底になる。
- 【音楽】見方・考え方の教科固有の考え方や判断の仕方に、小学校にも「伝統に関わらせる」ことを含めていることは重要。
- 【書道】伝統や文化について、伝統文化の目標に係る文言には賛同するが、見方・考え方に含めなくてよいのかどうか検討が必要。
- 【図画工作・美術】見方・考え方については、各学校段階を通して共通に示すと記載があり、全体が端的に示され、かつ文化を重視することを踏まえた修正がなされているのはよいと思う。伝統という視点入れる考え方もあるのでは。未来の社会の在り方を創造することや、学びを生きた知識や技能に学びを繋げていくためにも、伝統と文化は切り離せない存在である。
- 各科目の見方・考え方に「伝統や文化などの視点」などの文言が共通して入ったのは、文化に対して責任持つ教科というのが明確にできて良かった。文化と我々が取り上げたときにはそこに継承と発展がある。子供の学びに文化としての発展を踏まえているということおさえておきたい。
- 【音楽】日本の伝統音楽は、西洋音楽とは性質が大きく異なり、子供たちの身体感覚に十分に根付いているとは言い難い現状がある。まずは価値理解を求めるのではなく、「異なる音楽が存在することを実感する経験」そのものを学びの出発点とすることが重要。価値や意義の醸成には、小・中・高を通じた長期的な視点でのカリキュラム・マネジメントが必要である。
- 【音楽】音楽の種類によって、音の属性ごとにどこまで分解できるかが異なり、伝統音楽では音色や奏法などが一体的に表される。こうした違いを考えることが、音への向き合い方や美意識の差異に踏み込む本質的理解につながる。
- 【音楽】伝統音楽を扱う授業には、領域や分野を一体的・横断的に関連付けて題材化できる特質がある。指導者はそうした特質を踏まえ、授業を構想する力が必要になる。
- 【音楽】学習指導要領実施状況調査における伝統や文化に関する設問に対する回答について、一定の成果が見られる一方、肯定的に捉えられていない生徒も一定数存在しており、そうした層に対して実感を大切に授業づくりが必要。音楽の再現にとどまらず、新たな表現を創造する活動の充実が、今後一層重要になり、学習指導要領で示す教材の取扱い、指導方法、楽器の取扱いに関する事項等についても検討していく必要がある
- 日本の伝統文化は象徴性・デザイン性・領域横断性が高く、理解し味わうためには他文化との比較や実感を伴った学びの工夫が有効。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑨

【伝統や文化】（つづき）

- 他教科と関連付けた校外学習など柔軟な教育課程編成が期待される一方、授業時数の制約という課題もある。
- 伝統や文化の学びを表面的な知識を得る学習にとどめず、実践を通して学ぶことで、児童生徒自身が伝統や文化の継承者・当事者として捉えることができる。
- 教師自身が実物に触れ、感動する経験を持つことが大切。
- 伝統と文化を固定的なものではなく、未来へつながる創造的な営みとして捉えることが学びの質を高めていくことにつながる。
- 伝統と文化は、子供の発達段階との関係で捉えることが大事。
- 子供たちの日々の生活の所作や振る舞いなどを、身体性や体感、実感と結び付けて学ぶことで、伝統文化の意味や価値を見いだすことができる。伝統文化を特別なものとせず、授業と学校や子供たちの生活を関係付けた指導が重要となる。
- 伝統文化を受け継ぐ人の姿勢や息遣いをじっくり鑑賞することは、鑑賞の深まりにつながる。
- 伝統文化から子供たちが何を学び、どのような資質・能力を身に付けるかを、高次の資質・能力に照らして一層明確にしておく必要がある。その前提として、教師が学習としての視点を持ち、指導力向上のための研修機会を充実させることが重要。
- 伝統的な芸術のエッセンスは、古典の学びとして完結するだけではなく、美の様式や素材、所作、しつらえなどそれぞれの観点において新しい表現へのヒントになる。メディア芸術と切断するのではなく、新たな創作につながる刺激に満ちた領域としてリンクさせていくべき。
- 【書道】生活様式が変化・多様化する中で、書の伝統と文化を実感的に理解させることは大きな課題。
- 【書道】書の伝統と文化は文字文化に限らず、生活文化や社会との関わりの中で生まれてきたものであり、その視点から生徒が理解できるようにする意識が必要。
- 【書道】書は東アジア漢字文化圏で発展した芸術であり、中国から漢字をどのように受容し、日本文化に融合させてきたかという視点から、仮名の書や漢字仮名交じりの書など、日本独自の書の学習を一層充実させる必要がある。日本で新たに花開いた表現に目を向けることが、文化理解や国際的な視野の育成につながる。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑩

【多様な芸術や文化】

- 映像やメディアについてどこかで触れておく必要があるのではないかと。既存の芸術分野のリソースでこれらを検討するのは制限がある。調整授業時数も活用できるのではないかと。
- 表現の多様性については、分野が統合されて総合芸術が生まれるという視点だけでなく、もともと芸術は総合的なものであり、切り離すことはできないという視点も大事。文化によっては音楽と舞踏が一体となった芸術分野も存在する。特に高等学校芸術科においては、分野ありきではなく、諸芸術の横断的な視点を基盤とした考え方が必要では。
- パフォーミングアーツは、身体を用い、やり直しのきかない一回性の条件のもとで実践される活動である。編集可能な環境に慣れた現代の子供たちにとって、授業という守られた場での身体的実践は、創造性を支える根源的な能力の基盤を築き、多方面への発展の可能性を開く。
- 特別支援学校において、芸術で学んだことが他教科と結び付き、子供が一体的に学んでいく姿を見た経験から、多様性の包摂の観点においても、多様な芸術や文化に関する学びは不可欠である。
- メディア芸術や舞台芸術は複数の分野が統合されて成立するものであり、従来の区分だけで芸術を捉えるのではなく。横断、統合する「複合芸術」という視点が必要。複合芸術においては各分野の専門性がさらに必要になり、これから必要なのは各領域の専門性をどのようにインテグレートして新しい表現や学びを生み出すかという視点である。
- メディア芸術教育では、現代の子供たちをメディアの「消費者」ではなく、「制作者」や「批評者」に転換していく教育が必要。ただ見る、ただ遊ぶだけでなく、なぜ面白いのか、どのように作られているかなどといった価値観やリスクを自ら考えて表現することが求められる。発達段階に応じた教育が必要であり、これらのカリキュラムを、それぞれの教育分野の教育と並行して「総合複合芸術」として体系的に教える分野の新たな設置が必要では。
- 「映像メディア表現」という用語は曖昧であり、現在のメディア芸術の状況を踏まえた整理が必要である。機材操作に終始することを避け、学びの具体的な内容が設定できるよう、具体的な表現ジャンル名を示しては。
- 学齢期に小さな創造的経験が積み重ねられることで、将来の大きな創造を生み出す態度や力量が養われる。ジャンルを限定せず、多様なメディア表現として広く捉えることが、子供たちの伸びやかな発想を後押しする。
- 学校教育では教科や学問分野ごとに学習が分割されがちであるが、各教科の学びを通して多様な芸術を捉えることは、芸術や文化の本質を実感を伴って自分事として考えることにつながる。
- 多様な芸術や文化を学ぶことにおいては、学習の目的を常に考え、教科目標はもとより、高次の資質・能力、見方、考え方をしっかりと位置づけていくことが重要。
- 学校で子供たちが多様なメディアに出会うことが目的ではなく、多様なメディアや伝統文化を通してどう学んでいくかが重要。学校全体で目指している子供の姿もあり、教科横断の中で、子供たちがどんな人間になって活躍していくか考えながら、メディアや伝統文化に出会わせ、子供たちが成長していくところまで教員が考えることが重要。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑪

【多様な芸術や文化（続き）】

- 子供たちが多様なメディアを通して何を学ぶかが重要。発達段階を踏まえた問いの設定により、制作者・批評者としての視点を育成することが大切である。
- 芸術系教科・科目の学習は、各時代の芸術や文化と深く結びついており、同時代性をもっとも反映する学びであるが、近年の多様なメディアの発達と普及に対処するための学習ではなく、その多様性の中にある普遍性をどこに設定するかが重要であり、現在の学校現場が求めていることでもある。
- 子供たちを、メディアの単なる消費者にしてはならないとの意見は、多様な芸術や文化に関する学びを中心とする芸術系教科科目の教科性を示唆されたものである。
- 【書道】筆の運びや身体の動きといった制作過程を含めて提示することで、作品理解を深めることができる。時間性や運動性を伴う表現を可視化する取組は、多様なメディアの機能を生かした学びとして有効である。
- 【書道】多様なメディアの機能を生かした学びとして、書の特質である一回性に関して、美術教育で行われているメタバースを活用した鑑賞方法が効果的では。作品制作の過程で生じる筆や身体の動きを動画で展示することで作品の表現性、効果を時間性や運動性の視点から深く理解できる。また、展示の空間づくりや順序、メッセージを考えることで、アートゲームをよりリアリティを持って実現できるのではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑫

【知識・技能】

- 芸術教育そのものである**知識・技能の学びを大切にすることが芸術教育の本質**である。
- 【音楽】音楽をイメージや感覚で捉えるだけでなく、**用語や記号を正しく理解することで他者との共有や共感が可能となる**。知識を積み上げていくことで、生活体験と関わらせながら音楽の**理解がより深まる**ことに繋がる。
- 【図画工作】児童が自分の表したいことに合わせて表現方法を選んだり組み合わせたり新しい表現方法をつくりだしたりする、**自分なりの表し方を工夫することが技能として重要**であり、深い学びや**創造性**につながる。
- 【美術】形や色彩、材料、光などの造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風で捉えるといった**知識を今後も明確に示していく必要**があり、言葉を使って考えたり、話し合ったりする学習の充実に繋げていく必要がある。このような知識を得ることがものの考え方や捉え方の豊かさになり、**学びの深まりが生まれる**。
- 【音楽】音楽の**技能**は学校を離れたときに、自分一人では身に付けることが難しい性質があるからこそ学校でどのような資質・能力を身に付けていくのかを考えていく必要がある。**音楽に出会ったときに理解できないことが拒否につながるのではなく、学びや豊かな人生のスタートになるためにどう考えるか、どのような知識が必要なのか、自分たちで探究していく力が大事**。
- 【音楽】「②表現したいことをどのように形にできるか」について、技能は含まれるのかどうか。表現したいことをどのように形にできるかに関して技能は関わってくるものであり、**思いや意図をもつことは当然だが、それをどのように形にできるかは技能が必要**となる。
- 【図画工作】**知識と技能の両面に関連させた議論が重要**になってくるのではないかと。
- 【図画工作】知識及び技能の「造形の働き」の部分について、**自分や友達の作品、生活の中の造形の作用や役割を理解することは図画工作科を学ぶ意義に繋がる**。
- 【美術】知識及び技能の「みることができる」が「創造的」にかかっているのは疑問。鑑賞は創造的に観ることより根拠をもって類推していくことが主である。**知識及び技能の対象を表現・鑑賞に留め、取り組み方、目標達成のレベルのように段階的に記載するのがよいのではないかと**。
- 【美術】**美術の働きや美術文化**を知識として記すことは概ね賛成。鑑賞のみならず、表現活動でも行う事で、美術文化を実感としてとらえることができる。注意すべきは、実感を伴いながら理解を深められるため、**表面的な学習にならないように学校現場に説明していく必要がある**。
- 【映像】届けるもの（メディア）があって初めて人々の目に触れる。**メディアの特性やどのようにそれが届けられているかという点に関する知識も必要**だが、あまり強調されていないのではないかと。
- **芸術系教科・科目において知識及び技能が何であるかということは問い直す必要がある**。鑑賞における技能が成立するのかどうかを含めて改めて考えていくべき。
- 【図画工作】目標の後半に「創造的につくったり」とあるが、高次の資質・能力では「実感を伴って理解している」となっており、**目標と高次の資質・能力が演繹的に対応していると言えない**。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑬

【知識・技能】（つづき）

- 総則評価部会の構造化パターンにおいて示された、高次の資質・能力を「知識及び技能の統括的な理解」とすることについて、「理解」という言葉で文末をまとめることは芸術系教科の内容の特性を考えたときに適切かどうかと考える。
- 高次の資質・能力に「～実感を伴って理解している」とあるが、音楽の学習において「わかること」、「できること」といった基本的なことから考えていかなければならない。獲得すべき知識及び技能は、手続き的なものを含んでいる。今の書きぶりだと、実際に「できる」ことよりも、それを言語化できることに重きを置くように見える。学習評価を考えると、「理解している」という文末の表現は課題が残ると考える。
- 「～実感を伴って理解している」の表現では、これまでの知識及び技能の捉え方と変わってくるので現場で混乱する恐れ。「統合的な理解」については再考が必要と考える。解説などで十分な説明が必要になる。
- 高次の資質・能力の文末が「実感を伴って理解している」となっているのは、一見整理されたように見えるが、音楽科において「理解」という言葉は知識のみで使われており、技能では使われてこなかったので誤解が生じる可能性がある。身体で出来るようになることが軽んじられているように見える。技能習得の時間が削られることの無いように再度検討いただきたい。
- 「実感を伴って理解している」について。これまでと異なる解釈になるので現場で誤解されないかと危惧。中高の教師は専科なのでまだ理解できるかもしれないが、小学校では学級担任が受け持つので特に心配。教員以外も広く学習指導要領を読むことを踏まえると、文章表現をそろえることが本質的なのかは疑問。内容は問題ないが、表現ぶりは検討が必要。
- 「実感を伴って理解している」について、解説が欠かせない。「高次の資質・能力」と「個別の知識及び技能」・「個別の思考力、判断力、表現力等」に順序性があるように感じてしまう。
- 「実感を伴って理解」とあるが、技能を理解すればよい（実際にできなくてもよい）という誤解を招きかねない。知識及び技能は往還関係にあると思うが、順序があるように解釈されないか。
- 「高次の資質・能力」の「捉える」と、資質・能力（概略）の「理解する」の違いは何か。誤解を生むことがない文言にしていかなければいけない。
- 知識及び技能の「実感を伴って理解」は、美術科は他教科の技能とはとらえ方がずれる面もあると考えられるので慎重に考える必要がある。
- 【書道】知識及び技能の「実感を伴って理解」について。メタ認知するという意味で一定程度理解はできるが、技能は体で覚える側面もあることから「理解する」ということには慎重に検討してはどうか。
- 知識及び技能の高次の資質・能力の「理解する」は何を指すのか。言語化することよりも「創造的に表現できる」ことが一番重要であることが学校現場に伝わるようにすべき。高次の資質・能力は子供が最終的に到達できる姿をプレビューしたものと理解。
- 高次の資質・能力について。個々の知識や技能が並列な絵が示されているが、ある知識と知識が統合して新たな知識を獲得するなど、階層がある。「個別の知識」というひとまとめにするのは適当ではないのではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑭

【知識・技能】（つづき）

- 【音楽】目標に「曲や音楽を創造的に表現する」とあるが、再表現だけでなく、思いや意図をもって表現することを考えると、「思いや意図にふさわしい表現をするために～」であったり、「曲や音楽にあった表現をするために必要な技能」といったようにしてはどうか。
- 【音楽】目標に用いられている「曲や音楽を創造的に表現する」の文言。歌唱や器楽の学習では、まず曲が存在するのに対して、音楽づくりや創作では、音を音楽へと構成するので、「曲と音楽」と併記しているのだと想像する。しかし、歌唱や器楽においても、曲という形や様式を踏まえつつ、自分の感性やイメージに基づいた質感の表現を目指すという意味では、「音楽を創造的に表現する」という言い方でも十分に趣旨が伝わるのではないか。
- 【音楽】技能の理解についていろいろ検討いただき感謝。「言語化できることと言語化できないが理解できていることということが～」と記載があり、これにより学習のあとに、身に付けたことを必ず説明しないとけない授業が増える「危惧がなくなる」のではないか。
- 知識及び技能に関する統合的な理解の文末記述について、「言語化して理解できることと言語化はできないが身に付けることがある」ということは大事。
- 知識及び技能に関する統合的な理解の文末表現について、丁寧に説明していく必要。どのように伝えていくかがとても大事。
- 【音楽】「音楽表現を深めることができる」という点については技能的なイメージがあるので、「音楽表現における技能的な部分」の技能をどう捉えて提案していくか、考え方の整理が必要。
- 【美術】高次の資質・能力の最後を「理解している」でまとめることで混乱が生じつつも、教育現場が受け止めやすい表現というものもある。
- 図画工作や美術の知識を位置づけるにあたり、「美術の働き、美術文化について理解を広げる」というのが実施状況調査の結果等を踏まえると重要。今般教育に携わる関係者でも芸術文化の働きについて十分な理解されているとは言えない。将来、社会を支える子供たちに、芸術教科は芸術だけで完結するのではなく、他の多くにお互いに支える能力を育てているということへの理解を促すことはとても重要。
- 【美術】知識及び技能に関する統合的な理解について、生徒がほかの学習や生活の場面でも活用できるようになった姿をイメージできる思いが込められ、丁寧でありがたい。「実感を伴って理解している」という文末表現が、今回中学校美術などで「美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら」と場所が移動しているのは意味があるのではと思った。鑑賞領域についても「実感が伴って」の文言が入っているのはありがたい。
- 【美術】中学校美術の「自分との関わりの視点から」の文言は、「自分との関わりから」でもよいのでは。
- 【図画工作】知識及び技能に関する統合的な理解について、文言整理された。ここをしっかりと丁寧に説明していくことに加え、よりわかりやすくなるよう検討を続けていく必要がある。
- 【図画工作】図画工作ではこれまで知識を共通事項として取り扱っており、知識を活用して思考力、判断力、表現力等を働かせていると解説されている。それをふまえると高次の資質・能力の知識と思考力、判断力、表現力等の関係についてどう整理するのか、今後検討が必要。

第1～9回芸術WGにおける主な意見⑮

【知識・技能】（つづき）

- 【工芸】目標の知識及び技能の鑑賞領域について、工芸Ⅲでは「工芸作品などの情報を精査しながら情報を読み取る」とある。これまでの学習指導要領になかった文言で現場には戸惑いがあるかもしれないが、工芸の立場からすると情報を読み取る、精査するというのは工芸の学習にとっては重要な要素である。
- 身体性を含む表現に「理解している」の文言について、各教科で技能をどのように捉えているか気になる。例えばダンスは芸術表現と捉えると、保健体育と芸術科の技能の位置づけは同じような部分がある。そうしたことを踏まえて知識及び技能の整理がされ議論されていくことが理想で、教科横断的な学びの実現を現場教員が考えた時のヒントになる。
- 各教科科目において「理解する」という言葉を使いながらその内容が違うというのは現場の混乱を招く危惧があり、各科目で「理解する」の意味内容や技能の捉え方が整理されていくと良いと思う。
- 高校では各科目を学ぶ前提として「芸術を学ぶ」という視点が重要であり、科目を超えて芸術を学ぶ意味や価値を考え、どんな見方・考え方ができるようになったか再認識していくことが大事だと考える。芸術の知識及び技能の目標に「各芸術分野の～」と示されたことで、教科目標にそれが反映されてとても良い。
- 知識及び技能に関する統合的な理解について、子供がそのように自覚している状況を指しているのか、または低学年の子供がそのように自覚しうるかというところは発達段階から完全とはいえないので、子供がそのような状態になるように教師が自覚しているのか、あるいは両方指しているということも考えられる。丁寧な言語化する必要がある。
- 「自分や他者にとって意味や価値を見いだす」という部分を、目標のどこかに位置付けられないか。目標が難しければ、高次の資質・能力として、知識及び技能の統合的な理解の部分にそれがあたるか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見①⑥

【思考力、判断力、表現力等】

- 【音楽】「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の「よりどころにして考え」はよいと思う。
- 【音楽】表現領域で、「表現」という単語が何度か出てくる。それぞれで文脈によって意味が若干変わっていることが伝わるか疑問。特に最後の「表現を深める」は技能面を含んだように解釈できるので、「できないといけないのか」と思われかねない。
- 【音楽】「表現」という言葉が出てくるが、音楽の知識及び技能では「音楽表現」という使い方をして、思考力、判断力、表現力等の「表現」と区別していた。技能においては「音楽表現」という表し方にできないか。
- 【音楽】「思いや意図を歌唱や器楽で表す」とあるが、「思いや意図にふさわしい表現」「思いや意図に合う表現」のほうが適切ではないか。
- 【図画工作】思考力、判断力、表現力等の文末が「楽しく豊かに」となっている。楽しくは重要なので必要だが、高次の資質・能力では「楽しく」を越えてくる状況が考えられるため、ここに入ると違和感があるのではないか。
- 【美術・工芸】高校の美術、工芸の「思考力、判断力、表現力等」はSTEAMなども考えると「社会的な視点に立って」だけでは足りないのでは。科学的、産業的、美的などの視点も増やしていくべきではないか。
- 【美術】高校美術の「思考力、判断力、表現力等」を見る限り、各区分であまり違いが見えない。ほぼ同じような内容を繰り返すことにならないか。これなら区分に分けないほうがよいのでは。
- 【美術】「高次の資質・能力」の思考力、判断力、表現力等の「表現を身近な生活や社会との関わりから捉える」の文言は重要なキーワードなので、冒頭に「生活や社会」に対応する「対象や事象をもとに」という文言を入れてはどうか。
- 【音楽】音楽の思考力、判断力、表現力等の目標について、鑑賞の「聴き深める」には「味わう」をいれられないか。
- 【音楽】資質・能力では文末が「深めることができる」、鑑賞でも「音楽を聴き深めることができる」となっており、「できる」という言葉から思考力、判断力、表現力等の高次の資質・能力に表現と鑑賞の両方で技能が含まれているように感じる。この案のままだと、技能の概念とその位置づけについて混乱を招く恐れがあり、整理を行っていく必要がある。
- 【音楽】思考力、判断力、表現力等の目標について、「味わう」という言葉は現場の先生に浸透しているので追記いただき感謝。
- 【音楽】高校の思考力、判断力、表現力等の目標や見方・考え方との関連において現行の見方・考え方で示されていた「自己のイメージや感情」の「感情」がどこにも出てこなくなったなど残念に感じている。特に高校音楽は自己の感情に向き合うというのが大切になるのでどこかに入るとよいなと思っており、具体には「自己のイメージや感情に基づいた～」などとしてはどうか。
- 【美術】高次の資質・能力について、教科固有の学びと教科横断の学びの両立が大切だとすると記述内容はシンプルなほうがよい。ただし教科を学問として学びや特性を現場にわかりやすく示す必要がある。中学校美術の思考力、判断力、表現力等「豊かに発想したり構想を練ったり」の文言を「発想・構想することができる」などコンパクトでもよいのでは。

第1～9回芸術WGにおける主な意見①⑦

【思考力、判断力、表現力等】（つづき）

- 【美術】思考力、判断力、表現力等について、高美の鑑賞領域では「自分と美術に関して造形的な良さや美しさを感じ取り」とあるが、近代的な美意識の資質能力が示されており、現代美術の要素が欠けていると感じる。現代美術においては既存の造形意識や美意識にとられない新たな価値や自由な広がりがあり、鑑賞領域では押さえておく必要がある。
- 【音楽】中学校の思考力、判断力、表現力等では「音楽表現について考え」とあるが、小学校の「音楽表現について思いや意図を持って」には中学校の「考え」が含まれていると捉えてはどうか。
- 【図画工作】思考力、判断力、表現力等は、統一した表現になっており学校現場でも受け止めやすい。また、「夢や願いを持って」という言葉が入った点は、どのような学びを導くかを現場の先生方に意識させるという点で、「正解の提示者」から「学びの伴走者」、「ファシリテーター」に転換させる働きがある。
- 【書道】他の芸術教科・科目と比較して書道は「美」という用語を積極的に用いている。高等学校芸術科で「美」というものを考えることが重要であるためそこに異論はないが、思考力、判断力、表現力等の、創造的・個性的に「美を表現する」という「美」については、やや抽象的な感じがする。
- 【音楽】小学校音楽の高次の資質・能力について、「知覚し感受したこと」という文言は知覚が先にあるように見えるが、感受が先にあることもあるしバランスもあるので、「知覚したり感受したり」や「知覚・感受したり」といった表現はどうか。すっきりさせるということもできないかという視点で「思考を巡らせ」をなくして「よりどころにして」で次につなげたり、「自分や他者にとって」を当たり前のことととらえてなくしたりするのもありかと思う。
- 【音楽】中学校音楽に「曲や演奏の価値などを考えながら～」と入っている。この「価値」について十分な説明が必要な一方で、逆に小学校と合わせた書き方で、たとえば「曲や演奏のよさや美しさなどを見いだしたりしながら味わって～」という、現行で使っている「音楽のよさや美しさ」の文言が残るとよいと思う。

【学びに向かう力、人間性等】

- 【音楽】学びに向かう力、人間性等については、子供の立場からの記載（楽しさを味わう、音楽活動に取り組む）と教師の立場からの記載（育む、養う）があり、整理する必要がある。
- 【美術】音楽や書道にも関係すると思うが、学びに向かう力、人間性等について、美術でいうと「つくりだす喜びを味わいながら」の部分で「初発の～」を表現できているか疑問。
- 今回は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を議論しているが、創造性を豊かにするという芸術系教科では学びに向かう力、人間性等を常に考えていく必要がある。豊かな情操を培うということを常に考えながら知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を考えていくことが重要。
- 学びに向かう力、人間性等については、思考力、判断力、表現力等の学習の中で見取るものとされていることをふまえると、今回の改訂において、思考力、判断力、表現力等が学習の中心を占め、それを支える知識及び技能、さらにその過程で育成される学びに向かう力、人間性等という関係性が示されていると受け止められる。
- 学びに向かう力、人間性等は、高次の資質・能力としては整理されていないものの、芸術教科として教育課程全体の中で果たす役割は学びに向かう力、人間性等の中に端的に示されるともいうことができ、音楽、図画工作・美術・工芸、書道に共通する、芸術に向かう資質・態度として、学校種ごとに示されることも検討されて良いのではないかと考える。
- 【書道】書道Ⅰ～Ⅲの目標の改善案が示されており、Ⅰは「書道の幅広い創造活動」、Ⅱ、Ⅲは「書道の創造的な諸活動」と記載されているが、Ⅰの創造活動のほうが高度な芸術活動にとらえられるので、「創造的な活動」としたほうがしっくりくる。
- 【美術】学びに向かう力、人間性等において「心豊かな生活を」の生活の前に「社会」を記載してはどうか。
- 【音楽】小中学校の目標でも高校のように「音楽教育では音楽そのものに価値があると認められるものを扱っている」という文言をもう少し明確に入れるよう検討してもよいのでは。音楽教育では芸術性を前面に出しすぎるのもよくないかもしれないが、学習指導要領では「情操を培う」と明記されており、解説には美的情操という言葉が明記されているので小中学校であっても、こうした観点から文言を整理していく必要がある。

第1～9回芸術WGにおける主な意見①9

【資質・能力の整理】

- 【音楽】小学校音楽の改善の方向性に「習得した技能を生かして工夫するプロセスを思考力、判断力、表現力等として一体化」とあるが、実際の授業では子供が表現を工夫することから知識や技能に気づくこともある。そうした知識及び技能と思考力、判断力、表現力等の往還を意識した授業が学びの深まりにつながるのではないかな。
- 【音楽】表現の工夫の具体化は重要になる。表現の工夫の具体化のためには既習の知識や技能が必要なため学習の積み上げが期待できる。実際の授業には思いや意図を持つ場面と表現する場面があるため段階的に指導評価されることが予想される。学習評価の中で今後検討が必要になるのではないかな。
- 【音楽】「習得した技能を生かして」については知識も入ってくるのではないかな。
- 【音楽】鑑賞領域に技能が持ち込まれたのは画期的。
- 【音楽】鑑賞において次の音を期待しながら聴く力は高度な能力であり、すでに身に付けた知識を総合的に発揮する必要がある。その点を踏まえると、中学校の〔共通事項〕で「諸感覚で捉える」となっており、「知覚・感受」が消えて小学校との不一致が生じているのは、発達段階によって生じる差異だと認識。
- 【音楽】高校音楽Iの思考力、判断力、表現力等の「自己のイメージに基づいた音楽表現について考え」について、自己のイメージありきではなく、イメージと考えることが並行して生じる文言だと良いのでは。
- 【音楽】分かりやすさという意味で、高次の資質・能力で示している内容を文言として目標に含めなくて良いのかと考える。特に思考力、判断力、表現力等の目標について、中学校では「創造的に表現したり、価値を見いだしながら」、高校音楽では「創造的に表現すること」が、目標には記載されているが個別の資質・能力には記載がないため、高次の資質・能力に対応すると推測する一方、小学校の目標は個別の資質・能力と同じに見える。小学校の目標にも「音楽が持つ価値」と入れるべきではないか。
- 【音楽】余白を作るという観点については、指導が効果的に行われる内容でかつ先生方にわかりやすい示し方をするということを目指しているが、今後全体を見渡して余白につながっているのか確認したいと考える。特に小中学校では音楽科を全員学ぶため、子供たちにとって音楽科を学ぶことの意味がどこにあるのか、何を目指すのかという視点からぶれずに、きちんと余白が生まれる精査を行う必要がある。
- 技能をどうとらえていくのかは今後説明できるようにしていかなければならない。ただ、自分の思いや考えを持つことにとどまらず、表現に生かしていくというような知識及び技能と、思考力、判断力、表現力等を一体的に捉えるということについては評価したい。
- 【音楽】小学校の思考力、判断力、表現力等は「表現したり」だが、中学校では「創造的に表現したり」となっており、義務教育9年間でどうつながるのかを明らかにすべき。そのためにはどこまでを目標に示し、どこからを事項、内容の取扱いとするのかを今のうちから整理すべき。
- 【音楽】知覚・感受をどう定義するかは現場の授業実践を念頭に考える必要がある。「八長調及びイ短調」は内容の取扱いに移行する、といった具体的な改善例は現場の実践を念頭に置いた大変わかりやすい説明になっている。
- 【音楽】義務教育9年間のつながりを考えたときに小学校に「知覚・感受」という言葉が入ったのはありがたい。文章の形態もそろっていて伝わりやすいのではないかな。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②⑩

【資質・能力の整理】（つづき）

- 技能に表現の要素が入ることは前向きに検討したい。
- 知識と技能を統合して一文で示すことによりスリム化だけでなく知識と技能が一体であることの強調にもつながる。
- 資質・能力の文末が「理解すること」になっているので理解や知的な要素が重視されている印象を受ける。
- 【音楽】思考力、判断力、表現力等で小学校は「知覚・感受し」、中学校は「諸感覚で捉えること」は、発達段階による差異であることはわかるが、一見すると中学校のほうがわかりやすい印象がある。小学校は専科の先生でない場合が多いことから今後改善が必要。
- 目標を短くすっきりしたことにより必要な情報が欠けている。創造的に表現したり鑑賞をしたりするために必要な技能を身に付けるという点で、この技能は創造性との関係で捉えなくてはならないし、他の場面にも生きて働く技能としても広く捉えなければならない。「表現したり鑑賞したりなどする」のように「など」を入れては。
- 【図画工作・美術】社会が子供に要求する社会軸に対して、自分軸を大事にすることが重要。
- 【図画工作】これまで工夫することは技能として整理されていた。これを思考力、判断力、表現力等に入れるのは大きな混乱を招くのではないか。特に技能はこれまで材料や用具を活用する側面と表し方を工夫する側面があった。後者が思考力、判断力、表現力等に入ること、技能が単なる材料や用具を扱うだけにとどまってしまうのか危惧。先生方に丁寧に説明をしておく必要がある。
- 【図画工作】個別の資質・能力には「活動を工夫して表現する」とあるが、高次の資質・能力には工夫して表現するという要素が入っておらず、それがなくなったと誤解を与えかねない。
- 【図画工作】造形遊びと絵や立体、工作の技能が同じ表現だが、果たして同じ技能といえるのか疑問。また造形遊びをやらなくてもよいという誤解を与えないよう説明が必要。
- 【図画工作・美術】領域としての「表現」は思考力、判断力、表現力等と知識及び技能の双方を含めた学びの総体である。その中での学びの深まりにおける技能は、活用できる資質・能力ということだけではなく、技能そのものやそれと結びついた総体としての表現でもあることに留意すべき。その点を踏まえると、図画工作・美術科の知識及び技能の高次の資質・能力には、「場面に応じて活用できる技能」という文言があるがこの表現には一考の余地がある。
- 【図画工作・美術科】技能は身に付けるものとされているが、音楽科では体の使い方を調整するなどとされており、この違いについて芸術教科全体の視点から説明が必要ではないか。
- 【図画工作】絵や立体、工作の思考力、判断力、表現力等の「夢や願い」には、子供が自分の気持ちを素直に表そうとする姿や生活や社会に対してこうなってほしいと問題提起する姿が含まれており、方向性をよく言い表せている一方で、造形遊びでは本質を言っているか議論の余地がある。
- 【図画工作】高次の資質・能力の思考力、判断力、表現力等の鑑賞では、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考えると示されている。これは図画工作科の学習があくまで自分から始まって、それが友人に広がり、さらには地域社会へと開いていく様子を示しており適切であると考える。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②

【資質・能力の整理】（つづき）

- 【図画工作・美術科】現行の学習指導要領ではすでに内容をコンピテンシーベースで示してきていることから、単純に内容の量で精査する必要はそれほどないと個人的に考える。その前提で、絵や立体、工作と造形遊びなどにおいて共通する技能は統一的に表すと改善案に示されているが、この文言では造形遊びの技能も表したいことが先にあって、それを実現するための資質・能力としての技能という面だけに受け止められてしまい、造形遊びが正しく理解されない方向性に行くのではないかと危惧している。
- 【図画工作・美術科】鑑賞の技能を明確にするのは、鑑賞が表現と同等の創造活動としての意味を有することを指すため、非常に大事だと感じる。その上で、個別の資質・能力において、「見いだす方法」と記されているが、この書きぶりでは思考力、判断力、表現力等の意味合いが強くなるため「見る」や「見つける」の方がふさわしいのではないか。
- 【図画工作・美術】身体性・創造性を大切にしたい学習は、これまで本ワーキングで継続的に検討してきた重要な観点であり、現時点においても揺るぎないものとする。デジタル機器の活用が進展する中においても、実際に体を使って材料・用具を扱い創造していく学びは、図画工作・美術などの表現教科において今後も重要である。単なる技能の習得にとどまらず、活動を通して創造性を発揮しながら学ぶ教科であること、また問いを考え、答えを自ら作り出していく教科であることを、より一層重視すべきである。
- 【図画工作・美術】技能については、いわゆる表面的に身に付けるものではなく追究して学んでいくものであることを踏まえると、「表現方法を追求する」というような表現は、図工美術の技能が頭の中だけの思考にとどまらず、材料や用具を使って工夫して表すという一連の過程として捉えているため、非常に意味があると思う。
- 【図画工作・美術】高次の資質・能力については、学び全体を通して達成されるものであり、個別の資質・能力については、具体的なものになると認識しているが、この個別の資質・能力に柔軟性や多様性に対応できる「余白」が十分に確保されることが重要であり、見方・考え方や教科目標との関連を踏まえて検討する必要がある。
- 【図画工作・美術】鑑賞の技能を明確にすることで、深く鑑賞したり味わって鑑賞したりするためにはどうすれば良いのか、またどのような視点でどのような知識を使って鑑賞していくべきかといったことを示していく必要がある。
- 【図画工作】目標の知識及び技能において、「材料や用具を使い表し方を身に付けることができるようにする」と示されているが、音楽のように技能という表現ではなく、表し方という表現にされたところは良いと感じた。一方、知識及び技能に関する統合的な理解につながる内容であることを踏まえれば、材料や用具を用いた表し方というここだけにとどまらず、観察すること、調べること、経験について話し合うことなど、もう少し広く捉えることもできるのではないか。
- 縦と横の図は斜めの矢印や双方向的なイメージの矢印もあるのではないかと。個別の知識及び技能が高次の資質・能力の思考力、判断力、表現力等にもつながることもある。
- 【美術】個別の知識及び技能で、「自分と美術」には美しさに気づく視点や知覚という内容もあるのではないかと。また、「効果的な表し方の見通し」は「～の計画」などがいいのでは。
- 思考力、判断力、表現力等の個別の資質・能力は他教科とのつながりが表されると良いのではないかと。新たな視点の獲得にもつながる。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②

【資質・能力の整理】（つづき）

- 資質・能力の構造化の中で、「他の学習や生活の場面でも活用できる技能が習得されるよう、学習の深まりを示す」とあるが、他の学習への活用だけではなく、逆に他教科で得た知識などを生かすことも読める内容にしたほうがいいのではないか。芸術を通して知識を統合する経験を積むことが、これからの時代に求められる総合的な思考力と表現力を育てる鍵になると考える。
- 知識及び技能と思考力、判断力、表現力等の縦と横の関係図を示しているがこれはわかりやすい。学校現場での説明にも使いやすい。
- 【図画工作】学校の現場にとって工夫して表現することが思考力、判断力、表現力等に移ることは大きな変更になる。技能がどういうものなのかは改めて考える必要がある。
- 【図画工作】実際の授業では、作品が完成するまでにいたる過程で子供が工夫している姿や技能の高まりがみられるため、作品よりもその過程をよく見ることが重要。子供の高まりを引き出せるような指導やそれを体感できる素材の出会い合わせ方が必要になるため、そうしたことを理解したうえで改善の検討をしていかなばならないと考える。
- 資質・能力について、技能を身に付けることと、発想や構想をしたことを工夫して表現することは別個に働くのではなく還元し合って一体的に育成されることを示す、という点は非常に重要であると感じる。
- 縦と横の図の解釈について。左の知識及び技能を外的プロセス、思考力、判断力、表現力等を内部的プロセスとすると、創造とはまず外部の知識や技能を取り込むことから始まり、内部のプロセスを通じて作品が生み出され、外部に発信する。一方通行ではなく、繰り返し知識の獲得にも戻ることもある。美術教育において学習者のこうした外部と内部の創造的往還が高次の資質・能力の獲得につながるのではないか。今の図ではそうした往還がまだ表現が足りないのではないか。
- 【書道】成果物から表現力の習得状況を見取るという改善の方向性については理解している。現行の学習指導要領においても、作品は技能の観点から評価し、制作過程における思考や判断を言語化することで、思考力、判断力、表現力等の観点から評価を行っており、成果の中に作品という成果物を含めて考えていくことに異論はない。
- 【書道】知識及び技能と、思考力、判断力、表現力等を、同一の作品から評価することになるため、両者の評価の違いが不明瞭にならないよう、具体的な評価方法や事例を分かりやすく示すことが必要である。
- 【書道】書には「一回性」という特性があり、後戻りのできない中で瞬時に判断し、身体性を伴って表現する活動が求められることから、個別に学んだ書を構成する要素の特性が、作品としてどのように発揮されているかが、知識及び技能における資質・能力として位置付けられる。こうした観点から、知識及び技能における資質・能力は、書を構成する要素の特性が総合的に発揮されることを目標としつつも、単元や学習段階に応じて、より低次の資質・能力として知識及び技能が統合的に発揮される学習場面も想定されると考える。
- 【書道】書を構成する要素などの働きや関係を〔共通事項〕としてまとめて示すことについて、学校や生徒の実態に応じて柔軟に取り扱うことが可能となる点は、現場の教員にとっても理解しやすいものになると考える。
- 【書道】思考力、判断力、表現力等について、これまでの意図に基づいて構想し工夫するということを示していたが、構想を工夫し表現するという作品を表現するプロセス全体を扱うという整理は、より分かりやすくなるのではないか。ただ、これは大きな転換にもなるため、現場で混乱が起きないような明確な説明が必要。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②③

【資質・能力の整理】（つづき）

- 【書道】I～IIIの目標について、感性についてはI、IIで「高め」、IIIで「磨き」となっている一方、伝統と文化についてはIで「親しみ」、II、IIIで「尊重し」となっており、この段階をそろえるのかあえて差をつけるのか検討が必要。
- 【書道】鑑賞の技能を位置づけることは賛成。これまでの各領域分野で個別に示してきた、字形、文字の大きさ、全体の構成等を〔共通事項〕の書を構成する要素の働きで整理するという方向性はとても良い。
- 【書道】書のその一回性や運動性、身体性という視点が表には出ない形になっているため、それらをどのように〔共通事項〕の中に組み込んでいくのか、あるいはその技能とどう関係させていくのかなどについて整理の必要がある。
- わかりやすさ、シンプルさを追求することによって教科間の平準化が起こるのであれば芸術科目特有の観点を損なわれないようにしなければならない。
- 用語の一層の整理検討について、「高次の資質・能力」という表現はどうしても高低を想起させるので一考の余地あり。
- デジタル化によってわかりやすさにつながる。必ずしも文言の精査だけがわかりやすさにつながるわけではない。
- 【図画工作・美術】材料や用具を生かし、表現方法を追求すること、子供が自分の技を追究していくことは、実感を伴いながら、そして肌で感じながら体感的に高まっているということを理解できることが重要と考える。この表現方法を追求することは生きていく中で様々な場面で活用できると考える。
- 調整授業時数制度については、多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進できるという点で効果が期待できる。図画工作・美術科等の芸術教科にとっても少ない授業時数をこの制度を活用して増やすことができることも考えられる。しかし、例えば現行の中学校美術第1学年45時間の授業では逆に減る可能性もある。単に授業時数について問題にするのではなく、子供たちにどのような力を身に付けさせたいのか、何を学ばせる必要があるのかをより一層考えていくことがさらに重要。
- 企画特別部会では、思考力、判断力、表現力等については、これまでに習得した知識や技能を活用して実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱が示された。一方、これまでに習得した知識や技能の「活用」には教科ごとに幅や多様な捉え方があるため今後より丁寧な整理が必要であると考え。
- 個別の資質・能力の整理に関して、題材構成は学校の地域性に大きく影響を受ける。題材構成の工夫という観点は、単なる授業時数の調整にとどまらず、地域性や学校の特性、多様性を踏まえた柔軟な題材・単元開発を可能にする重要な視点である。とりわけ、新たな題材や単元の開発に積極的に取り組みやすい環境を整え、目の前の子供たちにとって最適な学びを構想できるよう後押しする学習指導要領となることを期待する。
- 小学校音楽の思考力、判断力、表現力等の資質・能力における〔共通事項〕の削除については再検討が必要である。
- 授業プロセスの可視化に関する題材計画作成のイメージは分かりやすく、特に小学校において有効である。一方で、具体的に示すことにより、「こうあらねばならない」という限定的な解釈につながるおそれもあるため、示し方については慎重な検討が必要である。
- 題材計画作りの参考イメージで示されている内容は、児童生徒の自立的な学習を促す観点から、何らかの形で児童生徒と共有し、何ができるようになればよいかを踏まえて自分で学習の進め方を考えていく必要があると考える。どのように共有していくかについては今後検討をしていきたい。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②④

【資質・能力の整理】（つづき）

- 年間を通して資質・能力を育成する視点は重要であるが、教科書を順に扱う授業に慣れている教師にとっては難しさもある。一つの教材で多様な学習活動を展開できる構成は魅力的である一方、専門性や時間を要する点で負担となる可能性もある。
- 高次の資質・能力の示し方について、他教科と比べて複雑な印象がある。芸術系教科の特徴やポイントが、読んですぐ理解できる整理が望ましい。
- 題材計画作成のイメージは、特に経験の浅い教師にとって有用である。高次の資質・能力の思考力、判断力、表現力等において新たに「気づき」という文言が加わったが、その内容を改めて整理する必要がある。
- 示された題材計画書は新規性が高いと感じるため、現行の学習指導案に基づいた構成の方が受け入れやすいのではないか。
- 鑑賞の技能について、造形的な特徴、造形の要素などのいわゆる鑑賞対象の属性に加え、もう少し具体的に鑑賞者の思考・判断を引き出せる観点の提示にも踏み込んでどうか。
- 題材計画書は高次の資質・能力を分かりやすく示す点で有効であるが、従来の指導案からの変更点について十分な説明が必要である。
- 高等学校芸術科の最初や最後で芸術は何かを示す意義がある。
- 構造化を単元や授業作りに生かすプロセスを可視化すること自体は重要であり、教師にとって分かりやすい。一方で、題材計画書のイメージはむしろこれまでの指導案から変わっていないように感じる。基本を踏まえながらも、そこに先生方の授業デザインに対して創造的なイメージを促すことも考えられる。
- 単元計画作成のイメージは作成にかかる労力や時間の負担を軽減することにつながる利点もあるが、教師が授業を構想する上で、教師なりの工夫の余地があるものにすべきである。
- 現在の示されている計画書のイメージでは、学習活動が一定の流れに沿って進んでいるが、従来の学習指導案の様式に囚われない新しい様式も必要ではないか。他教科の個別最適な学びに即した学習指導案の作成事例等を踏まえて、より良い示し方を考えていくことも必要。
- すべての単元で学習指導案を作成することは困難であるため、計画例を示すことは簡単に作成が可能になる一方で、芸術科教員の持つ授業のアイデアも重要なので授業計画が画一化しないよう配慮も必要である。
- 芸術科の各科目の学習の初期段階と最終段階とで、見方・考え方がどのように深まっていくのかという記載があると良い。
- 工芸については地域性との関わりも大きいので、そうした視点を踏まえた題材づくりに、若い先生方が意欲を持つことができるような、授業づくりイメージとして広まっていくことを期待する。
- 【音楽】高次の資質・能力に示された「実感しながら」という視点は、身体性や体験と結び付く重要な改善点である。
- 【音楽】現在提示されている高次の資質・能力は西洋音楽の分析的な考え方を強く感じる。不完全な美や感覚的に良さを捉える東洋的発想も含めては。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②⑤

【資質・能力の整理】（つづき）

- 各科目の共通する中核的概念は見えてきそうだが、各論に入ったときにそれがどう結び付けられるか
- 構造化・表形式化をイメージするにあたり、現行学習指導要領解説の系統表のように発達段階ごとの系統をはっきりさせていくべき。見方・考え方は系統立てるのは難しく、シンプルに示していくべきではないか。
- 高等学校芸術科の教科目標が、各科目を繋ぎ合わせたものになっている。キーワードを抽象化してもう少し端的に短くできればよいのではないか。
- 【書道】見方・考え方について「文字や書」と改められているが、別々に取り上げることで、文字と書が別物であるような印象を与えるのではないか。デジタル化により、筆で文字を書く手段以外も考えられる中で、文字や書が何を指しているのか混乱を生むのではないか。
- 文頭にある「捉えたり」について、知的に分析するというイメージもあるので、「感覚的に捉えたり、感じたり」とした方が正確に伝わるのではないか。
- 高次の資質・能力の内容について、美術においては、作品を企画し構想するところから制作や発表にいたるまでの創造的活動の間で、高次の様々な資質・能力が求められる。
- 先が読めない時代だからこそ、問題解決能力だけでなく、問題を見付け提起する力、批判的（クリティカル）な思考力も、高次の資質・能力に入れてはどうか。
- 【音楽】「見方・考え方」について、現行より広く、音楽になる前の音や事象をとらえて考えるのはよいと思う。
- 【書道】示し方の基本的なまとまりについて、書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと展開する中で見えてくる学びを踏まえて、高次の資質能力を検討するものではないか。学習指導要領を表形式にしていくことの利点であり、新たに高次の資質能力を設けることの意義ではないか。書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を早期に示していただきたい。
- 高次の資質・能力と発達の段階の関係をどう考えるか。小学校の場合6年間があるが、低学年から高学年まで、そこで達成される姿を一言で表すのは難しい。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②⑥

【資質・能力の整理】（つづき）

- 表形式にするにあたり、罫線で区切られることで、各領域が分断される印象がある。点線で示すということも考えられるか。
- 小学校の図画工作は学級担任が行うことを踏まえると目標の表し方はわかりやすい。
- 目標中の「見方や感じ方」と、「見方・考え方」の「見方」との違いを整理すべきではないか。
- 具体的な文言を議論するフェーズに入ってそれぞれの科目の違いや科目間の統一性が見えてきたが、「高次の資質・能力」、「見方・考え方」、「目標」の関係性をもう少し明確にしないと次の内容の議論に進めないのではないか。
- 【音楽】「深める」という言葉がいろいろな箇所に使用されているが、それが何を表しているのかははっきりしておかないといけない。高次の資質・能力から評価規準を作っていくのか、目標から作っていくのか、何を表しているのかははっきりさせたい。
- 企画特別部会の「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」のページの図には、横向きの矢印が示されているが、斜めにも矢印が向くことがあるのではないか。今後、個別の資質・能力の整理を検討していく中で、この関係も意識して考えたいと思う。
- 【図画工作】見方・考え方と高次の資質・能力の関係性について、現状では個別の学習内容から帰納的に導かれることが多いと捉えているが、芸術の本質にかかわる図画工作科の学びの意義という観点ではメッセージがやや弱く、活動レベルにとどまっている。これまでの解説や実施状況調査の結果で示されている言葉をもとに検討していくことが必要では。
- 参考資料で見方・考え方を灯台に例えているように、現場の先生が常に立ち返り、学習目標に向けて学んでいくための大切な目印であると考え。であるなら、記述がコンパクトで分かりやすく、他教科の先生や学校外の人々にとっても、分かりやすい文言であることが必要。大事なのは生涯にわたって学び続ける視点で、その視点から可能であれば整理していく必要がある。
- 芸術教育において今後より重視すべきなのは、作り手と受け手のコミュニケーションを意識させるカリキュラムと思う。作品の完成度だけを評価するのではなく、つくり手と受け手のやり取りそのものを学習課程に組み込むことで、子供は表現が一方通行ではないということを理解し、相手に自分の意図が共有できた喜びも味わうことができる。目標や高次の資質・能力に、「共有する」、「議論する」などのコミュニケーションのワードを入れたほうがよいのでは。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②

【鑑賞】

- 鑑賞は子供にとって大切な学びである。形や色などを根拠に鑑賞することはできている一方で、その先の文化についても出会えるようにしていくなど、鑑賞を深めていくことが大切
- 実体験を重ねていくことが物事を見る精度を高めていく。自分の感覚を十分に実感した上で鑑賞することにより、見えているものの向こう側にある作家の息遣いや緊張感、深みなどが感じ取れ、深い学びにつながる。
- 現代アートにあるような、作品の中に内在している人類の願いや差別への叫びなどに着目し、鑑賞の中で学んでいくことが重要。時代や社会について考えるきっかけになり、課題や問題提起をしていける視点をもつことにもつながる
- 作品をどのように捉えていくのか、表現された世界をどのように読み解いていけばよいのか、鑑賞者を育成することが重要。鑑賞のプロセスの具体的な手順や方法といった鑑賞の深化を発達段階を通して段階的に育てていくべき。事象を分析的に捉え、批判的に物事を捉える力はあらゆる教科・科目に通底する資質・能力である。
- 感性や感じ取る力は非常に重要。観察や鑑賞を通して心が動く体験を子供たちができるようにしていく必要があり、自分や他者の感情を自覚し受け止めることが大切。
- 【音楽】小学校の「曲や演奏のよさや楽しさ」「音楽を聴き深める」というキーワードは重要。一方、中学校では、思考力、判断力、表現力等に「評価しながら」が含まれるが、客観的な部分が前に出すぎているので、小学校と同じような形（「見いだしながら」）もありえるのではないか。
- 【音楽】「聴き深める」について、学習の向かうべき方向性が示されている。ただ、「味わって聴く」という表現には、音楽に浸るとか、全身体で聴くというニュアンスが含まれている。これまでも使ってきた「味わう」という文言が消えてしまうのは残念。
- 【図画工作】「生活や社会、文化と関わり」が入ったのは有意義。生活、社会、文化の視点を見方・考え方に取り入れることによって、作品や美術館、博物館、文化財などを教師が授業に取り入れる必然性が生まれる。時間軸が子供たちの中に自然に意識づけられると共に、鑑賞の意義や学ぶ意義が伝わりやすくなるのではないか。
- 【美術と図画工作】適切なタイミングで理解が深まったり新たな気づきが生まれたりする情報を提供することが不可欠。発達段階の話も出たが、どのような知識を伝えていけばよいのかという視点が現場では弱い。次の作品を見る時に鑑賞を深めて作品を深く味わう力に繋がってくる。
- 【書道】思考力、判断力、表現力等の「感じ取り」について、鑑賞の際は、書かれた言葉を読み取って理解し、自己と向き合い再度作品と対峙したり、時間をかけ何度も鑑賞したりすることで書の良さや美しさを理解できる。「感じ取り」としてしまうと、文頭の「書のよさや美しさを感じし」と似通ってしまうのではないか。
- 【音楽】A表現を「歌唱・器楽」「音楽づくり」に分けることは賛成。歌唱と器楽という垣根を越えた、新たな発想に基づく題材構想に期待。
- 【美術】「活用して作品等を読み解いていく」ことは鑑賞の技能となりうるのではないか。
- 【図画工作】鑑賞の技能を位置づけることは有意義と考えるが、図画工作・美術では技能を「創造的技能」としており、技能をテクニックと捉えられないようにすべき。「体を使う」とあるが、「体」よりも「身体」のほうが良いのではないか。音楽では「身体」を使っている。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②⑧

【鑑賞】（つづき）

- 【図画工作】感じ取ったことを他者に伝え共有することも鑑賞で必要な技能ではないか。
- 【美術】中学校美術の鑑賞における「実感を伴って理解している」について、子供たちの学校での姿をイメージしてみるとよいのではないか。例えば、中学3年生が美術館の作品を鑑賞した際、鑑賞を通して美術のおもしろさを再確認し、身近な美術を見てみたくなったという感想があった。高次の資質・能力について、子供たちのどのような姿に現れるのかを学校の先生方にわかりやすく伝えることが必要なのではないか。
- 【美術】イギリスTateによると、美術館や博物館で作品を鑑賞する平均時間は8秒とされており、大人も子供もよく見るということをしていない。また、見る視点をつかみにくいとされている。子供はよく見ること、見ることで情報を掴むことができていないことを踏まえると、中学校美術の鑑賞の区分の現案は、授業改善につながるという意味でも、子供たちが自分で何を学んで身に付けたかわかるという意味でもとても良い。
- 【美術】子供たちは今たくさんの情報に囲まれており、その中で何をすることも早いほうが良いとされ、よく見ることができていない。授業の中でそれができるようにしていくことが大事。鑑賞領域における思考力、判断力、表現力等で「見つめ」などと記載があり、知識及び技能では「情報を読み取ることにより」などとはつきり視点が示されている。先生方にとっても子供たちにとってもじっくりと「見る」ことに向かえる手だてになるのでは。
- 【音楽】「知覚と感受」について考えたが技能に位置付けると音楽の聴き方の基本である知覚や感受の定義づけが必要。知覚を「音を適切に聞き取る能力」だとすると技能と整合する。また感受を「知覚した情報を自分の過去の経験と結び付け音のはたらきを解釈すること」だとすると、これも経験の蓄積によって深まる技能として整合する。ただし感受という言葉には主観的な感覚というイメージがあるので技能として扱うことに少し疑問が残る。また、知覚と感受は一体的なものであるため、これを明確に分離してしまうのも実際の音楽の聴き方として成立しなくなってしまう恐れもある点に注意が必要。

第1～9回芸術WGにおける主な意見②

【豊かな社会の創造や幸福な人生】

- 創造性は、自分なりの意味や価値をつくりだすことに留まるのではなく、社会との関わりにおいてベクトルを外へ向けていくことが重要。
- 芸術系教科は感性や情操の育成につながる審美教育である。価値を実感できることにより積極的に学びに向かっていく力につながり、価値が生活や社会を豊かにすることにつながるということに実感がもてるようにすることが重要。
- 芸術を通して豊かな人間性を涵養し、創造性・感性を育み、情操を培っていくことは豊かな社会の創造において不可欠である。
- 伝統と文化や文化芸術の意義を明確に位置付ける必要がある。日本の文化と世界の文化を知り、比較して学んでいくことや多文化理解はこれからの社会に必要な資質・能力であり、生活や社会とのつながりにおいて芸術が幸福な人生や豊かな社会の創造に繋がることを、表現や鑑賞を通して実感をもって学習することが大事。
- 【音楽】見方・考え方の後段、「自分や他者にとっての意味や価値を見いだす」とあるが、高校では少し広げて他者を「社会」とし対象を明確にすることもありうる。学びに向かう力・人間性等の中で、「豊かな生活や社会を築いていく態度を養い」とあるので、具体的に示していくこともあり得るのではないかな。
- 【図画工作】造形美術の働きを位置づけることは賛成。自分、他者、自他の関係性や地域、社会、文化と対象に広がりがある。地域、社会、文化に対しての働きは、役に立つと狭義で捉え得られがちだが、図画工作科では、自分に対する働きがあつてこそ地域、社会、文化への働きも成立する。
- 【美術】「生活や社会、文化と関わり」の部分について、創造性を身に付けた結果、生活や社会の豊かさにつながるということについて目標での明記が必要ではないかな。
- 学びに向かう力・人間性等について、相手がどのような感性、考えで受け入れるかという、受け取る側を考えることが多様性を尊重することや社会に繋がっていくので、その点を強調してもよいのではないかな。
- 【美術】地域の文化や美術教育を子供に教えるのではなく、子供と一緒に教師も学ぶことを通して、日本人としての美しい生き方、豊かな生き方を理解できると考える。文化の理解を誤解して受け取られないように、知識の中に位置付けるのであれば、「美術の働きや美術文化を理解する」という文に「実感的に理解する」と追記できればよい。
- 【図工、美術、工芸】生活、社会、文化との関わりが示されているが、それぞれの教科・科目で関わりのニュアンスが異なるのではないかな。
- 【書道】目標に「作品や書の美と」とあり、芸術的な書作品以外の書も含め社会とのつながりを考えていく方向性を理解した。ぜひ進めてもらいたい。
- 小中高に共通することだが、資質・能力（概略）で身近な生活と社会と美術の共通事項で「美術の働きや美術文化について理解する」とあるが、具体的な例示がまだない。観察力ひとつとっても各学年で違う。他の教科や暮らしの中でも課題を正確に取り出せる能力として観察の個別具体的な能力を位置づけていくのが子供たちに芸術教科の存在意義を実感させることにつながる。今後検討いただく段階でそのあたりを意識してもらいたい。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③〇

【教科横断や連携の在り方】

- 概念理解は国際バカロレアの学びと共通していると感じている。教科は教科として学び、教科等横断的な学びは表面的なつながりではなく、本質的な概念で繋げていく
- 他教科にも汎用できる資質・能力について。現行学習指導要領には「知識を相互に関連付けて」と記載がある。双方向性の学習が重視されているが、他教科に影響を与えるだけではなく、他教科で身に付けた力を芸術系教科で使うこともあり得る。
- 芸術教育で育まれる他教科に汎用する資質・能力は、想像力、試行錯誤する力、挑戦する力、リスクをとる力、自ら問いを立て考える力、答えのない問いに最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力が考えられる。
- 芸術はSTEAMのAの役割として新たな気付きを生み出し、粘り強く解をまとめる教科としての関わりがふさわしく、探究的な学びを深めるためには、その側面から芸術系教科と他教科との連携が重要。子供たちの思い付きや失敗を受容する環境の醸成が大事
- 日本型のSTEAM教育をどうつくっていくか。STEAM発祥のアメリカと日本とは歴史や考え方が異なる。STEAM教育は教師自身のマインドセットの向上にもつながるのではないかと
- STEAMは理科系に偏りすぎているのではないかと。もっとAの学際性に着目してもよいのではないかと。
- 【図画工作・美術】イノベーションに繋がる相互に関連付ける力が芸術系教科・科目の重要な資質・能力。作品に至るまでの過程を重視することが大切で、生活・総合的な学習の時間における探究のプロセスと図画工作・美術における探究・創造のプロセスの共通点・相違点踏まえながら、知識や技能を考えていくことが重要。
- 【メディア】映像分野は教科を繋ぐハブである。物語構成や言語表現での国語、社会課題を考える社会、観察としての理科、論理的思考としての数学、外国を意識したコミュニケーションとしての外国語など。芸術の他分野にも密接に関わる。
- 小中高全体で各教科・科目を俯瞰し、見方・考え方を再構築していくことも重要。学びの深まりについて、書道では小・中の国語科書写とのつながりがあることから国語科書写との連携が重要。文字文化の考え方を再整理する必要があるのではないかと。
- 地域社会と学校をどう連携させていくかが重要。芸術系教科の重要性を地域社会にどう理解してもらうか。その上で、他教科との連携はこれまで以上に重要な視点になってくる
- 【音楽】子供たちの生活の中にある音楽を取り上げ、生活科からアプローチして音楽の学習が発動する場面も考えられる。それを総合的な学習の時間等につなげるなど、教科等横断的な学びの構想が可能だが、その際、音楽科としての本質や役割を教員が十分に理解しておくことが重要。
- AI時代においては、異なる分野を統合して新しい価値を生み出す能力が求められており、複合芸術はSTEAM教育を次の段階へ発展させる可能性を持つ分野として、本格的な検討が必要である。
- メディア技術を前提とする表現領域全体を指すメディア表現の創造は、他教科との横断や役割分担による協働的なプロセスを伴うことが多く、短時間であっても総合的な創作体験として有効である。一方で、教員にはプロジェクト全体をマネジメントする力が求められる。
- 教科等横断的な取組事例を示す際には、教員がどのようにマネジメントしたか、また、その取組を通してどのような資質・能力が育成されたかという視点を明確に示すことが重要である。
- 問題解決としての創造は他教科等でも、例えば探究という考え方から既に求められている一方、問題提起としての創造は必ずしも解決しなくてもいい創造の側面であり、芸術系教科、特に図画工作・美術の教科性に必要な創造である。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③

【区分】

- 【図画工作】区分の示し方は賛成。「造形遊びをする」「絵や立体、工作に表す」についてはもう少し抽象的な内容でもよいのでは。
- 【美術】区分が「自分と美術」「身近な生活や社会と美術」という分け方は、教師もこの分け方は違和感は少ないのではないか。
- 【高校美術】「自分と美術」「社会と美術」という区分に違和感。自分を考える際には社会を考えることにつながるし、社会を考えるとときにも個人（自分）の考えは重要になる。分けることによって行き来を断つことになってしまうのではないか。
- 【美術】美術の区分について妥当な判断と考えるが、今回の改定の目玉でもあるので、十分に時間をかけて議論するべき。
- 【美術】区分はわかりやすく示されている。「自分と美術」「身近な生活や社会」は思考の過程の違いで分けられているので、授業が作りやすい。A表現とB鑑賞が同じ分け方なので一体化しやすいのもよい。
- 「自分と美術」「社会と美術」の区分は近代から現代の美術史からみて適当ではないか。「社会と美術」について、60年代以降はジェンダーや環境などのテーマが増えた。2010年ごろからはソーシャルプラクティスなどが実践されている。伝統的な絵画や彫刻の手法と変わり、アーティストと観客の区別がなくなったり、討論や教育が行われたりするという、現代美術における社会とのかかわりの手法を学校教育に取り入れるのもアリではないか。
- 高校工芸について。美術は絵画や広告、メディアなど、表現のジャンルで内容を分けているのに対して、工芸では以前から学びの方向性で区分を設けていた。工芸には技法がたくさんある。それらの技法ごとに記載を分けるのではなく、方向性のみを示すことが従来から続いているが、その方針で成功しているように感じる。
- 区分を「学習の方向性」と捉えるのは良いと感じた。
- 【図画工作・美術】区分について。教科の特質や現状の課題を踏まえたものと理解しているが、区分に分けるということは、子供が発揮する資質・能力には方向性があるというのを示す必要があるということの意味しているのではないかと考える。そうした説明をどこかで丁寧に説明する必要があると考えている。
- 【図画工作】高次の資質・能力の区分について、区分を設けることはよいと思うが、図画工作の区分が少し具体的なのではないか。美術制作や表現も重要な活動だが、区分としては抽象的なテーマやコンピテンシーベースのテーマをつけることも考えられるのでは。個人の自己表現だけで考える部分と、客観的視点が求められる他者との活動に分けることや、個人の探究と他者との探究などに分けることも考えられるのではないか。
- 図画工作の区分が新しくなっており、子供の思考の方向性が整理されたと受け止めている。ただ「自分と美術」の区分名を踏まえると、「身近な生活や社会と美術」という表現の「身近な」は必要ではないのではないか。
- 図画工作・美術の区分がコンピテンシーベースに整理された点は評価できる。
- 新しい区分に合わせた単元構成を示し、表現者と鑑賞者としての学びを相互に組み合わせた学びの深まりができる構成を取り入れることができるのではないか。
- 現行の工芸の内容は、「身近な生活と工芸」及び「社会と工芸」により整理され、どのような視点に立って資質・能力を育成するかという学びの方向性を意識したものとなっており、今後一層進めていくことが必要。
- 【書道】高次の資質・能力の示し方について、芸術科書道では分野の区分を設けない案が示されているのは他の芸術系教科とは異なるが、現場の教員にとってわかりやすいと思うのでこれで適切だと思う。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③②

【地域連携】

- コミュニティの規模や密度が地域によって多様化しており、地域連携の在り方を一律に示すことは難しい一方、学習指導要領においては一定の方向性を示すことが必要。
- 【音楽】地域連携の強みは、学校だけでは得難い優れた技能や経験をもつ人材を招き、児童生徒が質の高い芸術体験に直接触れられる点にある。他方、音楽には学習の方法自体にも地域や国の伝統が息づいており、その「学習の文脈」を踏まえた継承の観点が必要である。学校が地域と協働しつつ、校内に自律的な伝承の仕組みを構築する方向性を学習指導要領にも示すことが望ましい。
- 地域の力を借りるという発想だけでは、地域人材への依存や学校への一方通行になり、発展性が乏しくなる恐れがある。「連携」の名の下に丸投げに陥ることのないよう、自律的な連携と文化の継承の仕組みが必要。
- 地域連携は、教員にとって人・物・金・時間の調整などエネルギーを要するが、教員が人と人をつなぐファシリテーターとしての役割や調整力を育むうえでも非常に重要である。
- 【美術】学校教育の中だけでは見えにくかった「子どもの地域への思い」や「地域が子どもを思う気持ち」を目に見える形にするのがアートの役割と考える。連携に先立ち、各教科が学校教育目標に照らし「今ここにいる子どもたちの実態から何ができるか」を起点に構想することが重要で、教師の願いだけでなく子ども起点で創出されることが望ましい。
- 【美術】教員や学校がまず地域の良さや課題に目を向け、総合的な学習等と結び、美術科こそ社会に開かれた教育課程を牽引すべきである。
- 地域連携において「文化」は重要なキーワードである。我が国には多様な文化・芸術が広がり、将来に受け継ぐことが重要。地域連携を通じて我が国の芸術文化に触れ、グローバル化の進展の中で、郷土や自国の文化を語り紹介できる力の育成が必要。
- 【書道】「生涯にわたり芸術を愛好する心情」の育成の観点から、鑑賞者を育てる視点が十分でないという課題がある。博物館・美術館との連携や、遠隔地でもデジタル活用により鑑賞体験に向かう素地を養う取組が重要。
- 見方を発見していくという子供たちの姿は、美術館など様々な地域との連携で見えるところで、鑑賞の技能にもつながる。
- 学校だけでなく、行政や地域が連携して後押しすることが重要。例として、さいたま市のうらわ美術館には教育委員会の指導主事が配置され、学校との連携（出前授業、作品貸出し等）が機能している。文化施設から遠い学校の児童生徒にも体験機会が行き渡るよう、行政・地域の連携による環境整備が必要。
- 「地域」と一言で言っても学校の立地状況により状況は大きく異なるため、まずは各校の現状に即して考えることが大切。
- 地域の物的・人的資源の活用は、保護者・PTA、地元町会との連携など身近なつながりから芸術資源へと広がっていくことが可能。いきなり著名文化人や伝統工芸へ飛躍せず、現場が無理なく連携できる在り方を検討したい。
- 学校現場だけでなく行政との連携による後押しが重要。博物館・美術館等との結び付けをより積極的に検討し、自治体の多様な状況も踏まえ、国や国立アートリサーチセンター等の活用も選択肢となり得る。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③

【地域連携】（つづき）

- 芸術が社会と学校、教科間をつなぐハブとなり、芸術教科は教科横断的学習を通じて地域・社会とのつながりを強める。児童生徒にとって豊かな学びにつながる意義は大きい。
- 連携で最も重要なのは、育成すべき資質・能力の共通理解が関係者間で成立していること。成功事例では自明化しがちだが、機微な対応・関わりの積み重ねが前提にある。また、学習指導要領を学校外の人を読んで理解できることも不可欠の前提である。
- 連携では各芸術科目の見方・考え方が学習プロセスに正しく位置付くことが必要。特に小学校では全科担当のため、音楽科や図画工作科の見方・考え方が正統に位置付くことが重要。また、図画工作科が単なる「ものづくり」に手段化されないことが重要。
- 連携先は自明化された文化施設に限らず、CSRで子どもの芸術活動を支援する企業、公園やショッピングモール等の生活の場など、従来自明でなかった対象も今後見出していく必要がある。
- 芸術科の学びのフィールドが地域へ広がることで、学びはより探究的になる。総合的な学習の時間で出会った地域課題を自分事化し、音楽科等で取り組むことで、生涯にわたる芸術の意味の探求や知識・技能の追求につながる。
- 地域の芸術文化との関わりを持続可能にするには、教員だけが担うのは困難。芸術科の使命の一つは文化の担い手の育成であり、学校運営協議会等と教科・地域の願いを共有し、地域が担い手となる仕組みづくりを働きかけていく必要がある。
- 芸術文化の体験的学習は、日常では味わえない空気感によって子どもの心を開き、新しい価値を学ぶ機会となる。この機会を生かし、単なる鑑賞で終わらず学びへ転化する視点が重要。演劇分野では観客から舞台側への当事者性の転移により学習の転移のエビデンスが認められていることも参考となる。
- 地域の伝統芸能・伝統工芸の学習では、美的体験に加え、地域資源を生かすための先人の苦心と産業化の営み、経済的効果等を知ることが特に高等学校段階で大きな意義をもつ。
- 【小学校音楽】現行学習指導要領の「学校内及び公共施設などの学校外における～」の表現は、文化資源が多様化する中で限定的イメージを与えうる。例えば「文化施設など」とする、または「公共施設などの」の文言自体を削除する等の検討の余地がある。
- 本物に触れる体験を年間指導計画や学校全体の教育活動の中でどう位置付け、指導事項や資質・能力の育成に結び付けるかが重要。中学校・高等学校では授業時数や業務量の制約が課題であり、地域と学校をつなぐコーディネーター的役割の配置が有用である。
- 美術教育に関連する表現分野は多様な広がり、高度化が進んでおり連携はますます必要。映像メディアを用いた表現は従来の造形表現とは全く異なる表現手法の理解や習得が必要だが、社会にニーズがあるし、社会に貢献が可能。たとえばリタイアした映像制作経験者や地域のアーティスト、美術系大学の学生などの外部の多様な人材と連携して一緒に教育プログラムを作り上げていくことが重要。その連携を進めるために制度設計などが必要になる。

【地域連携】（つづき）

- 「開かれた教育課程」にはさまざまな意味があるが、芸術系教科・科目における外部人材や学校外の文化施設等との連携は、中でもその扉を開くものとして重視されるべきもの。
- 芸術系教科・科目の「見方・考え方」案である「意味や価値を見出すこと(音楽)」「意味や価値をつくりだすこと(図工・美術)」「意味や価値を追求すること(書道)」は、教室の中での学習の方向性を示しているが、同時に、子どもたちが将来において社会の様々な文化芸術と出会う場において発揮されるべき資質・能力の在り方を示しているとも言える。
- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」によって計画された教室での学習とは違った、「学びに向かう力、人間性等」も含めた混然とした体験的学習が、芸術系教科・科目における外部人材や学校外の文化施設等との連携による学習にはある。むしろ、社会での様々な文化芸術との出会いのプレ体験をしているとも言える。
- 外部連携による学習と通常の授業との関連性は十分検討されとしても、これを通常授業と同じように「高次の資質・能力」による学習の構造化を当てはめるには無理がある。**「ホンモノ」を通した、学びの真正性を担保するものとして外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携は考えるべき。**
- 伝統や文化に関する教育について、豊かな体験や授業を全国で実現するためには、**解説や教師用指導資料での具体例の提示や研修機会の確保による教師の指導力向上に加え、体験や授業の充実に必要な地域人材や材料を各学校・地域が見つけていくことが求められる。**
- 地域と連携した多様な体験を深い学びにつなげるため、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントが重要。また、**学校と地域をつなぐサポート人材の配置や、制度的・財政的支援の充実**が必要。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③⑤

【高校芸術科の学びの改善・充実】

- 高校においては、音楽・美術・工芸・書道と科目が分かれてしまうが、芸術教科全体として学ぶ意義を考えることは重要
- 高校のどの科目においても自分や社会にとって芸術がどのような意味や価値をもつのかを学ぶことは、人生を豊かに生きていく観点から重要
- 作品をつくっていくというプロセスの中に、創造性、批判的思考、問題解決能力、協働性、コミュニケーション能力、ICTリテラシーといった重要なスキル、能力の開発が含まれている
- 並行パターンはⅠ～Ⅲの資質の深まりを一見してとらえやすいが、思考力、判断力、表現力等の統合的な発揮と知識及び技能の統合的な理解を捉えるのは並行パターンでは難しいのではないか。例えば、高等学校の科目の履修が必須履修科目であるⅠを付した科目で終える生徒が多いということをふまれば、高等学校芸術科においては、全体を並列パターンで示していく検討の余地もあるのではないか。
- 高等学校芸術科全体の見方・考え方が、各教科の要素を組み合わせた形で提示されている。この部分を、教育課程全体における芸術教科において、何を学ぶのか、どのような方向性なのか明確にさせる必要がある。
- 高校芸術科の見方・考え方について、方向性としてはまとまりが出て良いと思うが、「美を構成する要素とその働き」と「文化などの視点」のレベル感に差異を感じる。「美を～働き」は具体的だが、「文化などの視点」は人間の営みの観点で大きなところで捉えられる。今後ふさわしい言葉が示せたらよいと思う。
- 見方・考え方の高校芸術科目の一覧において、並べて見たときに語尾が大事だと思った。音楽では「意味や価値を見いだす」、書道では「追求する」、美術では「つくりだす」の語尾が示す共通性や連関について各教科の高次の資質・能力から考える必要があるのでは。
- 高校芸術科の各科目の目標について。美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて日本語の表現として少しの違いである。方向性としてはよいと思うが、より評価の観点として現場がわかりやすいものになるとよいのでは。たとえば学びに向かう力、人間力等の「感性を高め」「美意識を高め」「感性と美意識を磨き」など系統性が示されているが、評価だと曖昧さがあるかと思うので今後工夫できるところであるかと思う。
- これまで学習指導要領冒頭の芸術科の目標が十分活用されてこなかった。義務教育段階では「芸術」という横断概念に触れる機会が乏しいため、小中の学びを発展させ、高等学校段階で芸術の意義・価値を再認識する機会の設定が望ましい。現行改訂で新設された〔共通事項〕を踏まえ、芸術科を貫く共通の指導内容を示すことは次期改訂の大きな視点となる。
- 改善の方向性としては、各科目の導入段階で、芸術の多様なジャンルや表現形式、日本文化の独自性を認識しつつ、選択科目としての学びを再認識させるのが良いのではないか。また、まとめ段階では、表現・鑑賞の学習成果を踏まえ、文化芸術の広がりや多様性、社会における芸術の役割、芸術を学ぶ意義や価値について自覚させることで生涯にわたって芸術を愛好していくことにつながる。
- 示し方について。芸術科全体を貫く内容は評価に適さない可能性があり、目標や見方・考え方の解説で趣旨を示し、各科目の内容の取扱いに共通文言を置くなど、実践上の負担に配慮した整理が必要。実現に当たっては、教職員支援機構等による教員研修、教科書の冒頭への反映、入学前配布の説明資料への掲載、実践検証協力校での事例蓄積・提示が有効ではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③⑥

【高校芸術科の学びの改善・充実】

- 高校段階では、芸術の学びを外に向けるメッセージが重要。例えば学びに向かう力、人間性等における文言を「芸術を通した学びによって心豊かな生活や社会をよりよくする」等に見直す、また「情操をより豊かに高める」等の表現を検討してはどうか。OECDのエージェンシーの観点からも、社会を支え、創る主体性の意識化が要となる。
- 高校では、普通科目以外の科目を創設するのは急には難しく、まずは既存科目の指導事項・内容の取扱いに趣旨を反映することが現実的である。小学校・中学校9年間プラスIを付した科目とあわせて10年間の学びの集大成として、この先の芸術文化との関わりを自覚させる場面があってもよいのでは。
- まだ実践が足りないので、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）のようなモデル校の指定や文化庁で取り組んでいるCBX（Cultural Business Transformation）等との連携による実践蓄積が有効ではないか。
- 科目の専門性を担保した上で「芸術とは何か」を考えさせることが重要。複数科目を開設する学校では、年度初めに各科目教員が意義・目標を語る場の設定や、Iを付した科目のまとめを合同授業とし相互発表・熟議を行うことが考えられる。単科目校では校外学習による他分野施設の訪問や他分野専門家の講演等の工夫が有効。いずれも内容の取扱いで示すことで実施可能と考える。
- 【書道】小中の国語科書写との接続は従来からの課題であり、高校導入期に「芸術としての書」を扱う実践が広く行われ、教科書でも冒頭に記載がある。一方、音楽・美術・工芸が義務教育段階の学びから高校の芸術科へ円滑に接続できているか、また高校教科書の冒頭に芸術としての意義付けがあるか等の確認が必要。芸術の学びの方向性が示されることは、科目横断的に協働した作品制作等の一層の推進にも資する。教員の過度な負担とならないよう、事例・教材の公開・共有や十分な支援、わかりやすく柔軟な内容での明示が必要。
- 研修や教科書の工夫が鍵。各科目の冒頭で「芸術とは」「美」「芸術文化」等を考える導入ページや、課題研究のヒントとなる構成があると、教員・生徒ともに展開しやすい。中学校段階でも「芸術における音楽／美術／書道」といった領域意識を持たせる工夫によって芸術教育が魅力的になる。教員養成でもこうした視点の重視が望まれる。
- 【美術】今日の芸術は総合芸術として発展しており、映画・アニメーション・ゲーム・舞台芸術等、複数分野を統合して新しい表現を生み出す力の育成が重要。現行の美術Ⅰにある映像メディア表現を、従来の造形専門だけで担うのは限界があり、メディアアート等の総合芸術分野を高等学校芸術教育に明確に位置付けることが時代に即した改革となる。他分野の時間数を削らず、芸術教育を超えた広い領域として捉えることを検討すべき。
- 【音楽】鑑賞者、批評者として育つことの大切さについて。よりよく表現することよりよく聴くことは表裏一体であり、音楽の構造理解に加え、文化的・歴史的背景の理解を投射して聴くことが重要。批評者としての資質をもつ友人との対話環境を得ることが高等学校で専門的に学ぶ意義の一つであり、鑑賞研究の授業を核に、校内外と連携して新たな価値の発見・創出を図ることの重要性を再確認したい。
- 【音楽】音楽を専門的に学ぶ生徒には音楽家ジストニア等の罹患リスクがあるが、予防に向けた教育は十分とは言い難い。学習指導要領に実技に伴う身体の不調への留意・予防に関する記述を位置付け、ウェルビーイングの向上と将来のキャリア保全の観点から、健康の保持に関する教育が早期になされることを望む。

【高校芸術科の学びの改善・充実】（つづき）

- 多くの高等学校では、芸術科としての教科性を基にした教育課程の編成がなされず、単独の科目の状況のみを考慮して開設科目が決定していることから、「Ⅱを付した科目」、「Ⅲを付した科目」の履修状況が極めて低く、工芸は「Ⅰを付した科目」からすでに低い状況。
- 教員配置や音楽教室、美術教室などの施設、設備などが、科目開設の主たる要因となり、教育課程全体の中での芸術科の役割が論議される場面は少ない。
- 科目を選択する生徒にとっても芸術科を学ぶという意識は薄く、単に中学校での音楽や美術の学習経験を基にした科目選択がなされ、学習の動機付けが希薄で、「Ⅱを付した科目」「Ⅲを付した科目」を開設しても履修登録者が少ないという状況もある。
- 諸外国においては、公教育において芸術を学ぶことの重要性が認識され、国内でも中高生の芸術に対する興味関心は高まりつつあることから、**各関係科目の学習内容として「社会において芸術が果たす役割」または「芸術を学ぶ意味」を考えるなどの項目が必要。**
- 高校生にとって身近な学校が、伝統と文化を学ぶ場であるという意識を持つことが重要。授業内の表現活動に加え、校内行事や施設を活用した展示・鑑賞により、表現と鑑賞の関連を図ることができる。
- 多様な芸術に学ぶことは、**高等学校において芸術の広がりであるとそれを学ぶことの意義や価値を考えることにもつながる。**

第1～9回芸術WGにおける主な意見③⑧

【学習評価】

- 今回示された、題材や単元ごとに全観点で総括的評価を行うことを前提としない整理は、評定のための評価ではなく、授業改善に資する形成的評価を重視するというメッセージを明確に伝える点で有効であると考える。形成的評価を中心に据えることで、子供一人一人の学びの状況を見取り、資質・能力の確実な育成につながると考える。
- 学びに向かう力、人間性等における「見取る姿」については、従来の評価規準との違いが現場で分かりにくいため、評価規準とは異なる「子供の姿を見取るための着眼点」であることを丁寧に説明する必要がある。
- 学習の結果のみならず、理解や思考の変化といった過程を重視する今回の方向性は、自己調整学習など近年の学習理論とも整合しており重要である。学習者が計画・実行・振り返り・調整を繰り返すためには、単元を超えた一定の期間にわたる形成的評価が不可欠である。
- 本来、学習評価は教師が測定するためのものではなく、学習者が自らの学びを調整するための情報提供として位置づけるべきであり、結果ではなく学習過程の質を捉える視点が求められる。
- 複数の題材をまとめて総括的評価を行い、形成的評価を充実させる方向性は、指導と評価の一体化に資する。毎時間ワークシートを記入させる必要がなくなり、音や音楽に向き合う時間を確保できる点で評価できる。
- 形成的評価は新たな負担ではなく、日常的に行われている学習状況の把握とフィードバックを重視するものであるというメッセージを明確に伝えるべきである。
- 思考力、判断力、表現力等の「音楽を味わって聴くこと」が「音楽のよさなどを味わって聴くこと」に変更されているのは、中・高等学校の目標に合わせたものと考えられるが、「音楽のよさ」を含めることで、音楽の価値を認知する二次的な関与を求める意味合いが強まる。小学校段階の目標としては大きな変更となるため、慎重な検討が必要ではないか。
- 複数の題材や単元を通して総括的評価を行うことは、専門性の高い作業であり、必ずしも負担軽減につながるとは限らない。題材計画づくりの示し方や教科書の在り方と併せた検討が必要である。
- 学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」の文言については、一文の中に複数の要素が含まれ、評価の対象が分かりにくい表現もあるため整理が求められる。
- 「見取る姿」が2項目に分けて示されている点は、より分かりやすく提示するための工夫の余地があると感じるものの、基本的な方向性としては妥当であると評価している。
- 学習評価については、形成的評価を中心に据えることが、教師が児童生徒一人一人を丁寧に見取ることにつながり、深い学びの実現に資すると評価される。一方で、日常的な形成的評価を年度末の総括的評価にどう整理するかや、必要な評価材料の範囲を明確化することが課題とされる。
- 「学びに向かう力、人間性等」の評価について、単元や題材をまたいで「継続的な発揮」を見取るとした場合、年間を通した各題材の配置において「見取る姿」をどの題材でどのように設定するのが重要。参考資料などにおいて具体の例示などを提示することが必要と考える。
- 制作過程を重視する美術教育の特性を踏まえると、形成的評価の充実には賛成である。一方で、学びに向かう力、人間性等が軽視される印象を与えることは避けるべきであり、教科特性に応じて評価の在り方に違いがあってもよいのではないか。
- 「見取る姿」について、中学校・高等学校では「進んで関わり」の後に「学んだことや思いついたことをもとに」などに入れるのが良いのではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見③

【学習評価】（つづき）

- これまで出来上がった作品だけで評価をするということが一部見られることもあったが、作品が残らない造形遊びなど多い図画工作においては、過程を重視する今回の評価の方向性に賛成である。特に低学年では短時間で完結する題材も多いため、題材ごとに各観点の比重を工夫することが重要である。
- 学びに向かう力、人間性等の3要素があることを踏まえると、「見取る姿」も3つに示すのが良いのではないかと。
- 形成的評価の充実を不可欠と位置づけたことは重要である。複数の題材で総括的評価を行うことは有効であると考えているが、そのためにはポートフォリオ評価など具体的な手法の提示が必要である。
- 「見取る姿」は抽象度が高く、教師による解釈の差が生じる可能性があるため、具体化について検討が必要。
- 個人内評価は、多様な子供たち一人一人のよさや成長を自然な形で見取り肯定的に評価できるようにすることであり、芸術教科において特に重要である。個人内評価と形成的評価の関係についても検討する必要がある。
- 複数題材をまとめた総括的評価は合理化につながる可能性がある一方で、思考力、判断力、表現力等の総括的評価における「作品等に表す一連の過程の中で児童生徒の姿を捉えることを重視していくこと」について、例えば中学校美術では制作過程の評価が難しい場面もあるため、評価方法の工夫が必要である。
- 学びに向かう力、人間性等に関する今回の整理は、現行の主体的な態度の評価が難しかった点を踏まえた改善として適切であるが、評定との関係については丁寧な説明が必要である。
- 形成的評価を通じて学習プロセスを重視する方向性に賛成である。見取る姿が具体的に示された点は分かりやすいが、小学校と中学校ではより明確な差を設けてもよいのではないかと。小学校では自分が中心の内容になっているので、中学校ではより社会的な観点を取り入れることも考えられる。
- 高等学校美術Ⅰと工芸Ⅰで目標を分けて示されているため、評価しやすくなるのではないかとと思うが、この2つの表現の違いについては、その意図を説明する必要がある。
- これまで学校現場では「見取る」ことを大切にしてきたので、今回の方向性はそうした学校現場での実践を価値づけるものである。
- 「自分の感じ方や考え方を問い直しながら意味や価値をつくりだす」については、子供が試行錯誤を重ねながら創造する姿を引き出すことの重要性が表れており、そうした授業づくりが求められてくる。
- 教師は見取るだけでなく、それをどのように子供たちを価値づけて引き出して高めていけるのかが重要であるため、教師の力量も伸ばす必要がある。
- 形成的評価の充実には賛成であるが、「見取る姿」と評価規準の違いが分かりにくく、現場に混乱を招く懸念がある。
- 学びに向かう力、人間性等の見取る姿は個人内評価として生徒にフィードバックするもので評定につながらないとする矢印と、思考力、判断力、表現力等の観点別評価につながる矢印とが存在するが、評定に影響しないとされながら評価につながっているように見える点は生徒へ説明できるのか。
- 個人内評価をしつつ、形成的な評価として生徒に還元していくことだけでなく、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等の評価と併せ、学びに向かう力、人間性等を総合所見欄等に反映させることは、教師にとって負担が大きい。また、生徒にとっても、あるいは保護者にとっても煩雑であるため整理が必要である。

第1～9回芸術WGにおける主な意見④④

【学習評価】（つづき）

- 今回の学習指導要領の改訂で改善が図られると思うが、まだ作品中心の評価になりがちになるのではないかと予想される。学習評価はできるだけ簡便で、生徒の学習改善、教員の授業改善に資するべきであり、今回の形成的評価を一層充実させるという方向性は、表現や鑑賞の学習過程、身体性を大切にする芸術系教科・科目においてはとても良い方向と感じる。
- 学びに向かう力、人間性等の3要素を思考力、判断力、表現力等の過程で特に表出した場合に「○」を付すことは教員の個人感覚による評価になる恐れがあるため、「見取る姿」はもう少し具体的な事例を示すなどの工夫が必要である。
- 【書道】学校で評価基準を決める際、「高次の資質・能力」が評価とどのようにかわるのかという疑問が現場から出てくるのではないか。

第1～9回芸術WGにおける主な意見④

【ICT活用】

- ICTは共通の学びの土台を作るという授業のユニバーサルデザイン化に資する。指導要領全体の方向性に沿って先生方が何をしたらいいのかということが想像しやすいように、「協働的な学びと探究的な学びの充実」という文言を入れてはどうか。
- 世界中とつながることができる点や、演奏を録音・録画することで自己の表現を客観的に捉え直し、探究を深めることが容易になる。一方で、思考を広げたり深めたりという全体の方向性と揃えてはどうか考える。
- 資料に例示されたICTの活用はすでに現場での実践も積み重ねられてきており、芸術科の学習の本質を損なわない実効性の高い方法である。
- 学習の痕跡を容易に残すことができるようになったことで、学習評価に係る教師の負担軽減にもつながる。
- ICTは教育において多くの可能性を持つ一方で、負の側面も併せ持つ。積極的な活用を促すだけでなく、適切な使用に関するガイドラインのようなものを示すことが必要ではないか。例えば思考や技能の習得に本来必要な試行錯誤の過程を省略し、安易にICT機器に依存してしまうことへの懸念がある。
- 身体性を重視する音楽科の特性を踏まえ、ICTをどのように活用すれば、深い学びにつながるのか、引き続き検討が必要である。
- 著作権や知的財産権についての指導も重要であり、ICT活用と一体的に扱う視点が求められる。
- 生成AIの台頭により、これまでの価値観や表現の在り方が大きく変化する可能性がある。こうした時代背景を踏まえると、人間の感性や創造性を中核とする芸術教科の学びは、今後ますます重要性を増す。変化の激しい社会において柔軟に対応できる力を育成する観点を学習指導要領のどこかに入れておくべきと考える。
- 図画工作において、発想や構想の段階で表したいことを見つけることは、その後の活動全体に大きな影響を与える。共同編集可能なアプリ等を活用して、造形遊びの活動場所や材料についての考えを共有したり、児童一人一人の発想や構想を可視化したりすることが考えられる。鑑賞においても同様に、こうした工夫は多様性の包摂につながる。
- 生成AIは人間の能力を拡張する装置としての側面を持つ一方で、出力内容の正確性を判断する力が十分でない子供にとっては混乱を招くおそれがあり、身体をもとにした体験活動は大変重要。「身体性を基本とする体験活動とのバランスを取る」といった文言を入れてはどうか。
- ICT活用に当たっては、身体性を基盤とする人間本来の技能の重要性を改めて確認する必要がある。児童生徒はICT端末に日常的に接していることから、図画工作・美術において、表現や鑑賞の活動を充実させるツールとして活用し教科の目標を達成させることは可能。しかし、生成AIについて何に使って何に使わないのかという選択など、何らかの方針を示すことや、知的財産権に対する理解は必要になってくる。
- ICTは、鑑賞の場面において、作品の比較や意見共有、さらには遠方の人との交流を可能にするなど、子供の鑑賞の技能を身に着けることや、子供の心を動かすことに有効な手段である。表現活動においても、何度も消したり書いたりする試行錯誤ができたり、その過程を記録・保存できる点は利点である。
- 日常生活でICT機器に触れる機会が多いからこそ、時間の限られた学校教育では身体性を重視した体験を重視する視点も重要である。
- 生成AIとの関係は避けて通れないが、どこまで踏み込んで記述すべきかは慎重な検討が必要である。芸術教科における創造性とは何か、どのように育成するのかを示すことが現実的である。
- 知的財産の保護については、教師研修の充実と併せて進める必要がある。
- 鑑賞におけるICT活用について、有効性もある一方で細部ばかりを見ることに注視してしまうという課題もある。活用方法をより具体的に示すことで、現場での理解が深まると考える。

第1～9回芸術WGにおける主な意見④

【ICT活用】（つづき）

- 知的財産権の保護や情報リテラシーの育成や、感性や創造性の涵養に資するという観点から、情報メディアを用いて表現された現代美術作等について子供自身に考えさせる視点も重要と考える。
- 絵画や彫刻のように手で創作する活動においてICTは創作活動を支える補助的なツールとして利便性がある一方、写真・映像・メディアアートではそもそもICTは創作の前提条件として必要不可欠なツールであるという意味で位置付けは大きく異なる。映像制作やゲーム、参加型メディアアート等は、他教科との横断的な学びにつながる可能性がある。
- 高校の書道教育においては、動画の繰り返し視聴や高精細画像の拡大により、運筆や用筆の違いに気づくことができ、書の特性である「一回性」などの理解に役立つ。
- また、ワークシートをデジタル化して共有することで、テキスト・画像・動画など多様な情報を効率よく記録でき、他者の学びもリアルタイムで参照可能となる。これにより、生徒は互いの学びを参考にしながら理解を深め、教師も適切な指導を行いやすくなる。
- 検索機能の活用により、瞬時に自己や他者の学習成果を抽出し表示することができる。このことは多様な技能を習熟・習得することや、多様な見方や考え方に基づく作品理解、そして豊かに構想を工夫し表現することにつながる。
- 芸術系教科の本質である感性や創造性を引き出すために、効果的なICT活用事例を示していく必要がある。特にデジタルアーカイブは存在しているものの、十分に活用されていない現状がある。
- 書は時間性や運動性を伴うという特性があるを踏まえ、筆の動きを可視化するデジタル技術の活用は有効である。

【教科書】

- 教科書については、教材構成の意図や育成する資質・能力が分かるようになることが望ましい。
- 音楽の教科書の最後には資料集・楽曲集的な扱いのページがある。それらを先生方が選択して柔軟に自分たちの子供の実態や学校の実態に応じて授業作りができるようにする必要もある。
- 今後の教科書には、個別の資質・能力だけでなく、高次の資質・能力が育成される構造が求められる。高等学校芸術科において、芸術が生活や社会に果たす役割を位置付けることで、芸術科の他の科目と交流する時間を設けたり、舞台芸術や映像メディア等他の芸術分野の学習機会を導入したりするなど学習の広がりが期待できる。
- 教科書の内容精選に当たっては、教師のための資料としての情報が非常に多く含まれるため、そうした資料的価値を持つ内容が削減されることへの懸念がある。教師が教科書の全てを扱う必要はないというメッセージを、分かりやすく伝える工夫が必要である。
- 先生方が教科書に掲載されている題材から選択的に扱う構成になっていることを踏まえると、児童生徒や学校の実態に応じて柔軟に教科書を使うことを促すような工夫を行っていくことが必要である。
- 教科書の内容の精選、形成的評価の充実、そして高次の資質・能力等を生かした題材計画作りという観点を踏まえると、1つの大きなテーマをいくつか設定するという構成ができるのではないかと考える。
- 構造上の工夫をし、高次の資質・能力を踏まえた上で授業を行うということ、また鑑賞の技能をどのように扱うかを教科書で明確に示す必要がある。

第1～9回芸術WGにおける主な意見④3

【その他】

- 【図画工作】造形的な視点がどのようなことなのかを、もう一度再確認する必要があるのではないかな。
- 【美術】現行の取組の内容は、造形性が主軸にある様に見える。造形性に収まらない現代美術は美術教育に組み入れられていないのではないかなと感じている。
- 現代特有のメディアによる感情のコントロールやA Iの進化といったメディア環境において、自分を取り巻く社会環境に対する批判的な思考が育まれるべきではないかな。
- 中一ギャップ解消のため、小学校と中学校とのつながりを大切に考えるべき。
- つくって終わり、表現して終わりではなく、展示や発表等でのプレゼン、メッセージを発信するかが高度なフェーズとしてある。表現して伝える、といったことも入られないかな。
- 表現が固まってきて細かいところに目が行きがちだが、学校教育の中でじっくりみることができる態度を育てることが大事だということを、これから言葉を精査していく中で意識できたらよいと考えている。動画を早送りで見ると、情報を合理的に得ようとする現代の傾向の中で芸術教科に何ができるかを再認識した。
- 文言の精査も大事だが、そもそも芸術教育は今の子供たちにとってどんな役割をもつか忘れないようにと思った。
- 「意味や価値を追求する」「見いだす」「つくりだす」等の差については、改めて各科目の話を聞きながら教科ごとの特性はあるべきだが違いを説明できることが大事。

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 鑑賞において、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性などについて考えることを通して、生活や社会の中の音や音楽の働きや、音楽文化についての関心や理解を深める学習の充実
- 〔共通事項〕の新設
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る言語活動の充実

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- ・ 創作において、自分の表したいイメージと音楽を形づくっている要素の働きとを関わらせること、鑑賞において、音楽を聴いてその特徴を聴き取ったり、その音楽の文化的・歴史的背景を理解したりしながら、自分と音楽との関わりについて考え、言葉で説明することについては相当数の生徒ができている。
- ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識及び技能について具体的に説明すること、音楽を聴いてその特徴を捉え、音楽に関する用語を適切に使って説明することについては課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・ 表現意図を音楽で表現できるよう、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考え、必要性を感じながら技能を習得するための指導の充実を図る。
 - ・ 生徒が音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていけるよう、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考える指導の更なる充実を図る。
 - ・ 音楽に関する用語や記号などについて、実感を伴って理解することができるよう、音楽における働きと関わらせた音楽活動を工夫する。

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

創作において、表現意図を記述する問題例

(別紙1参照)

- 主に「思考力、判断力、表現力等」の育成に関連し、
 - ・ 自分が思い描いた情景と関わらせて、例示された複数の旋律の雰囲気の違いを感じ取り、自分が表したいと考えた旋律について表現意図を記述する問題を出題。

【通過率 68.4%、72.2%、85.8%】

鑑賞において、自分と音楽との関わりについて考え、言葉で説明する問題例

(別紙2参照)

- 主に「思考力、判断力、表現力等」の育成に関連し、
 - ・ 人間と音楽との関わりの視点から、文化的・歴史的背景の異なる2つの音楽を比較して聴き、今後自分が音楽と関わっていく上で着目したいことについて言葉で説明する問題を出題。

【通過率 67.8%】

歌唱において、表現意図と関わらせた知識及び技能について記述する問題例

(別紙3参照)

- 主に「知識及び技能」の習得に関連し、
 - ・ 二部合唱において、音の重なり方や声部の関わり方に着目して音楽の特徴を捉え、表現意図を踏まえてどのように歌うかについて記述する問題を出題。

【通過率 15.0%】

鑑賞において、リズム・パターンの変化の説明として適切な用語を選択する問題例

(別紙4参照)

- 主に「知識」の習得に関連し、
 - ・ 変奏曲の「主題」と「変奏」を聴いて、リズム・パターンの変化を聴き取り、その変化について説明する文に当てはまる適切な用語を選択する問題を出題。

【通過率 37.3%】

音楽 I 創作

創作において、表現意図を記述する問題例

音楽 I 「A 表現」(3)創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること、及び〔共通事項〕(1)ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることについて問う問題

○ 4 (2) 自分が思い描いた情景と関わらせて、例示された複数の旋律の雰囲気の違いを感じ取り、自分が表したいと考えた旋律について表現意図を記述する問題を出題
このような問題により、創作の活動を通した「思考力、判断力、表現力等」の育成の状況について測る。

- 4 下の楽譜は、唱歌「ちょうちょう」(原曲: ドイツ民謡「幼いハンス」)の旋律の冒頭4小節の楽譜です。恵美さんは創作の授業で、この4小節の旋律を「主題」とし、これを変奏する課題に取り組みました。この創作について、あとの(1)、(2)の問題に答えなさい。

はじめに「ちょうちょう」の旋律の冒頭4小節が1回流れます。



- (2) あなたもこの変奏の課題に取り組むことになり、左のページの【恵美さんの表現意図】になら倣って次のように表現意図をまとめました。

【あなたの表現意図】

「主題」の(ア)変化させ、(イ)音楽の雰囲気にすることで、(ウ)蝶を表現したいです。

あなたがイメージする蝶の様子に最も近い音楽を下の1から4の中から1つ選び、その上で【あなたの表現意図】を次のページの【条件】に従って完成させなさい。(18 (19 (20



音楽 I 創作

創作において、表現意図を記述する問題例



【条件】

- (ア) には、あとの〈選択肢〉の中から最もふさわしいものを1つ選ぶこと。
 (イ) には、(ア) のように変化させることで生まれる音楽の雰囲気について書くこと。
 (ウ) には、あなたがイメージする蝶の様子について書くこと。

〈(ア) の選択肢〉

- 1 拍子を3拍子に
- 2 旋律の一部の音の高さを1オクターヴ高く
- 3 リズムを付点音符を用いたリズムに
- 4 旋律を十六分音符を用いた旋律に
- 5 調を短調に

上の1から4の音楽が1回ずつ流れます。音楽を聴きながら解答しても構いません。

4 (2) の正答例

○音楽1を選んだ場合

アの正答 3

イの正答例 陽気な、のんびりとした

ウの正答例 ゆったりと飛んでいる、楽し気に舞う

○音楽2を選んだ場合

アの正答 4

イの正答例 忙しい、せわしない、快活な、軽快な

ウの正答例 小刻みに羽を震わせる、忙しく飛び回る、軽やかに飛ぶ

○音楽3を選んだ場合

アの正答 5

イの正答例 物憂げな、暗い

ウの正答例 悲し気に舞う、寂しそうに飛ぶ

○音楽4を選んだ場合

アの正答 1

イの正答例 軽快な、華やかな

ウの正答例 踊るように飛ぶ、優雅に舞う

【通過率 ア 68.4% イ 72.2% ウ 85.8%】

音楽Ⅰ 鑑賞

鑑賞において、自分と音楽との関わりについて考え、言葉で説明する問題例

音楽Ⅰ「B鑑賞」(1)鑑賞 ア(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことについて問う問題

○5(3)人間と音楽との関わりの視点から、文化的・歴史的背景の異なる2つの音楽を比較して聴き、今後自分が音楽と関わっていく上で着目したいことについて言葉で説明する問題を出題
 このような問題により、鑑賞の活動を通した「思考力、判断力、表現力等」の育成の状況について測る。

5 これから流れる鑑賞の授業の様子を聴いて、あとの(1)から(3)の問題に答えなさい。

【授業の様子】が流れます。

【授業の様子】

先生： **Aの音楽**は、ドイツの作曲家J.S. バッハの作品です。彼の音楽は、後世の音楽家たちに大きな影響を与えました。**Bの音楽**は、ロシアで活躍した作曲家N. カプースチンの作品です。彼はアメリカで生まれた音楽であるジャズに影響を受け、クラシック音楽とジャズを融合した独自のスタイルを確立し、聴衆に新鮮な驚きを与えました。

恵美さん： 音楽は、時代や地域、文化の違いなどによって様々なものがあるけれど、それらが融合することで新しいものが生まれることがあるんですね。

尚也さん： もしかしたら、**Bの音楽**はクラシック音楽が好きな人とジャズが好きな人が一緒に楽しめる音楽なのかもしれませんね。

あなた： (ア)

恵美さん： それまで知らなかった時代や地域の音楽に興味をもつきっかけになるかもしれません。

先生： そうですね。今日の授業では、音楽という存在をいろいろな側面から見ることができました。これまで気づかなかったことをいろいろ発見することができましたね。

(3) (ア)で、今後あなたが音楽と関わっていく上で着目したいことについて発言するとしたら、どのような内容を発言しますか。この授業から学んだことや考えたことを踏まえて書きなさい。(23)

5(3)の正答例 今まで聴こうとしてこなかった時代や地域の音楽も実際聴いてみれば、自分の好きな音楽との共通点が見つかるかもしれない。これからはもっといろいろな音楽にも触れていきたい。

【通過率 67.8%】

音楽 I 歌唱

歌唱において、表現意図と関わらせた知識及び技能について記述する問題例

音楽 I 「A 表現」(1)歌唱 イ(ア)曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること 及びウ(イ)創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な他者との調和を意識して歌う技能を身に付けることについて問う問題

○1 (3)二部合唱において、音の重なり方や声部の関わり方に着目して音楽の特徴を捉え、表現意図を踏まえてどのように歌うかについて記述する問題を出题
このような問題により、歌唱の活動を通して「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせた「知識及び技能」の習得の状況について測る。

(3) この校歌の **B** の部分を、下の楽譜のように二部合唱に編曲しました。

二部合唱に編曲した **B** の部分の音楽が 1 回流れます。

A

1 段目

この だいらに めぶく 一あおばよ とも

2 段目

と まなぼう きた えよう

B

声部 I

3 段目

さかえあれわがふるさとよ まなびやとともに あす

声部 II

4 段目

あすを つくろう われらのぼこ

※「声部」とは「パート」のことです。

音楽Ⅰ 歌唱

歌唱において、表現意図を表すために必要な技能について説明する問題例

この二部合唱の楽譜の4段目「あすをつくろう われらのぼこう」の表現をどのように工夫するかについてワークシートに記述することになりました。あなたが声部Ⅱを担当するとしたら、「われらのぼこう」の部分の表現の工夫についてどのように記述しますか。次の□の文中の（ア）、（イ）に当てはまるあなたの考えを、あとの【条件】に従って書きなさい。（3

【ワークシートの記述】

4段目の歌詞は、同じ学校で学ぶ仲間同士、協力し合いながら明るい未来を築いていこうという前向きな気持ちを表しているように感じます。2つの声部の関わり方に着目すると、「あすをつくろう」の部分では、声部Ⅰと声部Ⅱが掛け合いになっています。だから、仲間と声を掛け合っているように、声部Ⅱは声部Ⅰと同じ声量で、声部Ⅰとのつながりを意識して歌いたいです。

一方、「われらのぼこう」の部分は（ア）ので、（イ）歌いたいです。

1(3)の正答例

ア 同じリズムで一緒に動く
イ 声部Ⅰとリズムがずれないように

ア 違う音で重なってハーモニーをつくっている
イ 声部Ⅰが目立つように声量を調整しながら

【通過率 15.0%】

音楽Ⅰ 鑑賞

鑑賞において、リズム・パターンの変化の説明として適切な用語を選択する問題例

音楽Ⅰ「B鑑賞」(1)鑑賞 イ(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解すること、及び〔共通事項〕(1)ア 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することについて問う問題

○2(3) 変奏曲の「主題」と「変奏」を聴いて、リズム・パターンの変化を聴き取り、その変化について説明する文に当てはまる適切な用語を選択する問題を出題
このような問題により、鑑賞の活動を通した「知識」の習得の状況について測る。

(3) これからある変奏曲の一部分が流れます。「変奏曲」とは、「主題」となる音楽と、その「主題」となる音楽の、音楽を形づくっている要素を様々に変化させてつくった「変奏」によって構成されるひとまとまりの曲のことです。

「主題」と2つの「変奏」のそれぞれ一部分が1回ずつ流れます。

この変奏曲について述べた次の□の文中の（ア）、（イ）に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、あとの〈選択肢〉の1から9の中から1つずつ選びなさい。

(14/15)

1つ目の変奏では、リズムが（ア）の連続に変わります。

2つ目の変奏では、拍子が（イ）に変わります。

〈選択肢〉

1 スラー	2 三連符	3 付点音符
4 3拍子	5 4拍子	6 5拍子
7 アクセント	8 スタッカート	9 シンコペーション

「主題」と2つの「変奏」のそれぞれ一部分が1回ずつ流れます。

2(3)アの正答 2〔三連符〕

【通過率 37.3%】

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成を重視
- 「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図った指導の充実
 - ・発想や構想と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することを重視
- 造形を豊かに捉える多様な視点をもてるよう〔共通事項〕を新設

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 対象の造形的な特徴から、形体や構成などを考え、発想や構想をすることについては、相当数の生徒ができている。
- 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることは、相当数の生徒ができている。
- 表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表すことについては、課題があると考えられる。
- 作品の造形的な特徴を分析的に捉えながら、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることは、課題があると考えられる。
- 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式で捉えることを理解することについては、課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・〔共通事項〕の視点で指導を見直し、特に全体のイメージや作風、様式などで捉えることについて実感を伴いながら理解できるようにする。
 - ・主題に応じて技能を働かせ創造的に表せるよう、生徒が試行錯誤し表現方法を工夫できる学習過程の改善を図る。
 - ・自己や社会などを見つめ発想や構想をしたり、作品などを直感的に捉えるだけでなく分析的に捉え、見方や感じ方を深めたりする指導の一層の充実を図る。
 - ・表現及び鑑賞の相互の関連を図り、生活や社会と美術との関わりを意識させ、美術や美術文化を実感的に捉えることができるよう指導の改善を図る。

4. 調査問題例（ペーパーテスト・実技調査）

感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想の問題例（別紙1参照）

- ものの形や色の特徴、イメージの重なりなどから見立てる発想や構想の表現の問題を出題
- 【通過率 71.7%】

映像メディア表現についての見方や感じ方の問題例（別紙2参照）

- 画像ソフトウェアの機能によって表した作品とその機能を選択する鑑賞の問題を出題
- 【通過率 82.0%、81.6%、70.4%、80.4%】

創造的に表す技能の問題例（別紙3参照）

- 材料を効果的に組み合わせて表現方法を工夫し、主題を追求して立体作品に表す表現の問題を出題
- 【通過率 46.2%、49.1%】

美術作品などについての見方や感じ方の問題例（別紙4参照）

- 複数の美術作品を比較し、造形的な特徴を分析的に捉えながら、創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞の問題を出題
- 【通過率 44.6%、30.0%】

造形的な視点を豊かにするための知識の問題例（別紙3、4参照）

- 「躍動する」というテーマから思い浮かべたイメージを基に、材料を効果的に組み合わせて立体作品に表す表現の問題を出題
- 【通過率 46.2%、49.1%】
- 様々な時代における美術作品の造形的な特徴を作風や様式などの視点で捉える鑑賞の問題を出題
- 【通過率 44.6%、30.0%】

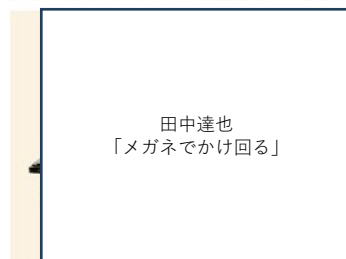
「感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」の問題例

美術 I 対象の造形的な特徴から、形体や構成などを考え、発想や構想をすることについて問う表現の問題を出題

○ものの形や色の特徴、イメージの重なりなどから見立てる

・この問題から、「知識及び技能（知識）」及び「思考力、判断力、表現力等（発想や構想）」の育成されている状況について調査した。

1 太郎さんと花子さんの会話や作品を参考にして、次の問題に答えなさい。

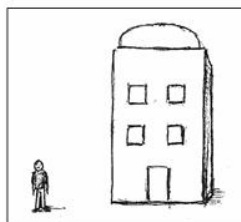


＜作品A＞

太郎 <作品A>は、「メガネ」を自転車に見立てて、それに人が乗っている様子を表しているんだね。

花子 ものの形の特徴やイメージの重なりなどを基に、別のものに置き換える「見立て」はとても楽しいね。私たちも身近なものを使って考えてみようよ。

太郎さんは、写真をもとに＜作品B＞を描きました。



＜作品B＞「消しゴムの家」

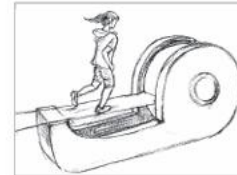
条件 正答例

対象となったものの形や色の特徴、イメージの重なりなどから形体や構成を考えて発想や構想をしていることが絵から分かる。

太郎 <作品B>は、消しゴムを家に見立てているんだけど、単に窓を付けて建物に置き換えただけでは、＜作品A＞のように「見立て」の面白さが感じられないんだよね。

花子 そうか。＜作品A＞の「見立て」の面白さは、ものごとと人が単に描かれているだけではなくて、見立てたものと人との関わりが感じられるところなんだね。

太郎さんは、花子さんの会話を踏まえて、＜作品C＞を描き、考え方をまとめた。



＜作品C＞「ランニングマシンで走る人」

①「見立て」のもとになったもの	テーブカッター
②見立てた理由	テーブカッターの形やテーブを引き出したときの動きが、ランニングマシンやベルトの動きのイメージと重なったから。
③見立てたものと人との関わり	ランニングマシンで一生懸命に運動している人

太郎さんが＜作品C＞についてまとめたもの

＜問題＞ 太郎さんと花子さんの会話や作品、下の＜資料＞を参考にするなどして、「見立て」を使った絵を次の＜条件＞を踏まえて【解答欄】に描きなさい。（1/2）

＜条件＞

- ものの形や色の特徴、イメージの重なりなどから見立てること。
- ＜作品C＞のように、見立てたものと人との関わりを考えること。その際、必ず人を描くこと。

【記入欄】に、描いた作品の①「見立て」のもとになったもの、②見立てた理由、③見立てたものと人との関わりについて書きなさい。

＜資料＞ ※これらの資料は、参考のために示したものです。ここに示すもの以外で考えても構いません。 ※実際の調査問題では写真を掲載しています

文房具の写真	カトラリーの写真
調理器具の写真	ボトルの写真
野菜の写真	家電製品の写真

表1-4

【通過率 71.7%】

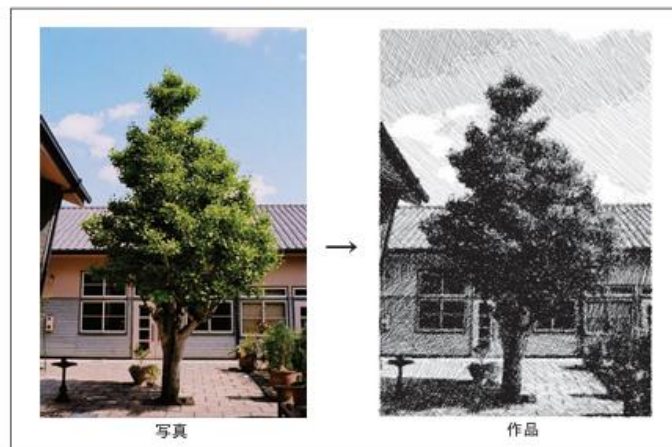
「映像メディア表現についての見方や感じ方」の問題例

美術Ⅰ 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関する見方や感じ方について問う鑑賞の問題を出題

○画像ソフトウェアの機能によって表した作品とその機能を選択する

・この問題から、「知識及び技能(知識)」及び「思考力、判断力、表現力等(鑑賞)」の育成されている状況について調査した。

- 4 花子さんたち4人は、コンピュータを使って写真を加工し作品をつくりました。花さんたちの会話や＜資料＞をもとにして、次の問題に答えなさい。



＜資料＞



花子

＜資料＞の写真は、私が撮ったものだよ。鉛筆で描いたような感じにしたいけどコンピュータの画像ソフトウェアを使って作品のようにしてみよう。



太郎

コンピュータの操作で作品のイメージが変えられるって面白いね。もっと自分のイメージに合わせて写真を加工してみようよ。

4人は、＜資料＞の写真を使用し、画像ソフトウェアの機能を使って、次のようにそれぞれの表したいイメージの作品をつくりました。

 花子	私は、時間の流れを表現したくて、全体を古びた感じにしました。	【通過率 82.0%】 E、㊶
 太郎	私は、寂しい雰囲気を表現したくて、明暗を強調し孤独な感じにしました。	【通過率 81.6%】 D、㊵
 次郎	私は、視点を変える面白さを表現したくて、高い所から全体を見渡すような感じにしました。	【通過率 70.4%】 A、㊴
 文子	私は、やさしい雰囲気を表現したくて、実際に絵の具で描いたような感じにしました。	【通過率 80.4%】 B、㊷

(1) 花子さん、太郎さん、次郎さん、文子さん、それぞれの表したいイメージに最も近いと考えられるものを、下の作品AからEの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。また、その作品はコンピュータの画像ソフトウェアのどのような機能を使ったと考えられますか。最も近いと考えられるものを【使った機能】の㊶から㊷の中からそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。＜11＞＜12＞＜13＞＜14＞



作品A



作品B



作品C



作品D



作品E



作品F

【使った機能】

- | | |
|---------------|---------------|
| ㊶ 左右の比率を変える機能 | ㊴ 色調を変える機能 |
| ㊷ 背景をぼかす機能 | ㊵ 上下の比率を変える機能 |
| ㊸ 背景を減光する機能 | ㊶ タッチを変える機能 |

「創造的に表す技能」、「造形的な視点を豊かにするための知識」の問題例

美術Ⅰ 表現方法を工夫し、主題を追求して、材料を効果的に組み合わせて創造的に表す技能について問う表現の問題を出題

- 材料を効果的に組み合わせて表現方法を工夫し、主題を追求して立体作品に表す
- 「躍動する」というテーマから思い浮かべたイメージを基に、材料を効果的に組み合わせて立体作品に表す
 - ・この問題から、「知識及び技能」の育成されている状況について調査した。

1 太郎さんは、和紙とケント紙、針金を組み合わせて＜作品＞をつくり、表現の工夫につ

いて＜資料＞をまとめました。

次の太郎さんと花子さんの会話や作品、資料を参考にして、立体作品をつくりなさい。



＜作品＞ 題名「誕生」

※台紙には正面を示す矢印と、題と出席番号を記入している



太郎

＜作品＞は、「誕生」というテーマから、⑦の部分は命が生まれ伸びていく感じを表したよ。そして、④の部分は生まれた命を包み守る感じを、⑤の部分はその誕生を人々が支えている感じをイメージして表現したんだよ。



花子

やさしく包むような形や、支えられながら上に伸びていこうとしている感じがいいよね。つくる時には、どんなことを工夫したのかな。



太郎

材料の生かし方や組み合わせの工夫について＜資料＞にまとめてみたよ。

①それぞれの材料の特性を次のように生かしました。

	表したい感じ	材料の特性の生かし方
和紙	命を包むやさしい感じ	和紙のやさしさや薄さを生かして、ちぎったり丸めたりしてふんわりとさせた。
ケント紙	成長して様々な方向に伸びていく感じ	ケント紙の硬さを生かして、折り目をつけたり、切り込みを入れて形をつなげたりして立体的にした。
針金	誕生を支える力強い感じ	針金のやさしさや硬さを生かして、パネのように曲げたり、垂直に立ち上げたりした。

②和紙とケント紙、針金の効果的な組み合わせについて次のように工夫しました。

- ・和紙とケント紙を組み合わせ、ケント紙のしっかりした感じと、和紙のふわっとした感じを対比させた。
- ・中央の部分は、しっかりと支えるために針金とケント紙で枠をつくり、それに和紙を組み合わせてやさしく包み守る感じにした。
- ・周囲に伸びている部分は、針金に和紙を貼付けたり、針金とケント紙を組み合わせたりして、誕生を支えている様々な人々のイメージを表した。

＜資料＞



花子

今度は、力にあふれ生き生きと活動している「躍動する」というテーマで、作品を和紙とケント紙、針金でつくってみようよ。

テーマ「躍動する」 正答例

材料や用具を使い制作した立体作品から「躍動する」のイメージを表せていることが分かる。

【通過率 49.1%】

（問題）これまでの太郎さんと花子さんの会話や＜作品＞、＜資料＞を参考に、配付された和紙とケント紙、針金の材料を全種類使い、「躍動する」というテーマから思い浮かべたイメージをもとに立体作品をつくりなさい。その際、次の2つの条件を必ず取り入れること。

＜条件＞

- イメージを表現できるように、和紙とケント紙、針金のそれぞれの材料の特性を生かすこと
- イメージを表現できるように、材料を効果的に組み合わせること

作品は台紙に固定し、台紙には＜作品＞のように正面を示す矢印と題、出席番号を記入しなさい。

「躍動する」というテーマから思い浮かべたイメージや、制作にあたって工夫した点を、別紙の制作カードに具体的に説明しなさい。

条件 正答例

イメージを表現するために、配付された3種類の材料を効果的に組合わせていることが分かる。

【通過率 46.2%】

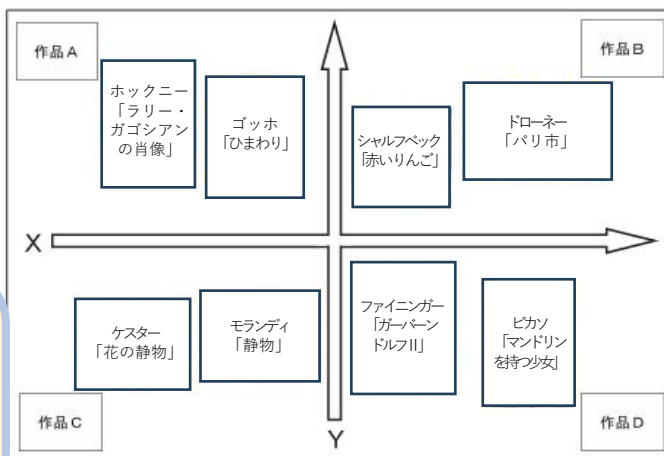
「美術作品などについての見方や感じ方」、「造形的な視点を豊かにするための知識」の問題例

美術 I 作品の造形的な特徴を捉え、分析的に見るなどの見方や感じ方について問う鑑賞の問題を出題

○複数の美術作品を比較し、造形的な特徴を分析的に捉えながら、創造的な表現の工夫などについて考える

・この問題から、「知識及び技能(知識)」及び「思考力、判断力、表現力等(鑑賞)」の育成されている状況について調査した。

2 太郎さんは、美術の授業で外国の様々な時代作品について調べて、自分が感じたそれぞれの作品の造形的な特徴をもとに下の<資料>を作成しました。太郎さんと花子さんの会話や資料をもとにして、次の(1)と(2)の問題に答えなさい。(下の<資料>の大きな画像は20ページにあります。)



花子 この<資料>の横の矢印Xや縦の矢印Yと、並べられているそれぞれの作品はどういった関係にあるのかな。

太郎 横の矢印Xは、作品から私が感じた⑦の度合いを示していて、右の方にいくほどその度合いが高くなるんだ。縦の矢印Yは、作品から私が感じた④の度合いを示していて、上の方にいくほどその度合いが高くなるように作品を並べてみたんだ。

花子 なるほどね。それぞれの作品の造形的な特徴が整理されていてわかりやすいよね。

(1) 太郎さんの会話にある⑦と④に最もよく当てはまるものを、下の

【語群】の②から⑦の中からそれぞれ1つずつ選びなさい。(3)

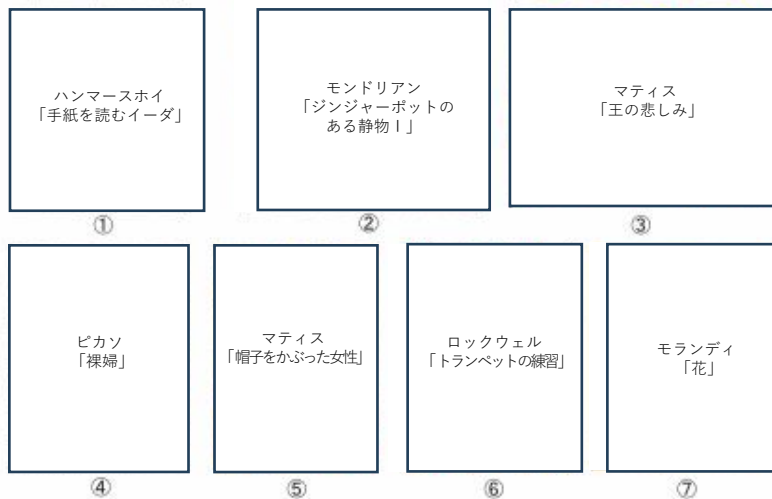
【語群】

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ②抽象的な表現 | ③写実的な表現 | ④立体感の表現 |
| ⑤遠近感の表現 | ⑥色の明るさ | ⑦色の鮮やかさ |

(2) <資料>の作品A、B、C、Dにはその位置に当てはまる作品が入ります。最もよく当てはまる作品を、下の【作品】の①から⑦の中からそれぞれ1つずつ選びなさい。(4)

【作品】

※実際の調査問題では画像を掲載しています



【通過率 30.0%】

作品A ⑥

作品B ③

作品C ①

作品D ④

【通過率 44.6%】

ア a

イ f

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力の育成を重視
- 「A 表現」及び「B 鑑賞」の相互の関連を図った指導の充実
 - ・発想や構想と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することを重視
- 造形を豊かに捉える多様な視点をもてるよう〔共通事項〕を新設

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 生活環境などから心豊かな発想をすることについては、相当数の生徒ができている。
- 身近な生活の視点に立って、意図と素材の生かし方などについて考え、見方や感じ方を深めることは、相当数の生徒ができている。
- 発想をしたことを基に使用する人や場などに求められる機能を考え、制作の構想を練ることについては、課題があると考えられる。
- 手順や技法などを吟味し、創造的に表すことについては、課題があると考えられる。
- 工芸の伝統と文化などについて考え、見方や感じ方を深めることは課題があると考えられる。
- 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解することについては、課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・〔共通事項〕の視点で指導を見直し、特に全体のイメージや作風、様式などで捉えることについて実感を伴いながら理解できるようにする。
 - ・制作過程を重視し、創造的に表せるよう、意図に応じて材料の生かし方や効果的な手順、技法を吟味させるなど指導の改善を図る。
 - ・使う人や場面、作品に求められる条件などを整理し、制作の構想を練ったり、作品などを表面的に見るだけでなく分析的に捉え、見方や感じ方を深めたりすることができるよう指導の改善を図る。
 - ・表現と鑑賞の相互の関連を図り、生活や社会との関わりを意識させ、工芸や工芸の伝統と文化を実感的に捉えることができるよう指導の改善を図る。

4. 調査問題例(ペーパーテスト・実技調査)

使用する人や生活環境から発想をする問題例

(別紙1参照)

- 使用する人の状況や生活環境から、歯ブラシが取り出しやすい歯ブラシスタンドの発想をする表現の問題を出題

【通過率 77.2%】

身近な生活の視点に立った見方や感じ方の問題例

(別紙2参照)

- 使用する場に相応しいと考えられるテーブルを選び、その根拠を考える鑑賞の問題を出題

【通過率 86.1%、94.0%、86.7%、86.2%、94.4%】

発想をしたことを基に制作の構想を練る問題例

(別紙1参照)

- 使用する人や使う場などを想定して、ブラシの部分はどこにも触れないような歯ブラシスタンドの構想を練る表現の問題を出題

【通過率 45.4%】

創造的に表す技能の問題例

(別紙3参照)

- 与えられた2つの条件から制作全体を見通して、手順や技法を吟味しカップホルダーを制作する表現の問題を出題

【通過率 48.0%】

工芸の伝統と文化などについての見方や感じ方の問題例

(別紙4参照)

- 伝統的なよさの生かし方が共通する工芸作品などの組合わせと、その根拠を考える鑑賞の問題を出題

【通過率 29.2%、47.9%、41.7%】

造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解に関する問題例

(別紙1、3、4参照)

- 使用する人や使う場などの全体のイメージを想定して、制作の構想を練る表現の問題を出題
- 与えられた2つの条件から制作するカップホルダーの全体のイメージを捉え制作する表現の問題を出題
- 工芸作品などを作風や様式などの文化的な視点で捉える鑑賞の問題を出題

【通過率 45.4%】

【通過率 48.0%】

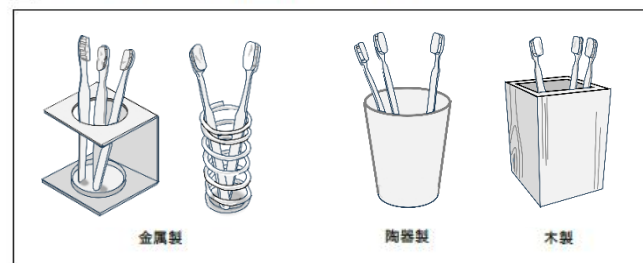
【通過率 29.2%、47.9%、41.7%】

「使用する人や生活環境から発想をすること」、「発想をしたことを基に制作の構想を練ること」、「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解」の問題例

工芸 I 使用する人や生活環境、場などから発想や構想をすることについて問う表現の問題を出題

- 使用する人の状況や生活環境から、歯ブラシが取り出しやすい歯ブラシスタンドの発想をする
- 使用する人や使う場などを想定して、ブラシの部分がどこにも触れないような歯ブラシスタンドの構想を練る
- 使用する人や使う場などの全体のイメージを想定して、制作の構想を練る
- ・この問題から、「知識及び技能（知識）」及び「思考力、判断力、表現力等（発想や構想）」の育成されている状況について調査した。

1 太郎さんと花子さんの会話や資料をもとにして、次の問題に答えなさい。



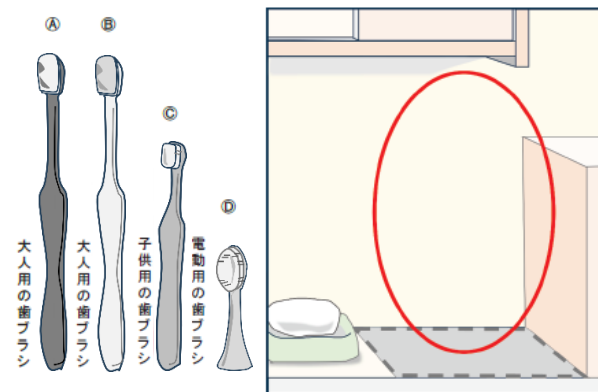
<資料1> ※実際の調査問題では写真を掲載しています

太郎 <資料1>は、様々な材質の入れ物を歯ブラシスタンドにした写真だよ。これだと手軽に使えていいよね。

花子 でも、衛生面を考えると入れ方によっては、歯ブラシ同士が触れ合ってしまうよだし、同じ種類の歯ブラシだと誰が使ったものが分かりにくいよね。

太郎 それに、<資料2>の①から④のように歯ブラシには色々な長さのものがあって、どの長さの歯ブラシにも対応でき、取り出しやすい歯ブラシスタンドだと便利だね。

花子 それでは、<資料3>の赤い丸の場所で作れるような色々な長さの歯ブラシを収納できる歯ブラシスタンドのアイデアを考えてみようよ。



<資料2>

<資料3>

(問題) 太郎さんと花子さんの会話や資料を参考に、<資料3>の赤い丸の場所で作る歯ブラシスタンドのアイデアスケッチを描きなさい。その際、収納した状況が分かるように【解答欄】にある①から④と同じ大きさで歯ブラシを描くこと。また、下の3つの<条件>を全て満たすこと。

(1 (2

<条件>

- ① 歯ブラシスタンドを置く場所は【解答欄】の破線の範囲内とし、材質は「金属」、「陶器」、「木」のいずれかを想定して考えること。
- ② 歯ブラシ同士が触れ合わず、衛生面を考え、ブラシの部分がどこにも触れない構造にすること。
- ③ ①から④の4本の歯ブラシが取り出しやすいデザインにすること。

なお、【記入欄】に<条件>の①で選んだ材質と、<条件>の②と③について工夫したことを書きなさい。

条件② 正答例

4本の歯ブラシのブラシの部分がどこにも触れないようにしており、使用する人や場などに求められる機能を考えて制作の構想を練っていることが分かる。

【通過率 45.4%】

条件③ 正答例

形や機能を考えて4本の歯ブラシがそれぞれ取り出しやすくなるようにしており、生活環境などから他者の視点に立って発想をしていることが分かる。

【通過率 77.2%】

「身近な生活の視点に立った見方や感じ方」の問題例

工芸 I 身近な生活の視点に立って、意図と素材の生かし方などについて考え、見方や感じ方を問う鑑賞の問題を出題

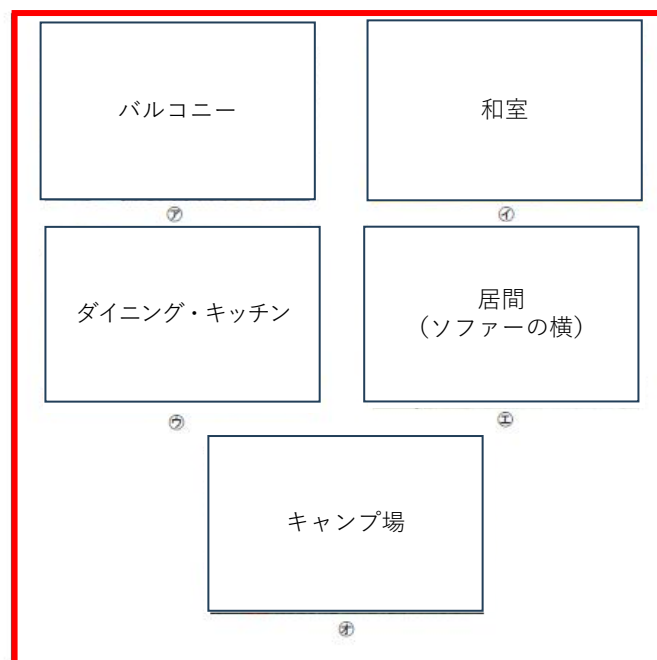
○使用する場に相応しいと考えられるテーブルを選び、その根拠を考える

・この問題から、「知識及び技能(知識)」及び「思考力、判断力、表現力等(鑑賞)」の育成されている状況について調査した。

2 太郎さんと花子さんは、工芸の授業でテーブルの鑑賞をしました。次の問題に答えなさい。

2人は、テーブルと使う場所との関係について調べて<資料1>と<資料2>を作成しました。

(1) <資料1>の⑦から⑩の写真にある破線の丸印のあたりで使うテーブルとして相応しいと考えられるものを、<資料2>の①から⑩のテーブルの中から2つずつ選びなさい。また、その選んだ理由として最もよく当てはまるものを、次の【相応しいと思う理由】の①から⑦の中から1つずつ選びなさい。(3 (4 (5 (6 (7



<資料1>

工 I - 6



※実際の調査問題では写真を掲載しています

<資料2>

※ () 内は主な材質

【相応しいと思う理由】

- ① 比較的小さい材質でつくられており、折りたたんで運びやすいから。
- ② 子供の成長に合わせて、天板の高さを変えることができるから。
- ③ 直射日光に強く頑丈で、本体の重みにより安定感があるから。
- ④ 床からの高さがあるので椅子を使用することができ、日常の食事などにも適しているから。
- ⑤ 使用目的に合わせて、天板の角度を変えて使うことができるから。
- ⑥ 座る場所の左右どちらの位置にも設置でき、小物を置くのに便利だから。
- ⑦ 高さが低いので部屋をより広く感じさせ、床に座るスタイルにも適しているから。

ア : ③、④、⑤ 【通過率 86.1%】
 イ : ①、②、⑦ 【通過率 94.0%】
 ウ : ①、⑥、④ 【通過率 86.7%】
 エ : ③、⑦、⑥ 【通過率 86.2%】
 オ : ②、⑤、① 【通過率 94.4%】

「創造的に表す技能」、「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解」の問題例

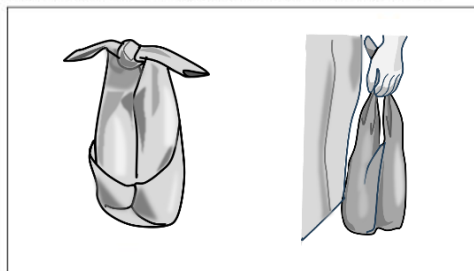
工芸 I 条件に応じて、手順や技法などを吟味し、創造的に表すことについて問う表現の問題を出題

○与えられた 2 つの条件から制作全体を見通して、手順や技法を吟味しカップホルダーを制作する

○与えられた 2 つの条件から制作するカップホルダーの全体のイメージを捉える

・この問題から、「知識及び技能」の育成されている状況について調査した。

1 太郎さんと花子さんは、工芸の授業で「運ぶ」をキーワードに身の回りのものを観察することになりました。次の 2 人の会話や資料を参考にして、作品をつくりなさい。

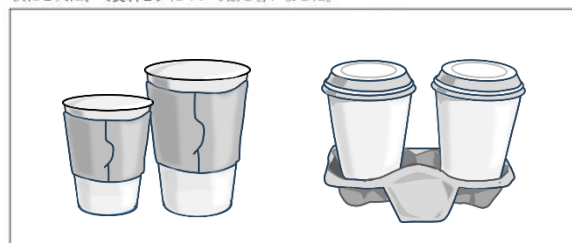


<資料 1> 「風呂敷」で瓶を包んで運ぶ

太郎 <資料 1> は、風呂敷で 2 本の瓶を包んでいるね。風呂敷は、色々な形のものや、複数のものをまとめて運ぶ時にも便利だね。

花子 本当だね。でも、カップに入った飲み物だと傾けるとこぼれてしまわないかな。

次に 2 人は、<資料 2> について話し合いました。



<資料 2>

太郎 <資料 2> の㊦は、カップスリーブと呼ばれているもので、紙コップなどに付けると熱い飲み物を入れても安心なんだ。㊧は、カップホルダーと呼ばれるもので、㊦とも紙でつくられているよ。

花子 私も見たことがあるよ。両方とも持ち運ぶのに便利だね。それと、㊦の方は紙の接合方法を工夫してつくってあって、糊で接着しているのではないだね。

太郎 今度、学校の文化祭で飲み物の販売をするんだ。下の<資料 3>のような飲み物の入った紙コップを持ち運べるように身近な材料でつくれないかな。



<資料 3>

花子 そうだね。クラフト紙とクラフトバンドの紙素材を使って、飲み物の入った 2 つの紙コップを一緒に持ち運べるものをつくってみようよ。

(問題) これまでの太郎さんと花子さんの会話や、資料を参考に、これから配付される 2 つの紙コップに飲み物が入っていると想定し、それら運ぶカップホルダーをつくりなさい。その際、次の 2 つの条件を全て満たすこと。

なお、制作の際には、配付された材料及び用具のみを使い、紙コップは一切加工せず材料として使用しないこと。材料の加工方法については、次ページの制作のための解説も参考に工夫してつくること。

<条件>

- ① 飲み物の入った 2 つの紙コップを片手で運べ、こぼれないように固定される構造にすること。
- ② 配付されたクラフト紙と、クラフトバンドの両方の材料を必ず使い、それぞれの特性を生かしてつくること。

別紙の制作カードの【記入欄】に<条件>の①について工夫したことと、<条件>の②について工夫したことを具体的に説明しなさい。また、完成した作品の目立つところに組、出席番号を記入し、配付される紙コップをのせた状態で提出すること。

【通過率 48.0%】

条件① 正答例

条件に示された「片手で運べる」「固定される構造」に基づき、機能や形、構造を考えて表していることが分かる。

「工芸の伝統と文化などについての見方や感じ方」、「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解」の問題例

工芸Ⅰ 工芸の伝統と文化などについての見方や感じ方を問う鑑賞の問題を出題

○伝統的なよさの生かし方が共通する工芸作品などの組合わせと、その根拠を考える

○工芸作品などを作風や様式などの文化的な視点で捉える

・この問題から、「知識及び技能（知識）」及び「思考力、判断力、表現力等（鑑賞）」の育成されている状況について調査した。

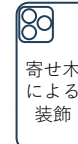
5 花子さん、太郎さん、文子さん、次郎さんの4人は、工芸の授業で、日本の伝統的な工芸について学習しました。花子さんたちの会話やカードの内容を参考にして、次の(1)と(2)の問題に答えなさい。

(2) それぞれのカードの【根拠】の欄に、(1)で【工芸作品などの組合せ】を選んだ理由を、【着目した点】に基づいて記述しなさい。(19 (20 (21

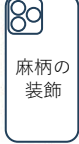
花子さんのカード

【工芸作品などの組合せ】 ＜スマートフォンケース＞	現代的なもの	伝統的なもの
 樺細工による装飾	①	A
【着目した点】	材料の特徴	
【根拠】	【工芸作品などの組合せ】を選んだ理由は、	

次郎さんのカード

【工芸作品などの組合せ】 ＜スマートフォンケース＞	現代的なもの	伝統的なもの
 寄せ木による装飾	③	C
【着目した点】	素材の色	
【根拠】	【工芸作品などの組合せ】を選んだ理由は、	

文子さんのカード

【工芸作品などの組合せ】 ＜スマートフォンケース＞	現代的なもの	伝統的なもの
 麻柄の装飾	②	B
【着目した点】	植物	
【根拠】	【工芸作品などの組合せ】を選んだ理由は、	

【通過率 花子29.2%、文子47.9%、次郎41.7%】

(2) 正答例

工芸作品などの組合わせを選んだ理由において、「着目した点」から以下の記述をしており、工芸の伝統的なよさの生かし方などについて考えていることが分かる。

(花子さんのカード) 樹皮や風合いなどについて
 (文子さんのカード) 伝統的な文様などについて
 (次郎さんのカード) 色や木目の特徴などについて

※実際の調査問題では現代的なものの写真を掲載しています

寄せ木の 小箱	べっ甲の メガネ	竹細工の バック
a	b	c
樺細工装飾の ライト	切り子の グラス	唐草模様の マグカップ
d	e	f

＜資料1＞

※実際の調査問題では伝統的なものの写真を掲載しています

植物柄の 染め付けの壺	寄せ木の 箱	植物模様の 印伝の巾着
g	h	i
曲げわっぱ	樺細工の 箱	蒔絵の 箱
j	k	l

＜資料2＞

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力の育成の重視
 - ・「思考力、判断力、表現力等」と関わらせた「知識及び技能」の育成
 - ・鑑賞の指導内容の充実、言語活動の充実
 - ・感性を働かせて、作品を構想し表現を工夫したり、作品の意味や価値を見いだしたりする学習の充実
 - ・生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化についての理解を深める学習の充実
 - ・表現と鑑賞の学習で共通に必要な資質・能力として〔共通事項〕を新設

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりについて考え、書を生活や社会の中でどのように生かすかを考えたり判断したりすることは相当数の生徒ができている。
- 表現と鑑賞の学習を相互に関連付けて考えることや、〔共通事項〕に示した知識や用語、各領域・分野の基本的な知識や用語の習得・定着に課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について理解を深めるとともに、〔共通事項〕及び各領域・分野の基本的な知識や用語の習得・定着を図る学習活動の充実
 - ・表現と鑑賞の学習を相互に関連付けて生かしながら、資質・能力を一体的に育成する学習活動の充実

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりに関する問題例（別紙1、別紙2参照）

- 生徒が制作した作品に対して適切な自己評価文・鑑賞文を選択する問題を出題。

【通過率 一(二) ウ 86.7% エ 87.3%
二(二) ア 85.9% ウ 80.3% エ 70.6%】

表現と鑑賞の学習を相互に関連付けて考えることに関する問題例（別紙3参照）

- 古典に基づく「漢字仮名交じりの書」の創作について、参考とした古典を、制作の意図に対応させて古典それぞれの表現性・表現効果を捉えて選択する問題を出題。

【通過率 二(一) ア 37.5% ウ 5.9%】

基本的な知識や用語の習得・定着に関する問題例（別紙4参照）

- 「鑑賞」に関わる基本的な知識・用語、「仮名の書」の構成に関わる基本的な知識・用語を解答する問題を出題。

【通過率 四(二)① 43.2% ② 41.0%
五(二)② 22.4% 八(二) 40.6%】

生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりに関する問題例

書道 I 第 2 学年

生徒が制作した作品に対して適切な自己評価文を選択する問題

- 中学校国語科の書写での学習を踏まえ、漢字と漢字の大きさ、漢字と平仮名の大きさ、字間、文字の中心と行の中心、用紙に対する適切な字配り・配列、周囲の余白といった、書道の学習の基礎的内容についての知識を活用して、全体構成について適切に考え、判断することを求めた問題。
- 目的や用途に即して手書きされた文字を通して、いかに効果的に伝えるかについて適切に考えるための資質・能力を測る。

正答 一(二) ウ 3、エ 1

通過率 一(二)
ウ 86.7% エ 87.3%



一 美化委員の A さんは、委員会活動の一環として教室環境を整えるために、黒板の横に花を生けた花瓶を置き、「豊かな学びは整った環境から」という標語を短冊に書いて掲示することになりました。次の会話は、そのために書道担当の先生に相談した際のやり取りです。あとの「一」と「二」の問題に答えなさい。

〔先生〕 標語を書くに当たって、どのような思いや考えがありますか。

〔A さん〕 私は、毛筆で文字を書いて、標語を見た人に落ち着いた穏やかな気持ちになってもらいたいと思っています。

〔先生〕 それはいいですね。では、そのために漢字はどの書体を選んで書いたらよいでしょうか。

〔A さん〕 仮名の柔らかさに合わせて、漢字は全て「ア」で書こうと思います。

〔先生〕 その他に、どのようなことに気を付けたらよいでしょうか。

〔A さん〕 標語は、みんなが見て読みやすく、意味がしっかりと伝わるのが大切だと考えています。中学校の国語科の書写の授業では、漢字よりも仮名を少し小さめに書くことと読みやすくなると学習しました。また、文字と行の「イ」を揃えようとすると、文字の大きさと周囲の余白のバランスを工夫することにより、作品全体の「ウ」に気を配って書きたいと思っています。

〔先生〕 そうですね。学習したことを生かして、効果的な標語の短冊を制作してください。それでは、実際に書いてみましょう。

二 〔A さん〕 先生との会話を踏まえ、作品の制作に取り組みました。次のアからエの文は、A さんが制作した四点の作品に対する、A さんによる自己評価文です。アからエの自己評価文に対応する作品として、最も適切なものを、あとの 1 から 4 の中からそれぞれ「一」ずつ選びなさい。 41 51 61 71

ア 行の中心を整える構成を意識することができず、文として読みづらいために、標語の内容が伝わりにくい作品になってしまいました。

イ 文字の大きさを適切に整えることはできたものの、字間や左右の余白に偏りが生じてしまい、全体構成として不安定な作品になってしまいました。

ウ 字間や左右の余白は適切に整えることはできたものの、文字の大きさを適切に整えることができませんでした。

エ 字間や左右の余白と文字の大きさととのバランスを適切にすることができ、全体構成が整った作品を制作することができました。この作品が、見る人にとって最も読みやすく、標語の内容が伝わりやすいのではないかと思います。

生活や社会における書の目的や用途と表現効果や風趣との関わりに関する問題例

書道Ⅰ 第2学年

生徒が制作した作品に対して適切な会話文(鑑賞文)を選択する問題

- 「書道Ⅰ」における「A表現」の「漢字の書」で必ず学習する楷書と行書について、その書風を適切に捉えることを問う問題。
- 鑑賞文の中では、それぞれの書風を形づくる「書を構成する要素」「表現性」「表現効果、風趣」といった〔共通事項〕の観点について、基本的な知識・用語による平易な表現で示されている。これらの観点から、それぞれの作品の書風を分析的に捉えるための資質・能力を測る。
- また、生徒たちの学校での生活の中での場面で効果的な表現及び文言を「表現効果、風趣」の観点から捉えることを求める。

正答 二(二) ア 3、ウ 2、エ 1

通過率 二(二)

ア 85.9% ウ 80.3% エ 70.6%



- 【Aさんたちの会話文】
- 【Aさん】「ア」の作品は、収筆や折れの角ばった印象の用筆と、流線的でキレイのある運筆から、鋭さと迫力を感じますね。部活動の練習を始める際に見ると頑張れそうな気がするのですが、体育館の入り口や部室に飾るのはどうでしょうか。
- 【Bさん】「イ」の作品は、柔らかくなめらかな運筆から、力強さとともにゆるやかな流れを感じますね。心を静めたい時などに、この作品に癒やされそうなので、図書室に飾るのはどうでしょうか。
- 【Cさん】「ウ」の作品は、落ち着いた運筆と明るく品格が感じられる余白から、穏やかで優しい気持ちにしてくれそうですね。一日の始まりにみんなが目にするのでできる昇降口に飾るのはどうでしょうか。
- 【Dさん】「エ」の作品は、丸みのある起筆や筆圧の変化が豊かな右払いの用筆、力強い運筆から、落ち着きと重厚感を感じます。授業に臨む際にみんなが目にするのでできる教室に飾るのはどうでしょうか。
- 【Eさん】「エ」の作品は、古典に基づく「漢字仮名交じりの書」の創作に取り組みました。次の【イ】と【ロ】の問題に答えなさい。
- 【イ】 次の【Aさんたちの会話文】では、自ら制作した1から4の【生徒の作品】を、学校内のどこに掲示したらよいかについて話し合っています。それぞれの発言がどの作品について話しているのかを考え、空欄【ア】から【エ】に当てはまるものとして、最も適切なものを、あとの1から4の中からそれぞれ1つずつ選びなさい。 11 12 13 14

表現と鑑賞の学習を相互に関連付けて考えることに関する問題例

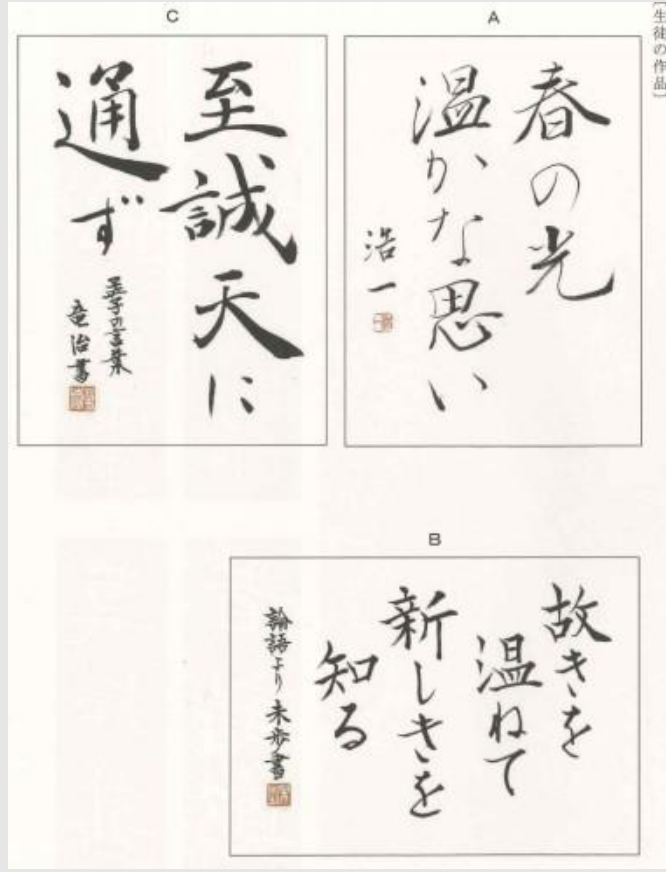
書道Ⅰ 第2学年

古典に基づく「漢字仮名交じりの書」の創作について、参考とした古典を、制作の意図に対応させて古典それぞれの表現性・表現効果を捉えて選択する問題

- 制作の意図、制作した作品、参考にした古典について、書風や表現効果を捉えて関係付けることを求める問題。
- 表現と鑑賞の学習を相互に関連付けながら、〔共通事項〕の観点等を活用し、書風を形づくる「書を構成する要素」を起点にして「表現性」「表現効果・風趣」を捉えるための資質・能力を測る。

正答 二(一) ア B 1、ウ C 2

通過率 二(一)
ア 37.5% ウ 5.9%



二 Aさんのクラスでは、古典に基づく「漢字仮名交じりの書」の創作に取り組みました。次の(一)と(二)の問題に答えなさい。

(一) 次のアからウは「制作の意図」、AからCは「生徒の作品」、1から5は「作品の制作に当たって参考にした古典の例」です。まず、アからウの制作の意図に対応する作品として、最も適切なものを、あとのAからCの中からそれぞれ「一つずつ」選びなさい。次に、アからウの制作の意図に対して、作品の制作に当たって参考にした古典として、最もふさわしいものを、あとの1から5の中からそれぞれ「一つずつ」選びなさい。81 91 101

〔制作の意図〕

ア 鋭さのある用筆・運筆から生まれる、緻密な線質や字形、全体の印象を生かしたいと思いました。

イ 点画のつながりを意識した、なめらかなリズム感のある用筆・運筆から生まれる、繊細で流麗な線質や字形、全体の上品な印象を生かしたいと思いました。

ウ 抑揚のある用筆・運筆から生まれる、躍動感や軽快さが感じられる線質や字形、全体の印象を生かしたいと思いました。

5

第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 芸術ワーキンググループ 委員名簿

(敬称略・五十音順)

新井 浩	福島大学人間発達文化学類特任教授、日本教育大学協会全国美術部門前代表
稲 満美	世田谷区立世田谷中学校 校長
大泉 義一	早稲田大学教授
◎ 大坪 圭輔	武蔵野美術大学名誉教授、公益社団法人日本美術教育連合前代表理事
岡本 美津子	東京藝術大学大学院映像研究科教授
加藤 眞太郎	愛知県立愛知商業高等学校教諭
加藤 泰弘	東京学芸大学教育学研究科教授
小池 研二	横浜国立大学教育学部教授
○ 齊藤 忠彦	信州大学学術研究院教育学系／教育学部音楽教育教授
佐藤 真菜	鳥取県立美術館専門員
原 クミ	福岡県教育庁福岡教育事務所主幹指導主事兼社会教育室長
廣田 和人	さいたま市立大谷場中学校教頭
藤井 康子	大分大学教育学部教授
道越 洋美	静岡県藤枝市教育委員会教育部教育政策課主席指導主事
水戸 博道	明治学院大学心理学部長・教授
森 公一	同志社女子大学特任教授
山内 尚	宮城県仙台三桜高等学校校長
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

◎主査、○主査代理